



第25回学生生活実態調査報告書

キャンパスライフ

25th Tokushima Univ. Campus Life



徳島大学

The University of Tokushima

ま え が き

キャンパスライフ―第25回学生生活実態調査報告書―をお届けします。この調査は、本学学部生の生活の実態や要望を把握し、今後の修学支援並びに福利厚生等の改善に資する基礎資料を得る目的で、平成23年11月に、5学部の学生全員にアンケートを実施しました。その結果が纏まりましたので報告致します。本報告書には、①基本事項、②住居・通学、③収入・支出、④健康状態、⑤食事、⑥学生生活上の問題点、⑦修学状況、⑧課外活動、⑨進路・就職などについて、全部で79問の質問により調査されたアンケート結果に加えて、その結果から得られた各学部の現状と課題、これらをまとめた総括と提言が報告されています。

さて近年、少子化が招来し、平成4年度の205万人を境に18歳人口は減少を続け、平成23年度には120万人台にまで落ち込み、10年後には110万人台になると見込まれています。一方、大学の入学定員は、平成4年度の54万人から平成12年度には60万人に達し、現在でも約61万人となっています。一昨年春、全国の高校から大学・短大に現役で進学した生徒の割合は、過去最高の54.4%で7年連続上昇中でしたが、昨年は減少、それでも53.9%でした。我が国の大学教育も、マーチン・トロウの指摘する「ユニバーサル段階」に達し、「大学全入時代」を迎えています。したがって、知識、学習力・学習意欲、興味・関心、資質・能力、自主・自立性、職業観などの面で、多様な学生が本学にも入学しています。

本学は、「明日を目指す学生の多様な個性を尊重して、人間性に富む人格の形成を促す教育を行い、優れた専門的能力と、自立して未来社会の諸問題に立ち向かう進取の気風を身につけた人材の育成に努める」を教育理念としています。この目標に向かって一路、学生、教職員が一丸となってすばらしい大学を目指して努力しているところです。しかし残念ながら、「大学全入時代」を迎え、入学後に将来の夢を持たず、目的意識・学習意欲を失い、留年や退学、また精神的に不安定に陥る学生が増加しているのも事実です。

教育の目的が「人づくり」であることを考えるとき、「こころある若い学生」を育てるためには、日頃の授業は勿論のこと、学生の立場に立ったきめ細かい正課外の教育支援や学生生活支援が不可欠であり、一人一人の学生に合った適切な指導を行っていくことがわれわれ教職員の責務であります。したがって、本報告書が、「人づくり教育」の現場で大いに活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、徳島大学学生支援センター学生生活支援室運営会議の委員の先生方および学務部職員の方々には、この調査に関してアンケート項目の設定から、調査の実施、集計、結果の分析まで、ご多忙の中すべての事項について精力的に遂行していただき、早期に報告書を作成していただきましたことに対し、石村和敬支援室長をはじめとする皆さんに心から敬意を表すとともに深く感謝申し上げます。また、調査にご協力いただいた学部生の皆さんにもこの場を借りて感謝致します。本学が「最高学府」、「良識の府」、「教育の現場」、「考える人間のサンクチュアリ」であることを祈念して。

平成24年3月

徳島大学理事・副学長(教育担当)
学生支援センター長

和田 眞

目 次

まえがき	1
序 章 学生生活実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 略語等の表示等	5
7 調査票の回収状況	5
調査票「平成23年度 学生生活実態調査（学部学生対象）」	7
第1章 住居・通学について	19
1-1 住居区分	19
1-2 1か月の家賃	19
1-3 住居満足度	20
1-4 住居（部屋）の紹介・斡旋者	21
1-5 通学方法	21
1-6 通学時間	22
1-7 通学中の交通事故	23
第2章 収入・支出について	24
2-1 家庭の年収	24
2-2 授業料の免除について（年収が500万円未満の家庭）	24
2-3 1か月の平均収入額【自宅外通学者】	25
2-4 保護者からの援助額【自宅外通学者】	26
2-5 1か月の平均支出額【自宅外通学者】	27
2-6 1か月の平均の食費【自宅外通学者】	27
2-7 経済状況	28
2-8 奨学金	28
2-9 1週間のアルバイト従事日数	29
2-10 1週間のアルバイト従事時間数	29
2-11 アルバイトと勉強	30
2-12 アルバイトの目的	30
2-13 アルバイトの種類	31
2-14 アルバイト収入	31
2-15 アルバイトの紹介者	32
2-16 アルバイトのトラブル内容	33
第3章 健康状態について	34
3-1 睡眠時間	34
3-2 気になる症状	35
3-3 喫煙について	35
3-4 飲酒について	37
第4章 食事について	39
4-1 朝食	39
4-2 昼食	40
4-3 夕食	40

4-4	昼食の利用場所	40
4-5	弁当を食べる場所	41
4-6	学生食堂について感じる事	42
第5章	学生生活上の問題点	44
5-1	大学生活の意義	44
5-2	悩みと相談	45
5-3	迷惑行為	47
5-4	教職員・友人との交流	53
5-5	大学事務室の対応への満足度	56
5-6	盗難等犯罪被害	56
第6章	修学状況について	59
6-1	本学を選んだ理由と所属学部の満足度	59
6-2	単位取得状況と授業出席状況	60
6-3	授業の満足度	61
6-4	授業予習復習時間とカンニング経験	62
6-5	オフィスアワーの利用状況	63
6-6	図書館の利用状況	64
第7章	課外活動について	66
7-1	サークル加入状況	66
7-2	活動状況	67
7-3	加入の動機	68
7-4	サークルに加入していない理由	70
7-5	学生行事	72
7-6	大学祭への参加状況	74
7-7	ボランティア活動	75
7-8	まとめと今後の課題	76
第8章	進路・就職について	77
8-1	進路情報入手手段	77
8-2	就職・進学希望について	77
8-3	就職先選択で重視するもの	78
8-4	就職情報の入手方法	78
8-5	希望する職種	79
8-6	就職セミナーへの参加	79
8-7	就職支援センターの利用状況	80
第9章	学部の現状と課題	82
9-1	総合科学部	82
9-2	医学部	84
9-3	歯学部	85
9-4	薬学部	88
9-5	工学部	90
第10章	総括と提言	92
あとがき		94

序章 学生生活実態調査の概要

1 調査の目的

この調査は、本学学生の学生生活の実状を把握し、今後の福利厚生等の改善及び修学支援に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査の組織

この調査は、徳島大学学生委員会及び学生生活支援室運営会議の次の委員が中心となり実施し、分析作業を行った。

区 分	氏 名	所 属	職 名
委 員 長	石 村 和 敬	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教 授
委 員	水 島 多喜男	大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部	教 授
委 員	川 西 千恵美	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教 授
委 員	田 中 栄 二	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教 授
委 員	佐 野 茂 樹	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教 授
委 員	鎌 田 磨 人	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教 授
委 員	井 崎 ゆみ子	保 健 管 理 セ ン タ ー	准 教 授
委 員	金 成 海	国 際 セ ン タ ー	教 授
委 員	福 井 義 浩	全 学 共 通 教 育 セ ン タ ー	副センター長
委 員	山 本 真由美	学 生 相 談 室	室 長
委 員	平 井 松 午	就 職 支 援 セ ン タ ー	副センター長

3 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する学部学生全員 5,854 人（平成 23 年 11 月 1 日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を対象とした。

調査方法は、各学部の学務(教務)係及び学生委員会委員の協力を得て調査票を配付し、回答用紙(マークシート)を回収した。

4 調査の時期

この調査は、平成 23 年 11 月 2 日から 11 月 10 日まで実施し、11 月 1 日現在の実状について回答を依頼し、回答用紙の提出期限を 11 月 11 日までとした。

5 調査の内容

調査項目については、調査の継続性も考慮しながら必要な見直しを行い、収入・支出については、年収 500 万円未満の家庭に対する奨学金の受給状況を削除したこと、また、学生生活上の問題点については、サークル内での迷惑行為に関する設問を新たに追加する等の変更を加え、79 項目とした。

6 略語等の表示等

本報告書中、一部の表記を以下に示すような略語表記として記載した。

また、端数処理の関係で合計が100%にならない場合や、複数回答の場合で実回答者数を母数としてそれに対する各設問の回答数を百分率で表したグラフには合計が100%を超えるものがある。

工学部昼間コース → 工学部昼間

工学部夜間主コース → 工学部夜間

平成18年度学生生活実態調査（学部学生） → 前々回調査

平成21年度学生生活実態調査（学部学生） → 前回調査

7 調査票の回収状況

調査票の回収状況について、調査対象者5,854人のうち回答数は3,625人で、回収率は61.9%であった。学部・学科別、学年別、男女別の回収状況は次表のとおりである。

平成23年度学生生活実態調査集計表

<学部・学科別>

学 部	学 科	対象者数	回 収 数	回収率(%)
総 合 科 学 部	人 間 文 化 学 科	307	117	38.1
	社 会 創 生 学 科	306	108	35.3
	総 合 理 数 学 科	200	101	50.5
	人 間 社 会 学 科	186	51	27.4
	自 然 シ ス テ ム 学 科	101	43	42.6
	計	1,100	420	38.2
医 学 部	医 学 科	614	540	87.9
	栄 養 学 科	200	173	86.5
	保 健 学 科	525	345	65.7
	計	1,339	1,058	79.0
歯 学 部	歯 学 科	267	199	74.5
	口 腔 保 健 学 科	59	58	98.3
	計	326	257	78.8
薬 学 部	薬学部共通学科	171	42	24.6
	薬 学 科	162	140	86.4
	創 製 薬 科 学 科	71	58	81.7
	計	404	240	59.4
工 学 部	建 設 工 学 科	412	280	68.0
	機 械 工 学 科	534	321	60.1
	化 学 応 用 工 学 科	356	80	22.5
	生 物 工 学 科	262	214	81.7
	電 気 電 子 工 学 科	502	286	57.0
	知 能 情 報 工 学 科	404	305	75.5
	光 応 用 工 学 科	215	164	76.3
	計	2,685	1,650	61.5
合 計	5,854	3,625	61.9	

<学年別>

学 年	対象者数	回収数	回収率(%)
1 年	1,364	964	70.7
2 年	1,384	732	52.9
3 年	1,379	772	56.0
4 年	1,368	843	61.6
5 年	171	143	83.6
6 年	188	171	91.0
計	5,854	3,625	61.9

<男女別>

学 部	回 収 率(%)		
	男	女	計
総合科学部	35.8	39.8	38.2
医学部	76.1	81.6	79.0
歯学部	74.4	83.5	78.8
薬学部	56.3	62.6	59.4
工学部	60.6	67.7	61.5
計	60.5	64.5	61.9

平成23年度 学生生活実態調査(学部学生対象)

平成23年11月
徳島大学

お願い

この調査は、みなさんの学生生活を把握し、今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、平成23年11月1日現在、本学に在学する学部学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入してください。他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変とは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

【調査実施期間 11月2日～11月10日】

回答用紙(マークカード)の提出期限は、11月11日(金)です。

所属学部の学務(教務)係へ提出してください。

回答記入上の注意事項

- 1 平成23年11月1日現在で記入してください。
- 2 回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで、その番号を塗りつぶして回答してください。
ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 マークカードの裏面に自由記入欄を設けていますので、問30については気になる具体的症状を、問44についてはその具体的内容を、また学生生活全般について気づいたことや要望したいこと、あるいは期待することがあれば、自由に記入してください。
- 5 *は、前回からの継続調査項目です。

学生生活実態調査票

A. 基本事項について

1 *	【全員】 性別はどれですか。	1. 男 2. 女
2 *	【全員】 所属学部はどこですか。	1. 総合科学部 2. 医学部 3. 歯学部 4. 薬学部 5. 工学部(昼間コース) 6. 工学部(夜間主コース)
3 *	【全員】 学科はどこですか。	総合科学部 〔1. 人間社会学科 2. 自然システム学科〕 〔3. 人間文化学科 4. 社会創生学科〕 〔5. 総合理数学科〕 医 学 部 〔1. 医学科 2. 栄養学科 3. 保健学科〕 歯 学 部 〔1. 歯学科 2. 口腔保健学科〕 薬学部 〔1. 薬学科 2. 創製薬科学科〕 (薬学部1～2年生については、〔1. 薬学科 2. 創製薬科学科〕の選択は不要) 工 学 部 〔1. 建設工学科 2. 機械工学科〕 〔3. 化学応用工学科 4. 生物工学科〕 〔5. 電気電子工学科 6. 知能情報工学科〕 〔7. 光応用工学科〕
4 *	【全員】 何年生ですか。	1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生 4. 4年生 5. 5年生 6. 6年生

B. 住居・通学について

5 *	【全員】 あなたの住居区分はどれですか。	1. 自宅(家族と同居) 2. アパート・マンション(家族と別居) 3. 学生寮 4. 間借り(下宿) 5. 親戚・知人宅 6. 国際交流会館・日垂会館 7. その他
6 *	【学生寮及び国際交流会館・日垂会館居住者を除く自宅外通学者】 一ヶ月の家賃(電気代、ガス代等諸費用を除く)はいくらですか。	1. 3万円未満 2. 3万円～4万円未満 3. 4万円～5万円未満 4. 5万円～6万円未満 5. 6万円～7万円未満 6. 7万円～8万円未満 7. 8万円以上

7 *	【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 現在の住居に満足していますか。	1. 満足している 3. どちらともいえない 5. 不満足である	2. ほぼ満足している 4. やや不満足である
8 *	【問7で「4」、「5」を選んだ方】 その理由はどれですか。 (複数回答可)	1. 狭い 3. 通学に不便 5. 周りの環境が良くない	2. 家賃が高い 4. 日常生活に不便 6. その他
9 *	【学生寮及び国際交流会館・日亜会館居住者を除く自宅外通学者】 住居(部屋)の紹介・斡旋者は誰ですか。	1. 徳大生協 3. 友人・先輩 5. 新聞・雑誌	2. 徳大教員 4. 不動産業者 6. その他
10 *	【全員】 あなたの主な通学方法は 何ですか。	1. 徒歩 3. バイク(原付自転車・自動二輪) 5. バス・JR	2. 自転車 4. 自動車
11 *	【全員】 通学時間はどのくらい ですか。	1. 15分未満 3. 30分～1時間未満 5. 2時間以上	2. 15分～30分未満 4. 1時間～2時間未満
12 *	【全員】 通学中に交通事故をおこ したことはまたは交通事 故の被害にあったことが ありますか。	1. ある 2. ない	

C. 収入・支出について

13 *	【全員】 あなたの家庭の年収(税 込み)はどれくらいです か。	1. 250万円未満 3. 500～750万円未満 5. 1,000～1,500万円未満	2. 250～500万円未満 4. 750～1,000万円未満 6. 1,500万円以上
14 *	【問13で「1」又は「2」 を選んだ方(年収500万 円未満の家庭)】 授業料免除についてお尋 ねします。(直近のもの でお答えください。)	1. 授業料免除は知っているが申請していない 2. 全額免除を受けている 3. 半額免除を受けている 4. 申請したが不許可だった 5. 授業料免除制度を知らなかった	
15 *	【自宅外通学者】 あなたの1か月の平均収 入額(保護者等からの援 助を含む)はいくらです か。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満 7. 20～25万円未満 9. 30万円以上	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15～20万円未満 8. 25～30万円未満

16 *	【自宅外通学者】 保護者等からの援助はいくらありますか。	1. 全くない 3. 3～5万円未満 5. 7～10万円未満 7. 15～20万円未満	2. 3万円未満 4. 5～7万円未満 6. 10～15万円未満 8. 20万円以上
17 *	【自宅外通学者】 あなたの1か月の平均支出額(授業料支出は除く)はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満 7. 20～25万円未満 9. 30万円以上	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15～20万円未満 8. 25～30万円未満
18 *	【自宅外通学者】 1か月の平均の食費はどのくらいですか。	1. 2万円未満 3. 3～4万円未満 5. 5～7万円未満	2. 2～3万円未満 4. 4～5万円未満 6. 7万円以上
19 *	【全員】 現在の経済状況について	1. ゆとりがある(家計支持者からの仕送りのみ) 2. 普通(あまり不自由を感じない) 3. やや苦しい(奨学金あるいは軽度のアルバイトで充足できる) 4. 大変苦しい(定期的なアルバイトが必要である)	
20 *	【全員】 奨学金を受けていますか。	1. 現在受給中であり、受給の継続を希望する 2. 現在受給中であるが、更に増額を希望する 3. 現在受給中であるが、次は希望しない 4. 現在受給していないが、新たに受給を希望する 5. 現在受給していないし、希望もしない	
21 *	【全員】 現在、アルバイトをしていますか。1週間の平均従事日数は何日ですか。	1. いいえ 3. 2日 5. 4日	2. 1日 4. 3日 6. 5日以上
22 *	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 1週間の従事時間は合計何時間ですか。(移動に要する時間も含む)	1. 5時間未満 3. 10～15時間未満 5. 20～25時間未満	2. 5～10時間未満 4. 15～20時間未満 6. 25時間以上
23 *	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 アルバイトによって勉学に支障が生じていますか。	1. 支障が生じている 2. 支障は生じていない	
24 *	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 アルバイトは主にどのような目的でしていますか。(複数回答可)	1. 生活費や学費のため 2. レジャー・旅行費のため 3. 日常の娯楽・嗜好品等のため 4. 高額商品(自動車・パソコン等)購入のため 5. 課外活動費のため 6. 社会体験のため 7. その他	
25 *	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 どのようなアルバイトをしていますか。(複数回答可)	1. 家庭教師・学習塾講師等 3. 受付・接客 5. 商品販売 7. 飲食店等手伝い 9. 引越しスタッフ	2. 会場設営・撤収、搬入搬出 4. イベントスタッフ補助 6. 商品等整理・包装 8. 駐車場整理員 10. その他

26 *	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 あなたのアルバイトによる収入（1か月平均）はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15万円以上
27 *	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 そのアルバイトはどこで（誰に）紹介してもらいましたか。 〈複数回答可〉	1. 学務部 2. 友人・先輩 3. アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ 4. 教員 5. 家族 6. 自分で開拓 7. その他	
28 *	【問21で「2」～「6」を選んだ方】 アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。 〈複数回答可〉	1. ない 2. 給料の不払い 3. 給料が契約より低かった 4. 客とのトラブル 5. 解雇 6. 雇用者との意見の不一致 7. 事故・ケガ 8. その他	

D. 健康状態について

29 *	【全員】 1日の睡眠時間は平均何時間ですか。（休日を除く）	1. 4時間未満 3. 6～8時間未満 5. 10時間以上	2. 4～6時間未満 4. 8～10時間未満
30 *	【全員】 現在気になる症状は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 特にない 3. アトピー・アレルギー 5. 動悸・不整脈 7. 咳・痰 9. その他（マークカードの裏面の自由記入欄に具体的な症状を書いてください）	2. 頭痛・めまい 4. 不眠 6. 下痢・便秘 8. 生理痛・生理不順
31 *	【全員】 喫煙について	1. 喫煙したことはない 2. ときどき喫煙している 3. 毎日喫煙している 4. 過去に喫煙していたが、現在はしていない 5. その他	
32 *	【全員】 飲酒について	1. 飲酒はしない 2. たまに飲酒する 3. 1週間に1～2日飲酒している 4. 1週間に3～4日飲酒している 5. 1週間に5日以上飲酒している	

33 *	【問32で「4」～「5」を選んだ方】 1回に飲む量はどのくらいですか。 (日本酒ならコップ1杯(180ml)、ビールなら中瓶1本(500ml)を1台としてお答えください。)	1. 1合未満 2. 1合以上2合未満 3. 2合以上3合未満 4. 3合以上4合未満 5. 4合以上5合未満 6. 5合以上
---------	--	--

E. 食事について

34 *	【全員】 朝食を取りますか。	1. 毎日食べる 2. 時々食べる 3. ほとんど食べない
35 *	【全員】 昼食を取りますか。	1. 毎日食べる 2. 時々食べる 3. ほとんど食べない
36 *	【全員】 夕食を取りますか。	1. 毎日食べる 2. 時々食べる 3. ほとんど食べない
37 *	【全員】 昼食は主にどこを利用していますか。	1. 常三島第1食堂(生協) 2. 常三島第2食堂(工学部構内) 3. 蔵本会館食堂 4. 弁当を購入 5. 自宅(下宿) 6. その他
38 *	【問37で「4」を選んだ方】 どこで食べていますか。	1. 教室 2. 屋外 3. 自宅(下宿) 4. その他
39 *	【全員】 学生食堂について感じていることはどれですか。 (複数回答可)	1. メニューが少ない 2. 昼食時の混雑がひどい 3. 値段が高い 4. 開店時間が短い 5. 場所が不便 6. 特にない 7. その他

F. 学生生活上の問題点

40 *	【全員】 あなたは、大学生活で何を第一においた生活をしていますか。	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 勉強や研究</td> <td style="width: 50%;">2. サークル活動</td> </tr> <tr> <td>3. 趣味・娯楽</td> <td>4. 豊かな人間関係を結ぶこと</td> </tr> <tr> <td>5. 将来を考えた資格等の取得</td> <td>6. アルバイト</td> </tr> <tr> <td>7. 特に重点もなく程々に</td> <td>8. ただ何となく</td> </tr> <tr> <td>9. その他</td> <td></td> </tr> </table>	1. 勉強や研究	2. サークル活動	3. 趣味・娯楽	4. 豊かな人間関係を結ぶこと	5. 将来を考えた資格等の取得	6. アルバイト	7. 特に重点もなく程々に	8. ただ何となく	9. その他											
1. 勉強や研究	2. サークル活動																					
3. 趣味・娯楽	4. 豊かな人間関係を結ぶこと																					
5. 将来を考えた資格等の取得	6. アルバイト																					
7. 特に重点もなく程々に	8. ただ何となく																					
9. その他																						
41 *	【全員】 現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。 (複数回答可)	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. ない</td> <td style="width: 50%;">2. 経済状態</td> </tr> <tr> <td>3. 勉学</td> <td>4. 交友・異性関係</td> </tr> <tr> <td>5. 身体的不調</td> <td>6. 家族関係</td> </tr> <tr> <td>7. 自分の性格</td> <td>8. 就職や進路</td> </tr> <tr> <td>9. 生き甲斐や目標</td> <td>10. その他</td> </tr> </table>	1. ない	2. 経済状態	3. 勉学	4. 交友・異性関係	5. 身体的不調	6. 家族関係	7. 自分の性格	8. 就職や進路	9. 生き甲斐や目標	10. その他										
1. ない	2. 経済状態																					
3. 勉学	4. 交友・異性関係																					
5. 身体的不調	6. 家族関係																					
7. 自分の性格	8. 就職や進路																					
9. 生き甲斐や目標	10. その他																					
42 *	【全員】 悩み事は誰に相談しますか。 (複数回答可)	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 友人</td> <td style="width: 50%;">2. 家族</td> </tr> <tr> <td>3. 教員</td> <td>4. 学生相談室</td> </tr> <tr> <td>5. 学務(教務)係</td> <td>6. その他</td> </tr> <tr> <td>7. 誰にもしない</td> <td></td> </tr> </table>	1. 友人	2. 家族	3. 教員	4. 学生相談室	5. 学務(教務)係	6. その他	7. 誰にもしない													
1. 友人	2. 家族																					
3. 教員	4. 学生相談室																					
5. 学務(教務)係	6. その他																					
7. 誰にもしない																						
43 *	【全員】 あなたは、クーリング・オフの制度について知っていますか。	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. はい</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td>2. いいえ</td> <td></td> </tr> </table> <p>※クーリング・オフとは 普通、一度成立した契約は一方的に解消できないが、分割払いの割賦販売、セールスマンによる訪問販売などで勧誘にのせられ、つい不要なものの購入契約をした消費者が、一定の期間(通常8日間)内なら違約金無しに契約の解除(契約申し込みの解除)ができるという制度。</p>	1. はい		2. いいえ																	
1. はい																						
2. いいえ																						
44 *	【全員】 あなたは、これまで迷惑行為を受けたことがありますか。 (複数回答可)	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 受けたことはない</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td>2. 悪徳商法に引っかかった</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. いたずら電話を受けた</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. ストーカーにあった</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 大学内でセクハラを受けた</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 大学内でアカハラを受けた</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. サークルを辞めようとしたが、辞めさせてもらえなかった</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. サークル内でいじめ(嫌がらせを含む)を受けた</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. カルトの勧誘を受けた</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. その他</td> <td></td> </tr> </table> <p>(※「2」～「10」を選んだ方：マークカードの裏面の自由記入欄に具体的内容を書いてください)</p> <p>※アカハラ(アカデミック・ハラスメント)とは 大学などで、指導教員等が学生に対し、教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと。</p>	1. 受けたことはない		2. 悪徳商法に引っかかった		3. いたずら電話を受けた		4. ストーカーにあった		5. 大学内でセクハラを受けた		6. 大学内でアカハラを受けた		7. サークルを辞めようとしたが、辞めさせてもらえなかった		8. サークル内でいじめ(嫌がらせを含む)を受けた		9. カルトの勧誘を受けた		10. その他	
1. 受けたことはない																						
2. 悪徳商法に引っかかった																						
3. いたずら電話を受けた																						
4. ストーカーにあった																						
5. 大学内でセクハラを受けた																						
6. 大学内でアカハラを受けた																						
7. サークルを辞めようとしたが、辞めさせてもらえなかった																						
8. サークル内でいじめ(嫌がらせを含む)を受けた																						
9. カルトの勧誘を受けた																						
10. その他																						
45 *	【問44で「5」又は「6」を選んだ方】 誰に相談しましたか。	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 友人</td> <td style="width: 50%;">2. 家族</td> </tr> <tr> <td>3. 教員</td> <td>4. 学生相談室</td> </tr> <tr> <td>5. 学務(教務)係</td> <td>6. その他</td> </tr> <tr> <td>7. 誰にもしない</td> <td></td> </tr> </table>	1. 友人	2. 家族	3. 教員	4. 学生相談室	5. 学務(教務)係	6. その他	7. 誰にもしない													
1. 友人	2. 家族																					
3. 教員	4. 学生相談室																					
5. 学務(教務)係	6. その他																					
7. 誰にもしない																						

46 *	【全員】 学生相談室を利用したことがありますか。	1. 利用したことがある 2. 学生相談室があるのは知っているが、利用したことはない 3. 学生相談室があるのを知らない
47 *	【全員】 あなたは、今年度中に教員と話や質問をしたことがありますか。	1. 全くない 2. 1回はある 3. 2～3回程度したことがある 4. 4～6回程度したことがある 5. 7回以上したことがある
48 *	【全員】 あなたには、親しい教職員や親しい友人はいますか。 (複数回答可)	1. 親しい教職員がいる 2. 親しい友人がいる 3. 親しい教職員も親しい友人もない
49 *	【全員】 大学事務室の対応に満足していますか。	1. 満足している 2. ほぼ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満足である 5. 不満足である
50 *	【全員】 あなたは、入学以来、盗難(盗み)、強盗、傷害、痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。 (複数回答可)	1. 被害に遭ったことはない 2. 盗難(盗み) 3. 強盗 4. 傷害 5. 痴漢 6. その他
51 *	【問50で「2」～「6」を選んだ方】 あなたは、どこで被害に遭いましたか。 (複数回答可)	1. 大学構内 2. 自宅、アパート 3. 路上 4. その他

G. 修学状況について

52 *	【全員】 あなたが本学を選んだ主な動機は何ですか。 (複数回答可)	1. 地元の大学だから 2. 親や親戚に進められたから 3. 高校の進学指導による 4. 希望する学部・学科があったから 5. 就職等将来を考慮して 6. 国立大学だから 7. ただ何となく 8. 先輩や友人に勧められて 9. その他
---------	---	---

53 *	【全員】 あなたは所属している学部・学科に満足していますか。	1. 満足している 2. ほぼ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満足である 5. 不満足である
54 *	【全員】 これまでの単位の取得状況はどうですか。	1. 全部取得できた 2. ほとんど取得できた 3. 半分程度取得できた 4. あまり取得できなかった 5. 全く取得できなかった
55 *	【全員】 授業によく出席していますか。	1. 全部出席している 2. ほとんど出席している 3. 出たり出なかつたりしている 4. ほとんど出席していない 5. 全く出席していない
56 *	【問55で「3」～「5」を選んだ方】 授業を欠席する理由はどれに当たりますか。 (複数回答可)	1. 勉学の意欲がわからない 2. 授業に魅力がない 3. 授業が理解できない 4. その他
57 *	【問56で「3」を選んだ方】 あなたは、授業内容が理解できなかった場合、どのようにしていますか。 (複数回答可)	1. 教室で質問する 2. 教員に後で個人的に質問する 3. 先輩・友人と議論・相談する 4. 参考書等で調べる 5. 気になるけど何もしない 6. 気にしない 7. その他
58 *	【全員】 あなたは、受講している授業に満足していますか。	1. 満足している 2. ほぼ満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満足である 5. 不満足である
59 *	【問58で「3」～「5」を選んだ方】 授業が満足できない理由は何ですか。 (複数回答可)	1. 授業内容が難し過ぎて理解できない 2. 授業内容がつまらない 3. 教員の教え方に工夫が足りない 4. 受講者が多すぎて精神集中できない 5. 休講が多すぎる 6. 試験・レポートが多すぎる 7. 単位認定が厳しすぎる 8. その他
60 *	【全員】 あなたは、1日平均何時間くらい授業の予習・復習をしていますか。 ただし、試験期間中は除いてください。	1. 1時間未満 2. 1時間以上～2時間未満 3. 2時間以上～3時間未満 4. 3時間以上～4時間未満 5. 4時間以上～5時間未満 6. 5時間以上

61 *	【全員】 あなたは、カンニングをしたことがありますか。	1. はい 2. いいえ
62 *	【全員】 オフィスアワーを利用したことがありますか。	1. 利用したことがある 2. オフィスアワーがあるのは知っているが、利用したことはない 3. オフィスアワーがない 4. オフィスアワーについて知らない
63 *	【問62で「2」を選んだ方】 オフィスアワーを利用しない主な理由は何ですか。	1. 講義内容を充分理解できるのでその必要がない 2. オフィスアワーの時間が短く利用しにくい 3. オフィスアワーの時間以外にいつでも利用できる 4. 教員に相談するのが面倒である 5. 講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいか分からない 6. その他
64 *	【全員】 図書館を利用していますか。	1. 毎日 2. 週2, 3回程度 3. 週1回程度 4. 月2, 3回程度 5. 月1回程度 6. 利用しない 7. その他
65	【問64で「6」を選んだ方】 あなたが図書館を利用しない理由は何ですか。 (複数回答可)	1. 蔵書の種類や数に不満足 2. 図書の貸し出しや返却が面倒 3. 案内が不十分で使いにくい 4. 図書館員が不親切 5. 開館時間が短い 6. 資料のコピーが取りにくい 7. その他

H. 課外活動について

66 *	【全員】 学内外のサークル（以下同好会を含む）に加入していますか。（文化系及び体育系サークルの両方に加入している人は、主として活動している方に回答してください）	1. 学内の文化系サークルに加入している 2. 学内の体育系サークルに加入している 3. 学外の文化系サークルに加入している 4. 学外の体育系サークルに加入している 5. 以前加入していたが現在は加入していない 6. 加入したことがない
67 *	【問66で「1」～「4」を選んだ方】 サークルでの活動状況はどうですか。	1. かなり熱心に活動している 2. まあまあ熱心に活動している 3. どちらともいえない 4. あまり活動していない 5. ほとんど活動していない 6. その他

68 *	【問66で「1」～「4」を選んだ方】 サークルに加入した主な動機は何ですか。	1. サークルの活動内容に魅力があったから 2. 集団活動に魅力があったから 3. 友人を得るため 4. 先輩・友人に勧められたから 5. 学生生活を豊かにするため 6. 健康増進のため 7. 自分の特技を伸ばすため 8. 自分の短所を補うため 9. その他
69 *	【問66で「5」、「6」を選んだ方】 サークルに加入していない主な理由は何ですか。	1. 学業の妨げとなる 2. 練習がいやである 3. 活動するための体力・能力に自信がない 4. 個人の自由が束縛される恐れがある 5. 集団生活についていけない 6. アルバイトをしているので時間的余裕がない 7. 通学に時間がかかるので時間的余裕がない 8. 個人の金銭的負担が多すぎる 9. 魅力的なサークルがない 10. 特に理由はないが何となく
70 *	【全員】 新入生歓迎会や大学祭などの学生行事について、どのように考えていますか。	1. 必要だと考えており積極的に参加している 2. 必要だと思うがあまり参加していない 3. どちらでもいい 4. なくてもいい
71 *	【全員】 あなたは今年の大学祭に参加しますか。	1. はい 2. いいえ
72 *	【全員】 あなたは、大学入学後ボランティア活動をしたことがありますか。	1. 個人でしたことがある 2. 団体（組織）に入ってしまったことがある 3. ない

1. 進路・就職について

73 *	【全員】 進路を考える上での情報入手手段は何ですか。 (複数回答可)	1. 指導教員 2. 就職担当教員 3. 先輩・知人 4. 直接会社に照会 5. 就職情報誌・新聞・マスコミ 6. 家族等 7. 大学内資料 8. インターネット 9. 就職支援センターの情報 10. その他
74 *	【全員】 就職希望ですか。進学希望ですか。	1. 就職 2. 進学 3. その他

75 *	【問74で「1」を選んだ方】 就職先選択で重視するものは何ですか。 (複数回答可)	1. 収入 2. 就職先の将来性・安定性 3. 就職先の社会的評価 4. 能力を発揮できること 5. 勤務地の地理的条件 6. 研究評価をしてしてくれるところ 7. 先端技術を駆使しているところ 8. 人間関係の良いこと 9. その他
76 *	【問74で「1」を選んだ方】 就職に際して、会社等の情報をどのように入手しましたか。 (複数回答可)	1. 就職担当教員 2. 就職支援センターの情報又は就職相談員 3. 新聞・就職情報誌 4. インターネット 5. ダイレクトメール 6. 直接会社等に照会 7. 会社等説明会 8. 先輩・知人 9. 親・親戚 10. その他
77 *	【問74で「1」を選んだ方】 希望職種は何ですか。 (複数回答可)	1. 大学・官公庁の教育・研究職 2. 1以外の公務員 3. 技術職 4. 企業等の研究職 5. 総合職・営業職 6. 事務職 7. 教育職 8. 専門職(医師・看護師等) 9. マスコミ関係 10. その他
78 *	【全員】 大学が行う就職セミナーに参加しますか。	1. 参加する 2. 時間があれば参加する 3. 参加しない
79 *	【全員】 本学の就職支援センターを利用したことがありますか。	1. 現在も利用している 2. 以前に利用したことがある 3. 利用したことがない

ご協力ありがとうございました

第1章 住居・通学について

1-1 住居区分 (図1-1)

全体では、最も多いのがアパートとマンション(59%)、次いで自宅(28%)となっている。学生寮は2%であり前回の調査と変わりはない。間借り(下宿)は10%、親戚・知人宅は1%である。前回の調査と比べると、自宅の比率が3%減り、それに対してアパートとマンションの居住者の比率が2%増えている。学部別に見ると、前回の調査と比べて、自宅の比率は薬学部を除きどの学部においても減少傾向にあるが、その中で特に工学部夜間は38%から30%と8ポイント減少しており、入学者の出身地域がより広範囲なものに変化した可能性がある。自宅の比率が歯学、薬学部で19%と最も低く、県外からの入学者が多いことを反映していると考えられる。これに対して、医学・工学部は28%前後であり、地元出身者を全学平均の水準で受け入れていることを示し、また、総合科学部の40%という高い数値は、学部における地元出身者の比率の高さを反映していると考えられる。

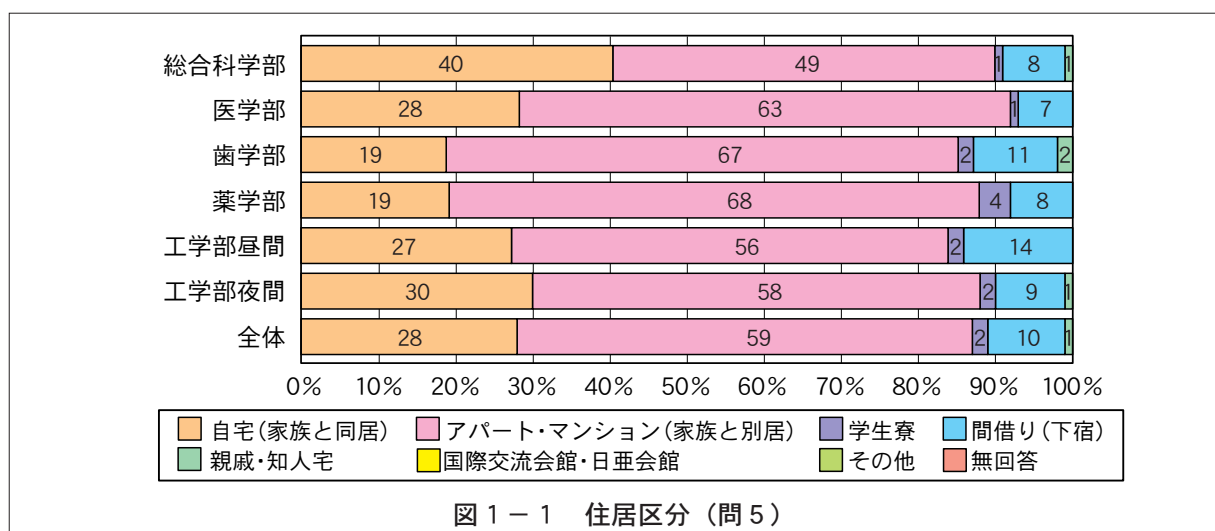


図1-1 住居区分(問5)

1-2 1か月の家賃 (図1-2)

全体では5万円未満が82%を占めている。前回の調査に比べ、4%の増加である。3万円未満の学生

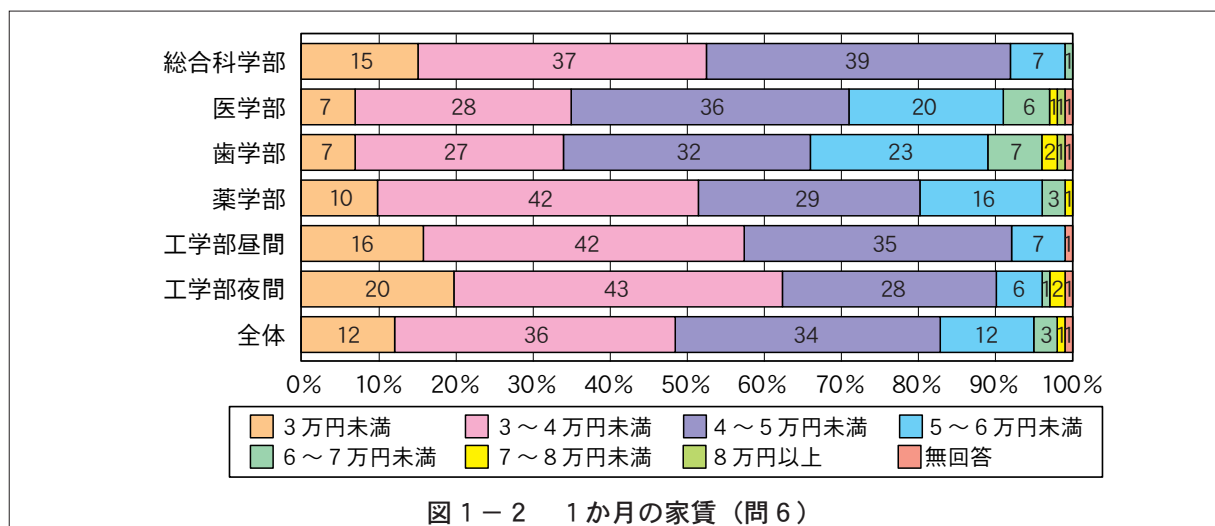


図1-2 1か月の家賃(問6)

が8%から12%に増加し、3万円から4万円未満の学生も1%増加している。市内の家賃相場の変化との比較が必要であるが、生活費を切り詰めるなかで安い家賃の住居を選ぶ傾向が現れているといえよう。医学部（5万円以上が28%）、歯学部（5万円以上が33%）については、同時にアルバイト収入が他学部 비해低い傾向が見られるため、仕送りなどにより比較的高い家賃の支払いが可能になっていると考えられる。

1-3 住居満足度 (図1-3①, 図1-3②)

自宅や学生寮以外のアパート等に住んでいる自宅外通学者における住宅満足度では、「満足している」が全体の42%あり、「ほぼ満足している」が34%で両者あわせると76%である。逆に言えば4人に一人(22%)が、何らかの理由で不満を持っている。不満の理由の上位は「狭い(23%)」、続いて「周りの環境がよくない(20%)」、「日常生活に不便(19%)」、「その他(19%)」となっている。女子は日常生活の不便さ、周囲の環境への不満が高い。住居の不満足理由の「その他」の具体的内容については自由記入欄に記入がないが、今後はその内容の把握が必要であると考えられる。住居の立地は安全な学生生活に直接関わると考えられるので、学生の不満については徳大生協を含む斡旋業者に伝え、学生への住宅紹介・斡旋の参考としてもらうことも必要と考えられる。

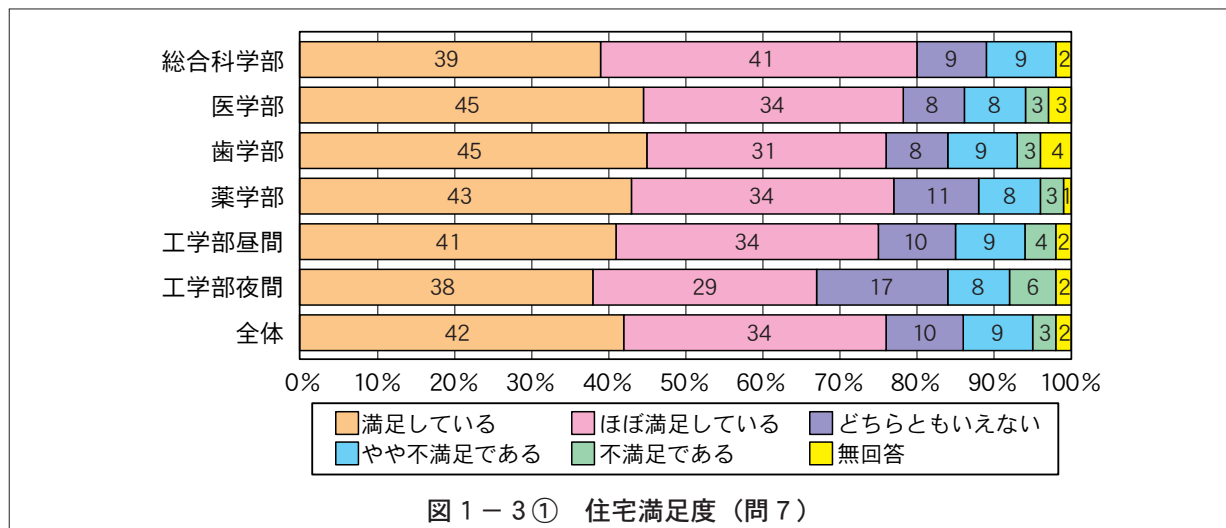


図1-3① 住宅満足度 (問7)

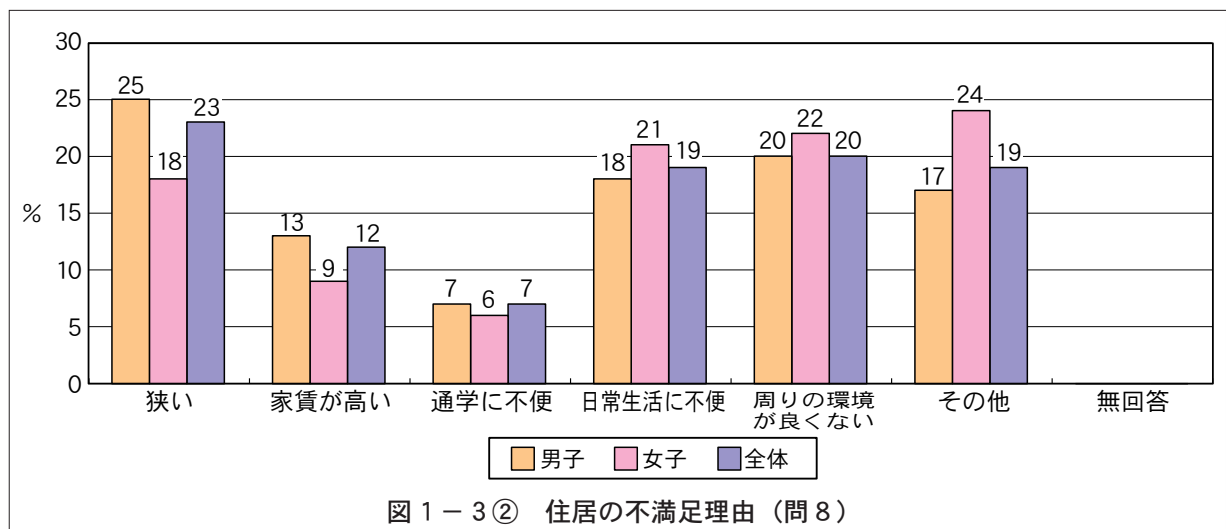


図1-3② 住居の不満足理由 (問8)

1-4 住居（部屋）の紹介・斡旋者（図1-4）

学生寮を除く自宅外通学者の住宅斡旋者は、不動産業者が45%であるが、新聞・雑誌の場合も最終的には不動産業者を通すことになると考えられるので、両者を併せると46%となり、次いで徳大生協の42%となる。これらで全体の88%を占め、前回の調査より大きな変化はない。学部別では医学部、歯学部で不動産業者による斡旋の比率が高い（それぞれ51%と54%）。これに対し薬学部では逆に徳大生協の斡旋が49%と高く全学平均を超えている。前述した家賃支出において医学部、歯学部が高いことから、蔵本地区における高家賃物件は一般業者が、通常物件は徳大生協が斡旋するという一種の「棲み分け」が成立している可能性がある。分類項目には、県外の実家あるいは実家の営む事業所が徳島市内等に所有する住居に住む場合が立てられていない。そのような場合は「その他」に含まれることになるが、詳細は不明である。いずれにせよ、住居の紹介・斡旋において徳大生協のシェアが高いことから、生協には、前述の「住居の不満足理由」に関する情報収集、斡旋の際の日常的な配慮など、学生生活の質の向上に一層の協力を依頼すべきである。

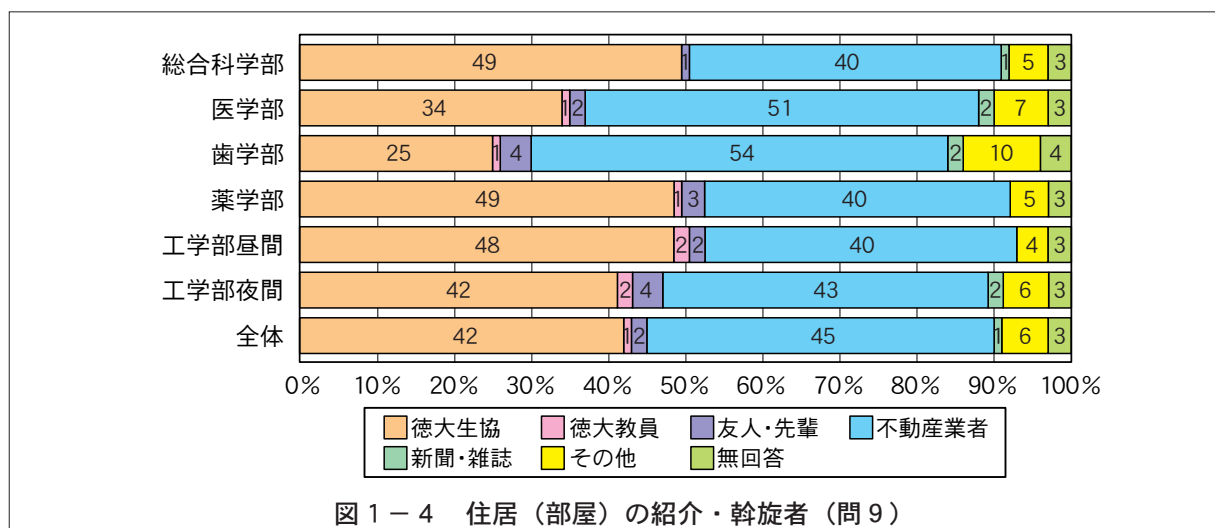


図1-4 住居（部屋）の紹介・斡旋者（問9）

1-5 通学方法（図1-5①, 図1-5②）

全体では自転車通学が71%で最も多い。次いで、バイクが8%、バス・JRなどの公共交通機関を利用する者と徒歩が7%である。男女とも自転車通学が最多で、男子ではこれにバイク、徒歩と続くが、女子はバス・JRなどの公共交通機関、自動車、徒歩の順である。学部別では、バイク・自動車は医学部、歯

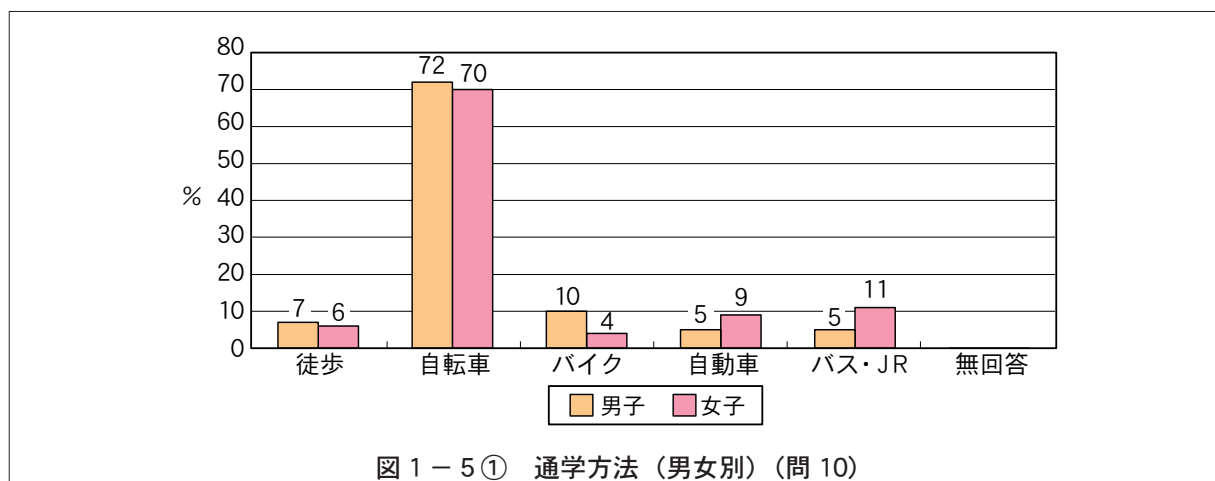
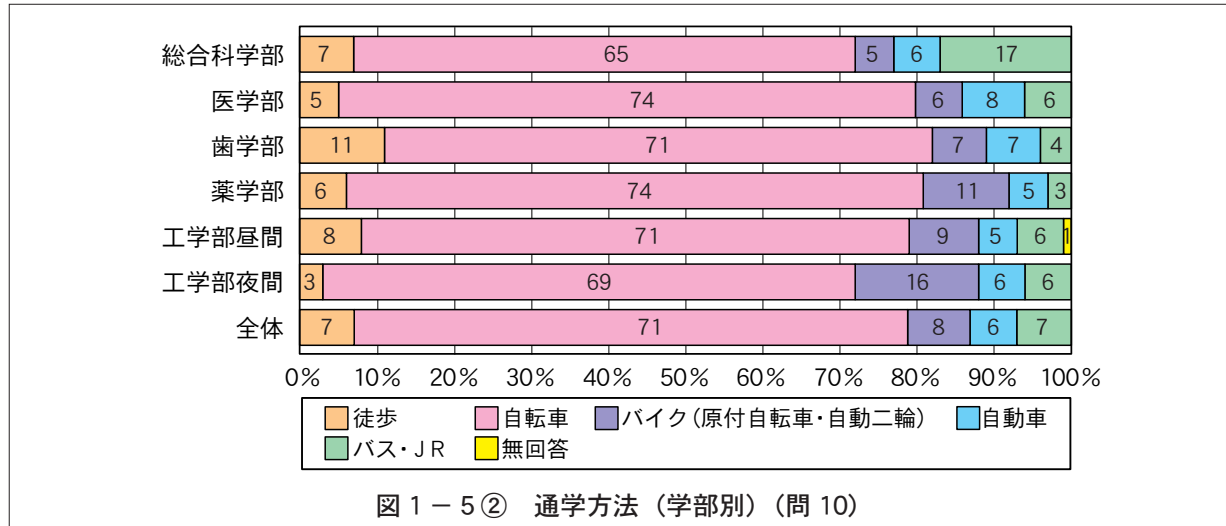


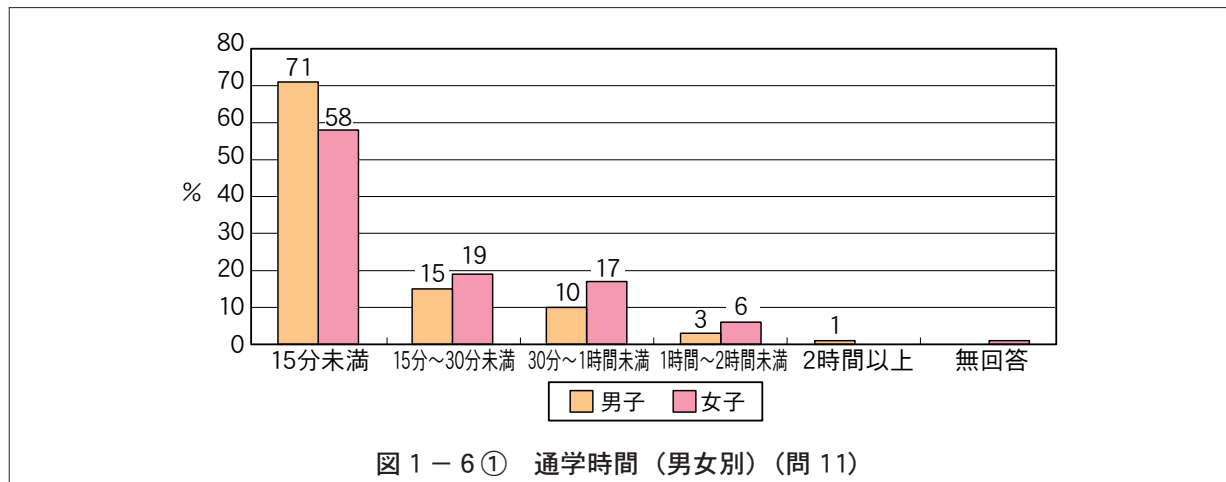
図1-5① 通学方法（男女別）（問10）

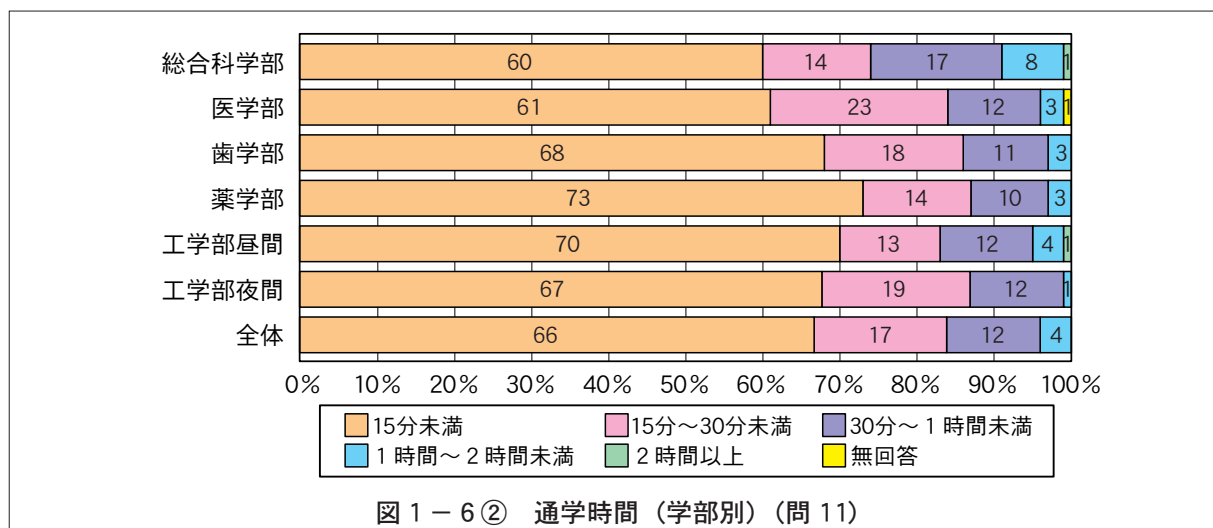
学部、薬学部、工学部昼間ではほぼ14%で一定している。バス・JRの利用が高い総合科学部は地元出身者の多さを反映し、バイク・自動車の利用率が高い工学部夜間は、夜間に便数の減る徳島市の公共交通事情を反映したものと言えよう。留学生用の国際交流会館（北島町）は各キャンパスからの交通事情が良いとは言えない。留学生に学習に便利な居住環境を提供することは、今後とも課題であろう。なお、自由記述欄には、工学部夜間学生から、自動車利用許可の基準を緩和するよう希望がだされている。検討に値すべき事情の場合には柔軟に対応することも必要と考えられる。



1-6 通学時間 (図 1-6①, 図 1-6②)

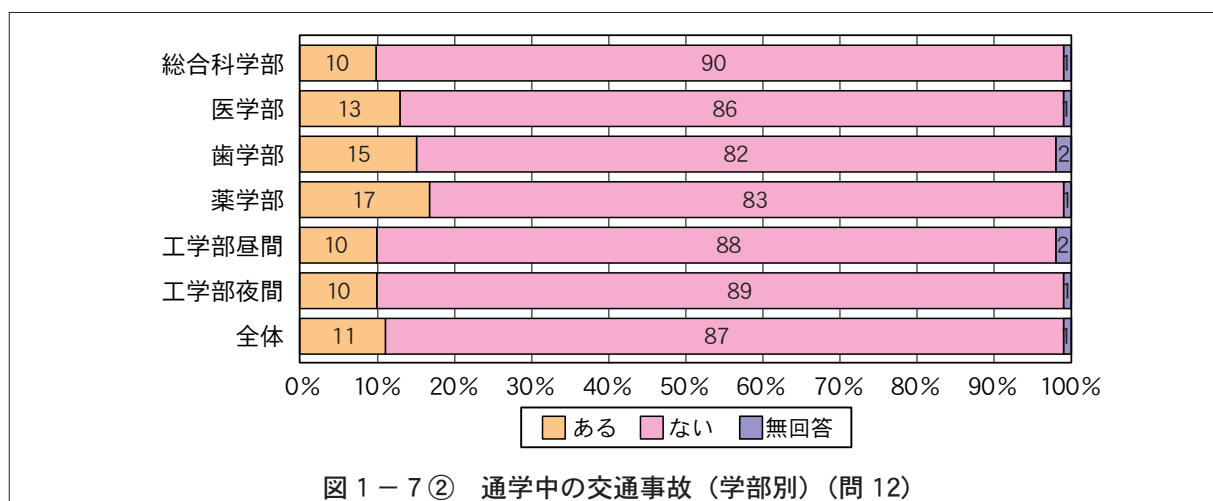
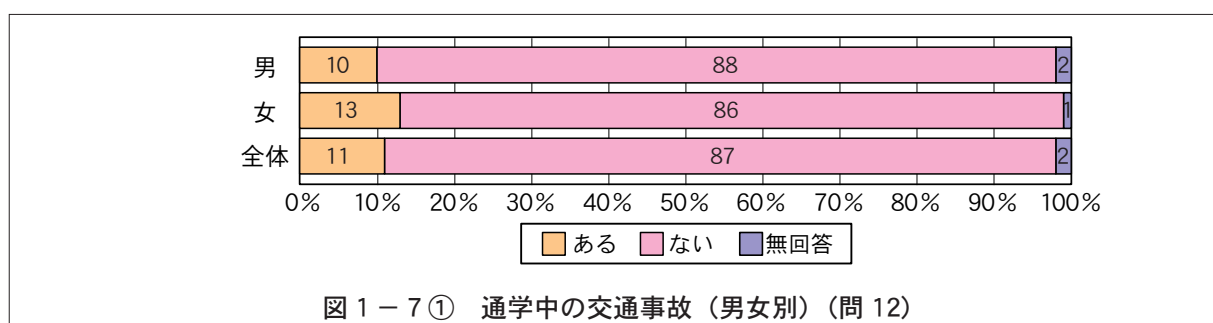
全体では通学時間15分未満が66%と最も多く、15分～30分未満をあわせると83%となり、ほとんどの学生は通学時間が30分未満と短い。ただし、15分以上2時間未満では、女子の比率が男子を上回る。これは、女子には在学中転居を控える傾向があり、共通教育を受講するために蔵本地区から常三島地区に時間をかけて通学することと関係しているのかもしれない。あるいは、自宅通学者の多い総合科学部の女子の事情を反映するものかもしれない。





1-7 通学中の交通事故 (図 1-7 ①, 図 1-7 ②)

短い通学時間にも拘わらず、通学中に交通事故を起こしたり被害に遭った学生が全体の11%にも上る。昨年以降ブレーキのない所謂ピスト・バイクの危険性が指摘されている。自転車であっても死亡事故が起こりうることから、自動車やバイクだけでなく、自転車も含めた運転への注意喚起が必要と考えられる。なお、無回答が1%あるが、これは「授業はなかったがサークルに参加するため大学に行く途中で生じた事故」等、回答に迷いを生じさせた場合の可能性がある。今後設問の工夫が必要かもしれない。



第2章 収入・支出について

2-1 家庭の年収 (図2-1)

前回より、授業料免除や奨学金貸与の参考資料とするために、年収の低いグループ（年収500万円未満のグループ）について細かく分析しており、今回も前回同様250万円未満と250～500万円未満と細かい項目に分けて調査を行った。

家庭の年間収入について、大学全体では250万円未満（10%）、250～500万円（20%）と500～750万円（29%）までで約60%を占め、次いで750～1000万円（18%）、1000～1500万円（10%）、1500万円以上（4%）である。前回の調査時に比べてほとんど変化していないが、無回答が8%に増えているのが気になる。前回、前々回と比べても大きい変化ではないが、この数年間の日本全体の景気が依然として厳しい状況であることを反映したものと考えられる。

なお、この設問においては、学生が家庭の年収をどの程度まで正確に把握しているかという問題点もあることを念頭に置いておく必要があるが、大まかにはその分布が反映されていると思われる。

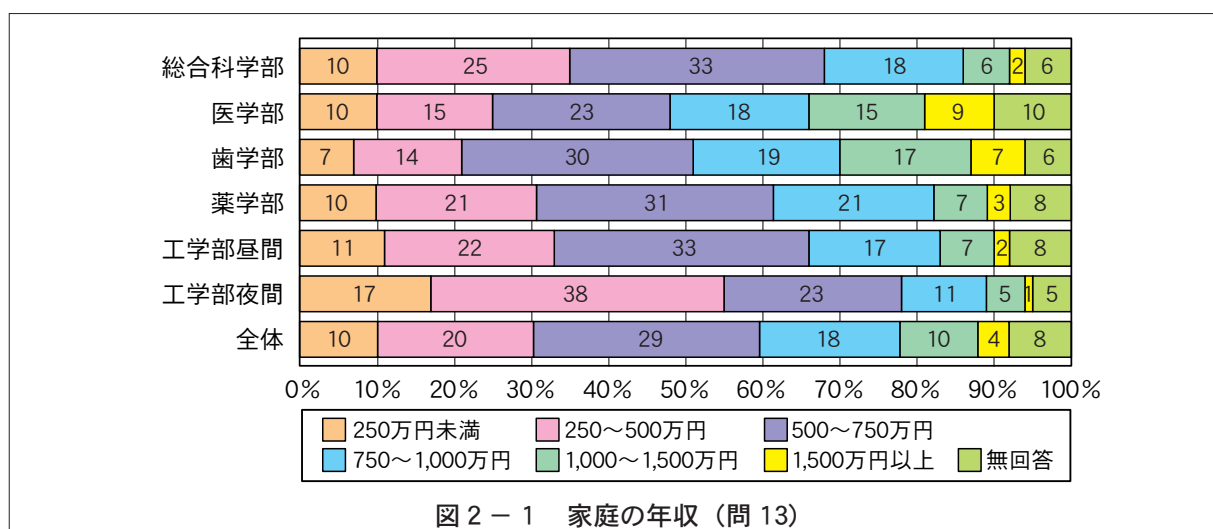


図2-1 家庭の年収 (問13)

学部別に見ると、歯学部学生の家は高収入であるが、それでも年収250万円未満の家庭が7%、年収250～500万円でも14%ある。工学部夜間では年収250万円未満が17%と他の学部と比べて多い。これは前回に比べて8%減少しており、前々回と同じ程度になっている。年収500万円未満は全体の55%を占め、前回、前々回の調査よりさらに悪化している。

全体では年収250万円未満が10%、実数で375人で、年収250～500万円の20%、実数739人と併せて実に1,114人になり、前回調査より100人弱増えている。

次の2-7で出てくる「経済状況」において「大変苦しい」と答えている学生の多くは、年収500万円未満のグループに属すると考えられる。

2-2 授業料の免除について (年収が500万円未満の家庭) (図2-2①, 図2-2②)

授業料の免除状況について、年収が250万円未満の家庭では、「授業料免除は知っているが申請していない」が前回調査（44%）より41%に減少して、「授業料免除を受けている」割合が合計で35%になり前回より2%増加している。また、「申請したが不許可だった」が14%であった。収入的には十分授業料免除対象になると思われるが、免除には成績も加味されるため、アルバイト等で勉学に専念できず、不

許可になった可能性は高い。1回は成績に関係なく授業料免除を行って、それ以降は成績を加味するといった制度であっても良いのかもしれない。

年収が250～500万円未満の家庭では、「授業料免除は知っているが申請していない」が59%で、「授業料免除制度を知らなかった」が12%あり、授業料免除を申請していない割合が合計で71%になっている。これに対して、「全額免除を受けている」が7%、「半額免除を受けている」12%であった。また、「申請したが不許可だった」が9%であった。

年収500万円未満の家庭での、「授業料免除制度を知らなかった」が、あわせて20%もいたことは問題で、前回調査の23%よりは減少しているが周知方法を考える必要がある。

「授業料免除は知っているが申請していない」は41～59%と大変多いようであるが、なぜなのか調査する必要がある。一度申請したが成績で「不許可」になったのだとしたらより一層、一度の受給は検討してみる価値があると思える。

学部別では、工学部夜間で「授業料免除は知っているが申請していない」の割合が47%で、大学全体の53%と比較して少なくなっている。歯学部は、「全額免除を受けている」の割合が17%で、大学全体の11%と比較して多くなっている。

「授業料免除制度を知らなかった」が、薬学部は1%と他学部に比して低く、制度の周知が徹底されている。

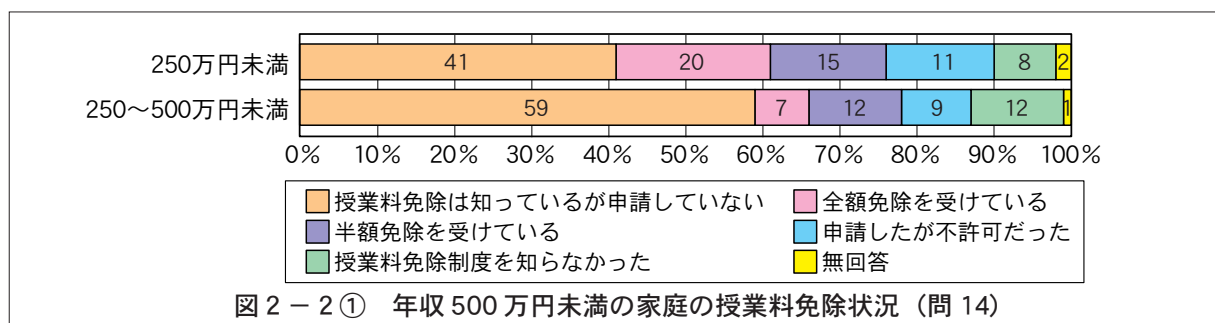


図 2 - 2 ① 年収 500 万円未満の家庭の授業料免除状況 (問 14)

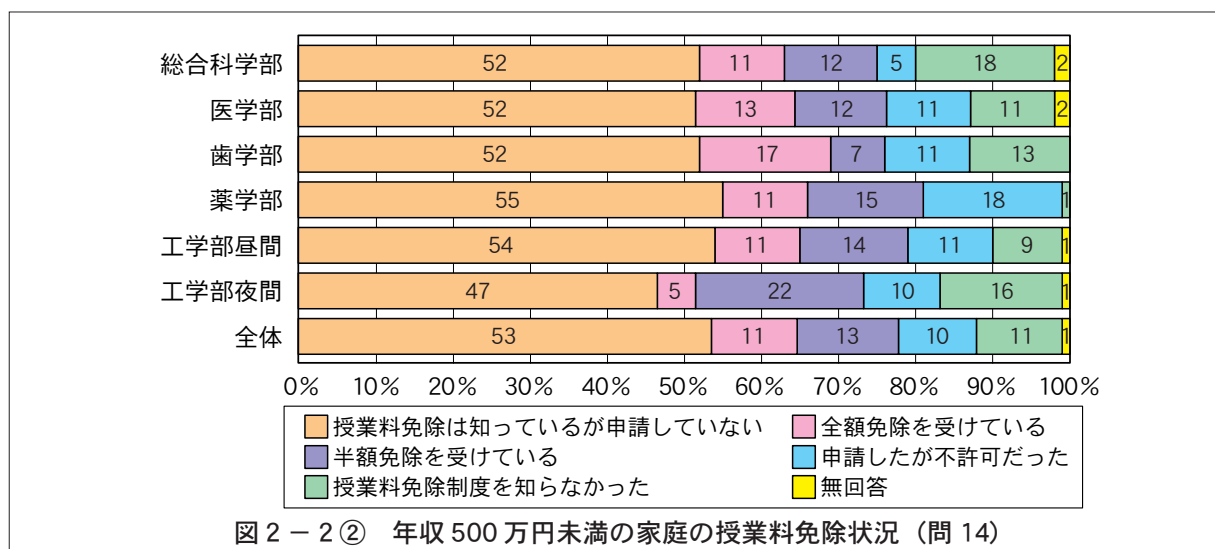


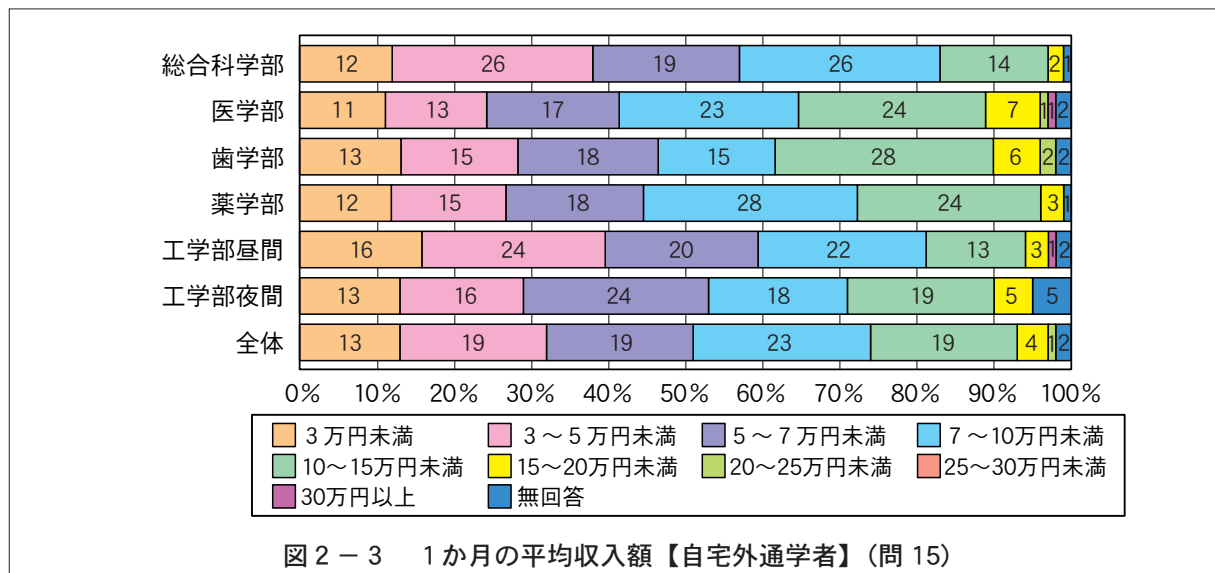
図 2 - 2 ② 年収 500 万円未満の家庭の授業料免除状況 (問 14)

2 - 3 1か月の平均収入額【自宅外通学者】(図 2 - 3)

全体では、自宅外通学者の1か月の平均収入(保護者等からの援助を含む)の最も多い区分は7～10万円未満の23%で、続いて3～5万円未満, 5～7万円未満, 10～15万円未満が同率で19%であり、この4つの区分(3～15万円未満)で80%を占めている。また、3万円以下の区分は13%、15万円以

上の区分は5%である。前回の調査結果では、1カ月の平均収入額3万円未満が11%、3～5万円未満の区分が12%と、5万円以下の区分が合計23%、15万円以上の区分が合計6%であったが、今回の調査では5万円以下の区分が大幅に増加している。15万円以上の区分の割合に変化はほとんど見られない。

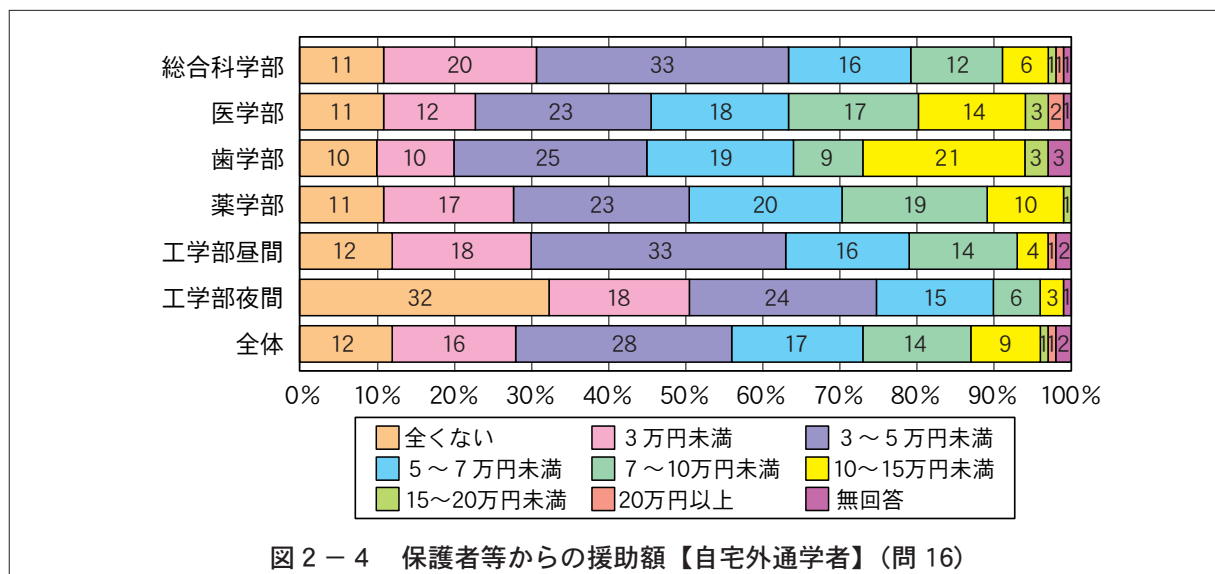
学部別では、医学部と歯学部で、10万円以上の区分の割合が合計で30%を超えている。また、工学部昼間で5万円以下の割合が40%を超えている。



2-4 保護者からの援助額【自宅外通学者】(図2-4)

今回の調査では自宅外通学者のみを対象にしているが、大学全体で、保護者からの援助額で最も多い区分は3～5万円未満の28%である。続いて5～7万円未満の17%と3万円未満の16%になっている。また、「援助が全くない」学生が12%おり、10万円以上援助を受けている学生は約11%いる。

学部別では、7万円以上保護者から援助を受けている学生が、医学部と歯学部では30%を超えている。工学部夜間では、3万円未満の区分が18%で、「全く援助を受けていない」の32%と合わせると3万円以下の援助となる学生が50%を超えている。これは、仕事やアルバイトなどにより収入がある学生が多いためと思われる。



2-5 1か月の平均支出額【自宅外通学者】(図2-5)

この項目でも自宅外通学者のみを対象にしているが、大学全体で、1か月の平均支出額（授業料支出は除く）で最も多い区分は3～5万円未満の29%で、続いて5～7万円未満の23%、7～10万円未満の21%になっている。これらの3つの区分を合わせた場合（3～10万円未満）では73%になる。また、10万円以上の区分が11%で、前回調査と大きな変化はないが、3万円以下の区分が14%（前回9%）とやや増加している。

学部別では、医学部と歯学部で、1か月に7万円以上支出している学生が40%を超えているが、総合科学部と工学部（昼間と夜間）では23～33%で、やや割合が少なくなっている。また、3万円未満の平均支出額の学生が、学部によって異なるが7～23%おり、このことから学生の1～2割は、支出を切り詰めていることが分かる。これらの学生への援助が必要と思われる。

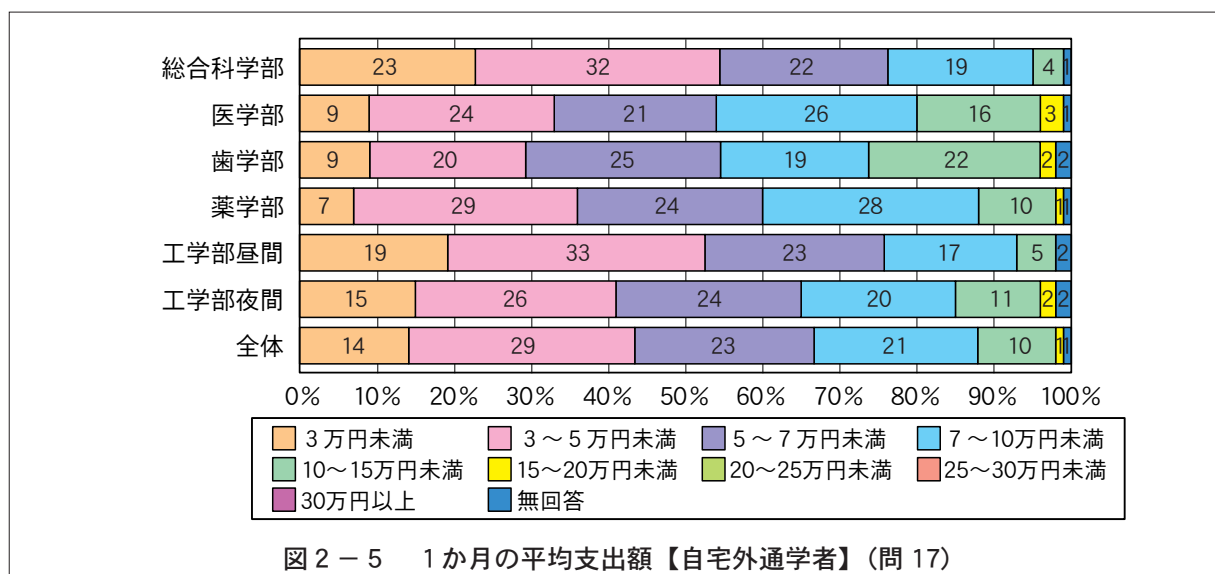


図2-5 1か月の平均支出額【自宅外通学者】(問17)

2-6 1か月の平均の食費【自宅外通学者】(図2-6)

次に、1か月の平均の食費についてであるが、この項目も自宅外通学者を対象にしている。大学全体では、「2～3万円未満」の区分41%が最も多く、「2万円未満」が32%、「3～4万円未満」が18%と続いている。これらの3つの区分を合わせると、4万円未満の区分が約91%になる。また、逆に3万

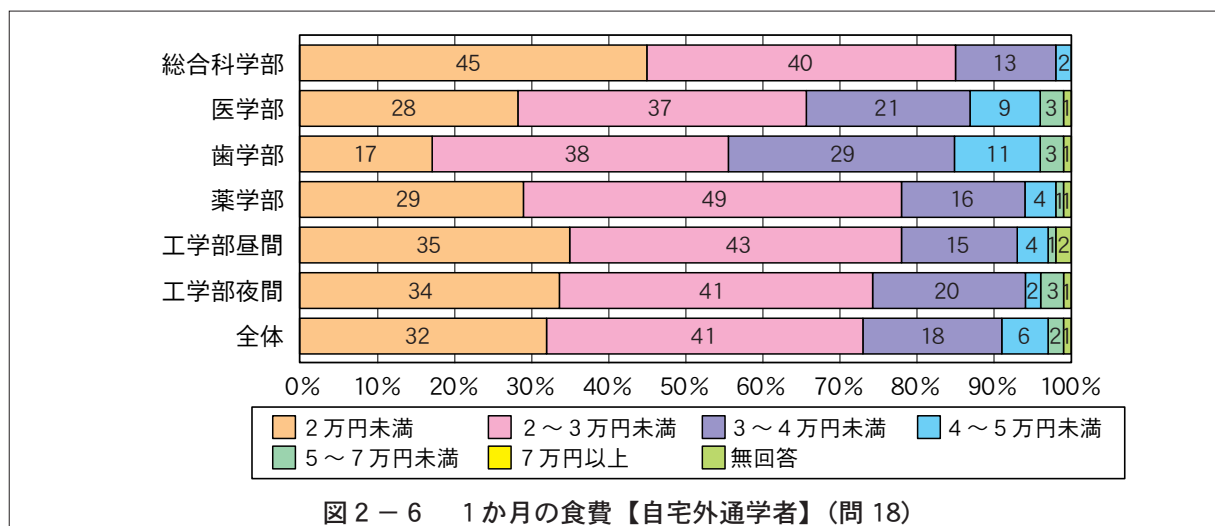


図2-6 1か月の食費【自宅外通学者】(問18)

円以上の区分を合計すると約30%になる。

前回の調査では、「2～3万円未満」が最も多く41%、「2万円未満」が29%、「3～4万円未満」が21%、「4～5万円未満」が6%であった。

学部別では、歯学部では3万円以上が合計で40%以上になっており、他学部と比較すると食費を多く支出していることが分かる。

近年は、食事を削って他の支出へ回す学生も多く、また、栄養食品に頼る学生も増加している。健康な学生生活を過ごすためには、食事をきちんととることが必要であり、食費の変化は今後とも注意していく必要がある。

2-7 経済状況 (図2-7)

この項目からは自宅通学者も含めて全員が対象である。大学全体では、「普通(あまり不自由を感じない)」の区分が最も多く49%となった。続いて、「やや苦しい」の区分が26%、「ゆとりがある(家計支持者からの仕送りのみ)」が15%となっている。また「大変苦しい(定期的なアルバイトが必要である)」と回答した学生が9%おり、経済的に困っている学生が約1割いることが分かる。

前回の調査では、全体で「普通(あまり不自由を感じない)」の区分が48%、「やや苦しい」の区分が27%、「ゆとりがある(家計支持者からの仕送りのみ)」が13%、「大変苦しい(定期的なアルバイトが必要である)」と回答した学生が11%で、今回の調査とほぼ同じ割合であった。

学部別では、医学部、歯学部で「ゆとりがある」と回答した学生が18%でやや多く、また、工学部夜間で「大変苦しい」と回答した学生が15%で多い。

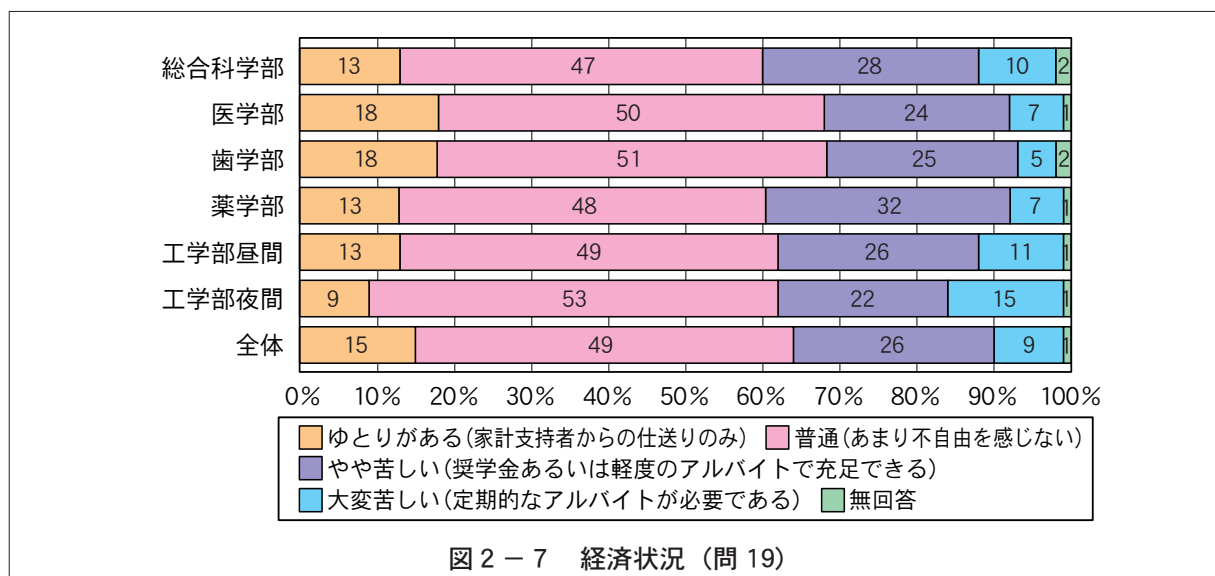
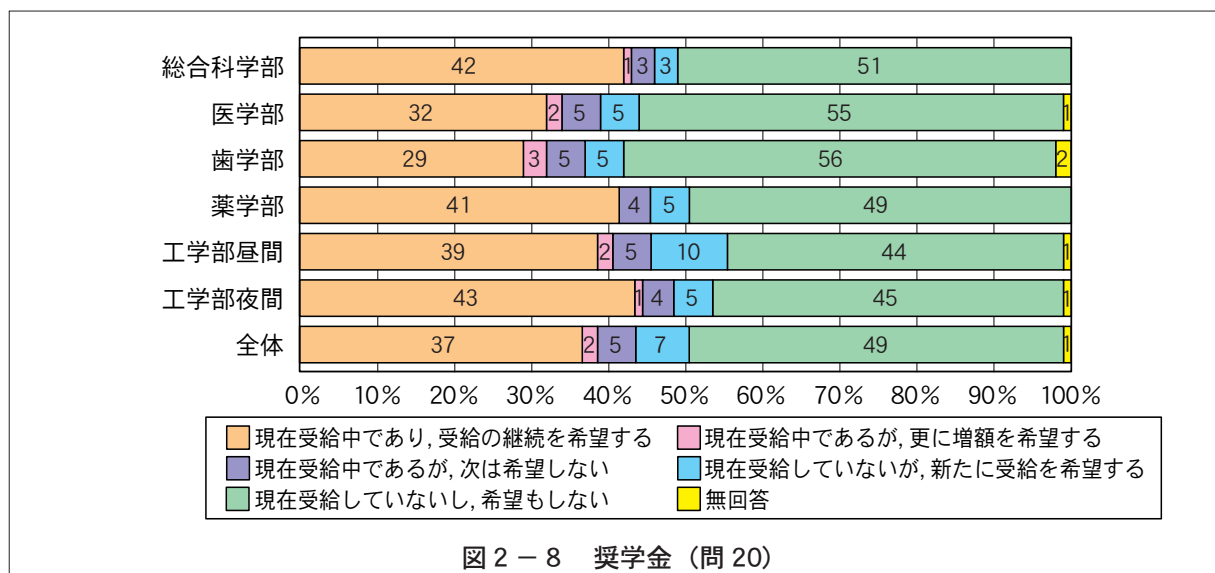


図2-7 経済状況 (問19)

2-8 奨学金 (図2-8)

大学全体では、「現在受給中であり、受給の継続を希望する」が37%あり、これに「現在受給中であるが、更に増額を希望する」2%と「現在受給していないが、新たに受給を希望する」7%を加えると、合計で46%になる。すなわち2人に1人は奨学金の受給を今後も希望している。

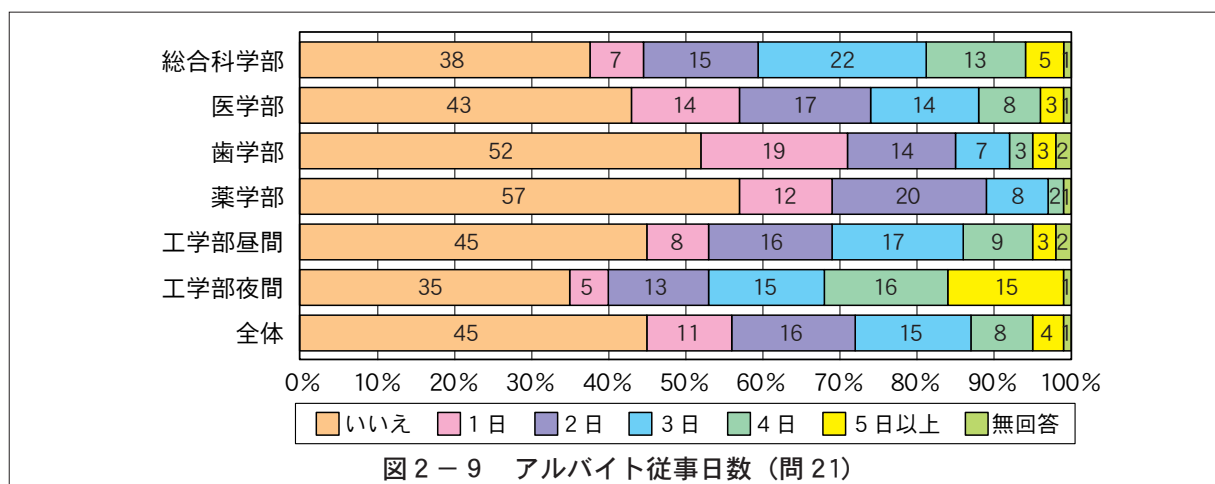
学部別では、工学部(昼間と夜間)で、他学部と比べて希望者がやや多くなっており、歯学部ではやや少なくなっている。



2-9 1週間のアルバイト従事日数 (図 2-9)

大学全体では、アルバイトをしていない学生の割合は45%で、アルバイトをしている学生の割合は、2日している割合が16%、3日している割合が15%、1日している割合が11%、4日している割合が8%で、5日以上が4%となった。アルバイトをしている学生の割合は合計で54%になり、半数以上の学生がアルバイトをしていることが分かる。この結果は前回の調査と同じである。

学部別では、アルバイトをしていない学生の割合が、薬学部で57%とかなり多く、工学部夜間と総合科学部では38%以下でやや少なくなっている。

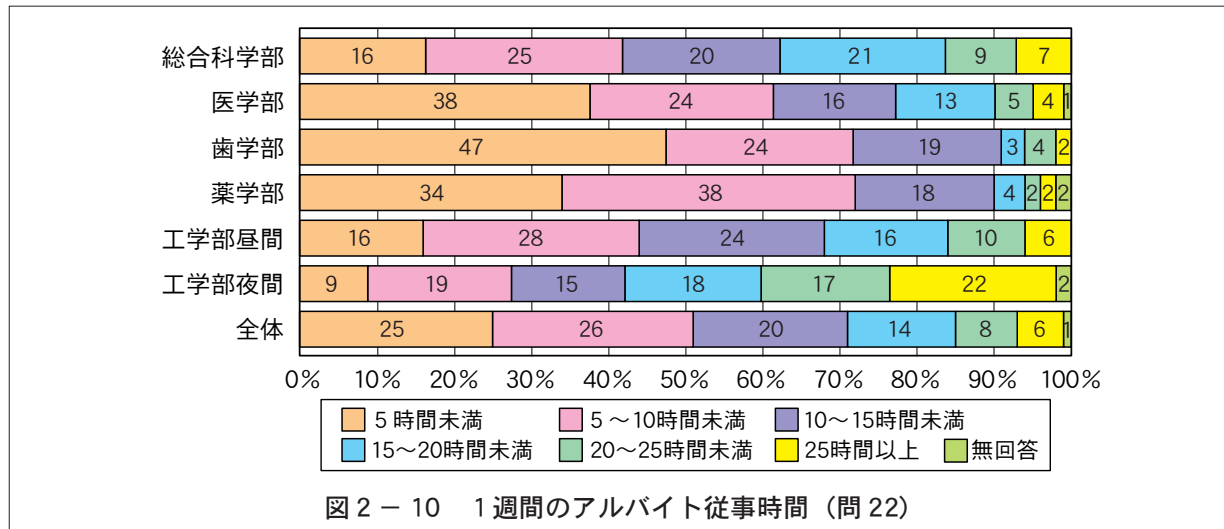


2-10 1週間のアルバイト従事時間数 (図 2-10)

問 21 で、アルバイトをしていると回答した学生に1週間のアルバイトの平均従事時間（移動に要する時間も含む）について尋ねた。大学全体では、5～10時間未満の割合が26%で最も多く、次いで5時間未満25%、10～15時間未満20%、15～20時間未満14%、20～25時間未満8%、25時間以上6%となった。1週間に5時間以上している割合を合計すると74%になり、アルバイトをしている学生の4人に3人が、平均して一日当たり5時間以上のアルバイトをしていることが分かる。

学部別では、工学部夜間で25時間以上が22%と多くなっているが、このコースの性格によるものと

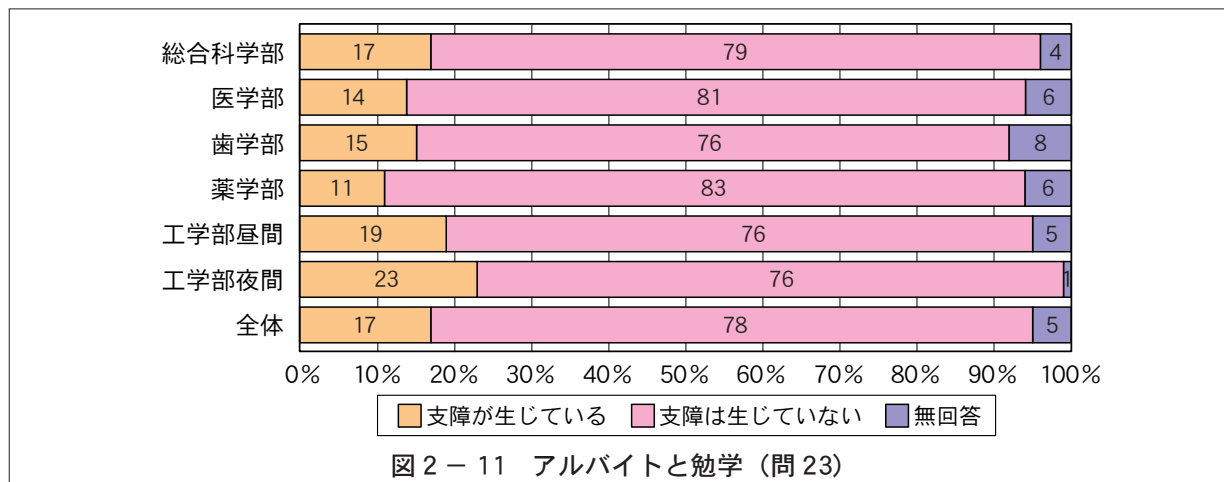
思われる。歯学部では、5時間未満が47%であり、他学部と比較してアルバイトをしている時間数が少なくなっている。2-4に示した自宅外通学者の保護者等からの援助額では、10万円以上が24%と一番多かったことなども影響しているかもしれない。



2-11 アルバイトと勉強 (図 2-11)

アルバイトによって勉強に支障が生じているかを設問した結果である。大学全体では、「支障は生じていない」と答えた学生が78%で、「支障が生じている」と答えた学生は17%であった。「支障が生じている」の割合は、前回の調査と比較しても、変化はみられなかった。ただ、この「支障が生じている」と答えた学生の家庭の年収をみて、年収が低ければ授業料免除などが考えられる。

学部別では、工学部夜間で、「支障が生じている」と答えた学生が23%おり、他学部と比較して多くなっているが、前回調査が全体18%、工学部夜間の33%であったことから減少傾向にあると考えられる。

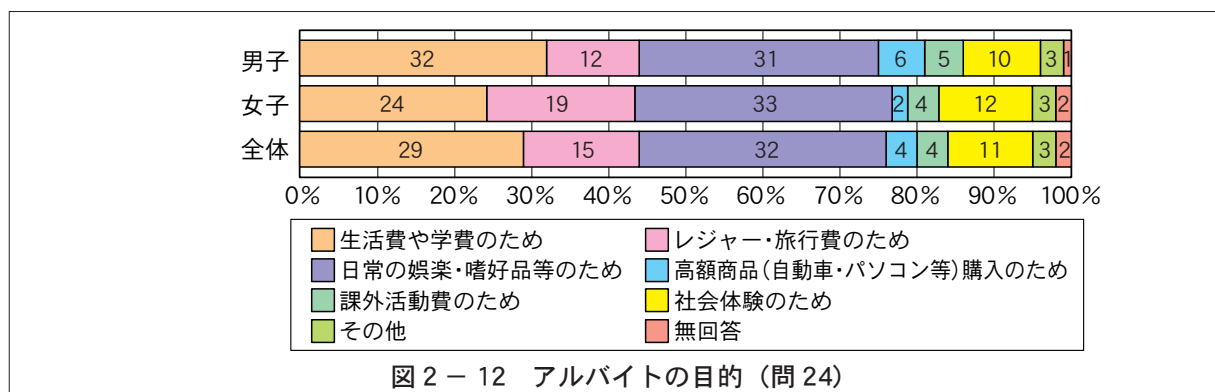


2-12 アルバイトの目的 (図 2-12)

アルバイトの目的について、複数回答可能で設問をした結果である。男女を合わせた全体では、「日常の娯楽・嗜好品等のため」が32%、「生活費や学資のため」が29%で、この2つの割合を合わせると61%になる。その他は、「レジャー・旅行費のため」が15%、「社会体験のため」が11%などとなっている。これらの割合は、前回の調査とほぼ同じである。また、今回の調査で「生活費や学資のため」が

全体で29%になっており、2-7の経済状態に関する設問で、「やや苦しい」26%と「大変苦しい」9%を合わせた合計35%の割合と、関連しているものと思われる。

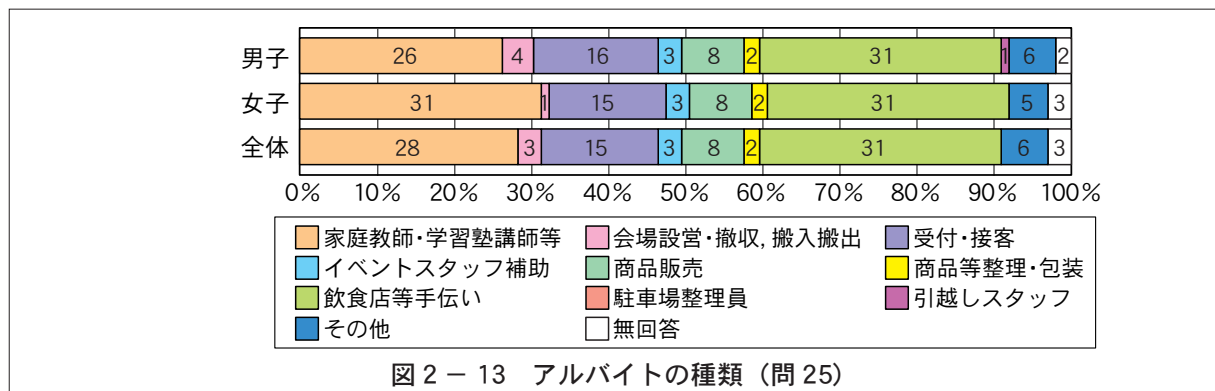
男女の違いでは、女子では「レジャー・旅行費のため」が19%と「社会体験のため」が12%で割合が少し多くなっており、男子では「生活費や学費のため」が32%で割合が少し多くなっている。



2-13 アルバイトの種類 (図 2-13)

全体では「飲食店等手伝い」が31%で最も多く、続いて「家庭教師・学習塾講師等」が28%、「受付・接客」が15%となっている。男女別でもほぼ同じ傾向で、この3つのアルバイトで割合が70%を超えている。

前回の調査では、全体で「家庭教師・学習塾講師等」が32%、「飲食店等手伝い」が27%、「受付・接客」が16%で、今回の調査は「家庭教師・学習塾講師等」と「飲食店等手伝い」の順位、割合がちょうど逆になっている。

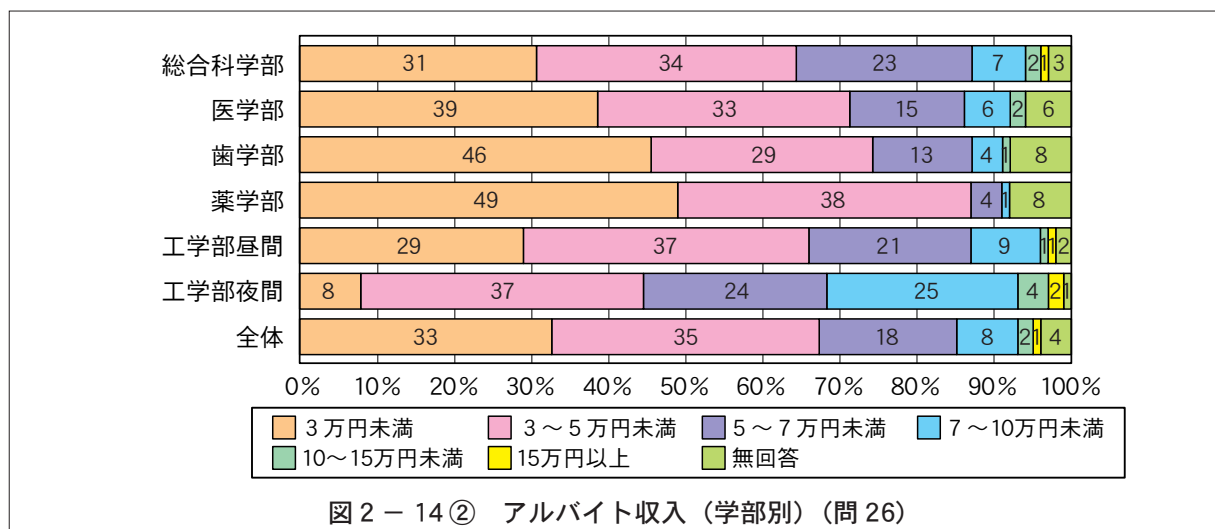
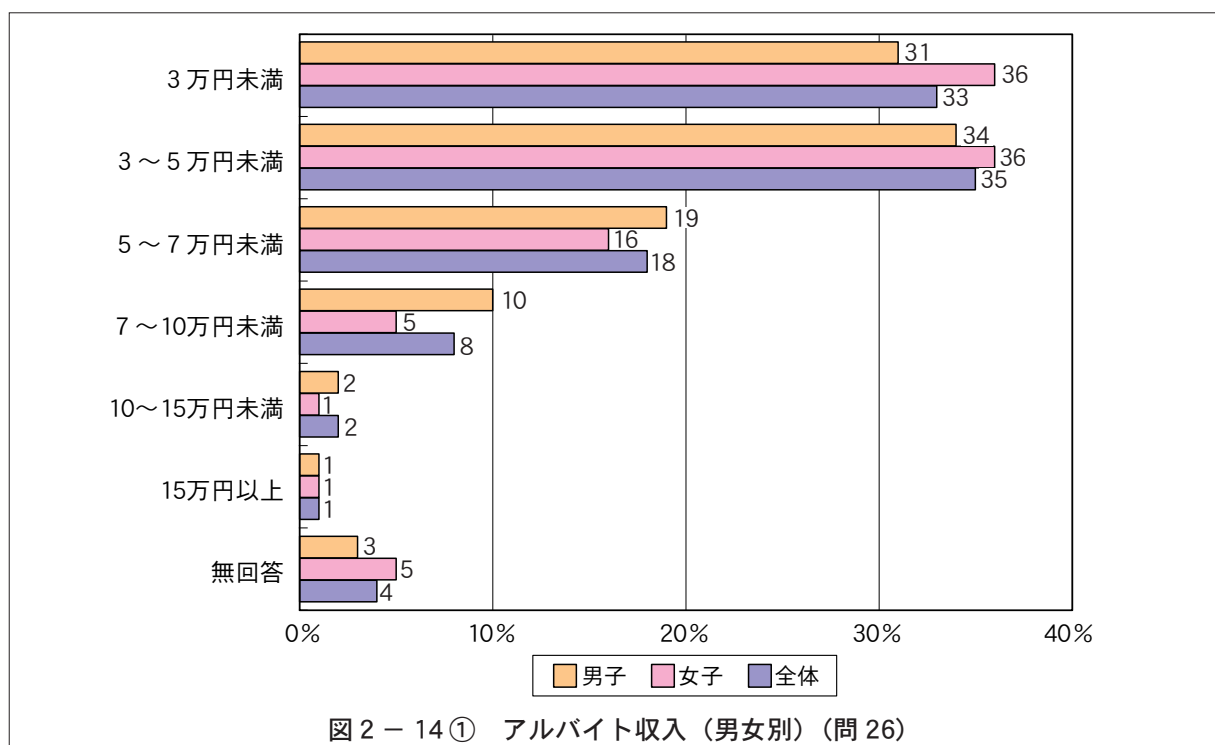


2-14 アルバイト収入 (図 2-14 ①, 図 2-14 ②)

アルバイトによる学生の1ヶ月間の平均収入は、大学全体では、「3~5万円未満」が35%で最も多く、次いで「3万円未満」33%、「5~7万円未満」18%、「7~10万円未満」8%となっている。「10万円以上」も3%ほどの割合になっている。

学部別では、工学部夜間でアルバイトをしている学生の約半数が「5万円以上」の収入を得ており、これはコースの特性によるものと思われる。一方、薬学部では「3万円未満」が49%で、アルバイトによる収入が少ない。また、「3万円未満」は医学部が39%、歯学部が46%で、これらの学部でもアルバイトによる収入は少ない。男女間で比較すると、女子は「3万円未満」で割合が多くなっており、男子は「5万円以上」の区分で女子に比べて割合が多くなっている。これは、男子は、2-12のアルバイト

の目的で「生活費や学費のため」の割合が32%と、女子の24%と比較して多いことに関連して、アルバイトに多くの時間を費やしているか収入の多いアルバイトをしていることによるものと思われる。

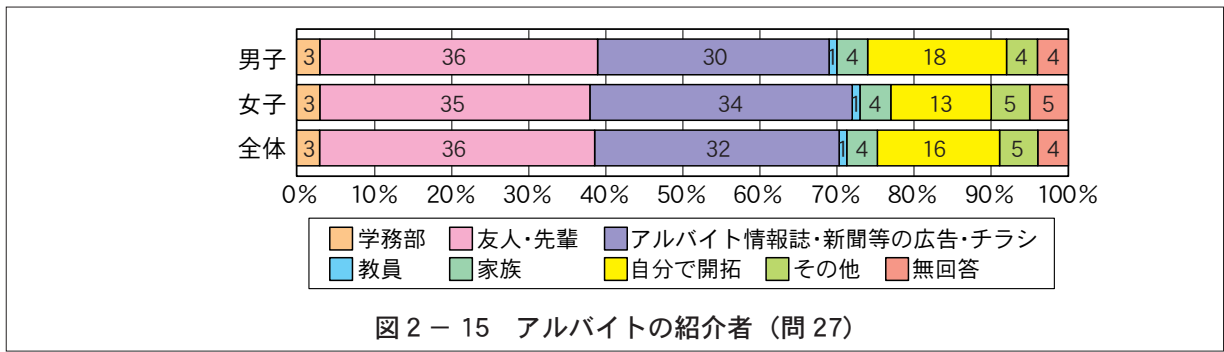


2 - 15 アルバイトの紹介者 (図 2 - 15)

大学全体では「友人・先輩」が最も多く36%で、次いで「アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ」で32%である。

前回の調査では、「友人・先輩」が35%、「アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ」が34%であった。「学務部」は、前々回の調査では8%、前回は4%、今回の調査が3%と減少しており、非常に低い割合である。「学務部」の割合は少なくとも20%以上に引き上げることが望ましいと思われる。

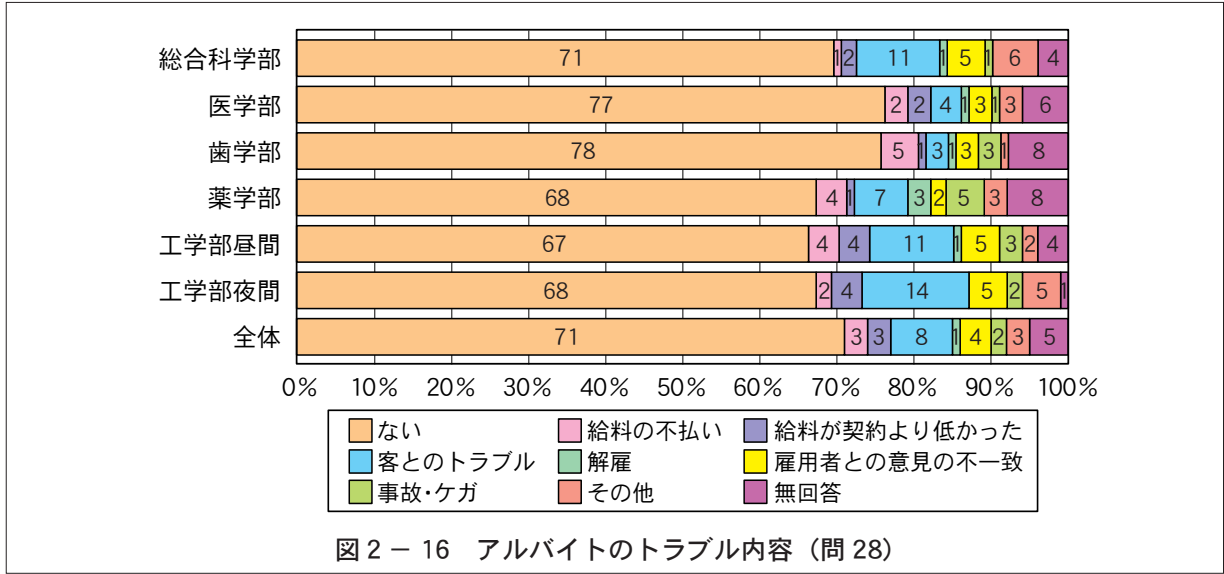
男女間では、男子は「友人・先輩」の割合がやや多くて36%、女子では「アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ」の割合が「友人・先輩」とほぼ同じで34%になっている。



2 - 16 アルバイトのトラブル内容 (図 2 - 16)

アルバイトにおけるトラブルについては、「ない」と回答した割合が全体で71%であった。前回の調査では、69%であったので、今回もほぼ同じ割合である。次に、トラブルがあった場合の内容は「客とのトラブル」が8%、「雇用者との意見の不一致」が4%などである。トラブルの発生割合を合計すると24%で、アルバイトをしている学生の4人に1人はトラブルを経験していることになり、かなり高い割合と考えられる。学生がアルバイトで事件や事故に巻き込まれないように、トラブルの内容を具体的に把握して注意喚起する必要がある。

学部別では、工学部夜間でアルバイトの従事時間が多いために、トラブルの発生割合が多くなっている。その他の学部では医学部と歯学部が17～18%と発生割合がやや少ない。これは、アルバイトの従事時間が少ないためと思われる。



第3章 健康状態について

3-1 睡眠時間 (図3-1①, 3-1②)

健康的な睡眠時間である「6～8時間」が48%と最多であるが、43%（男子40%、女子48%）で「4～6時間」と睡眠不足、さらに4%は「4時間未満」で過度の睡眠不足がみられ、前回調査とほぼ同じ傾向であったが、睡眠時間が短い学生がやや増加している。睡眠不足の状態が続くと、活動性の低下や注意力・集中力の低下、および心身の変調を引き起こしやすいため、学業・心身の健康両面にとって睡眠時間を確保することの重要性を改めて認識させる必要がある。

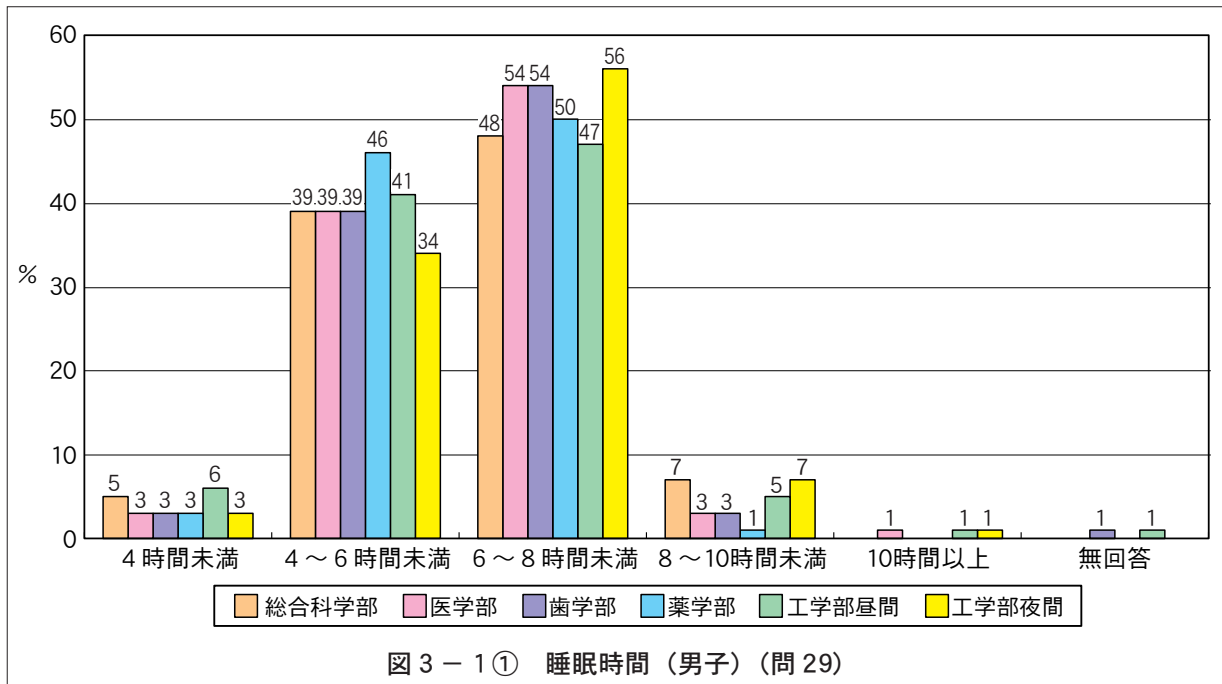


図3-1① 睡眠時間 (男子) (問29)

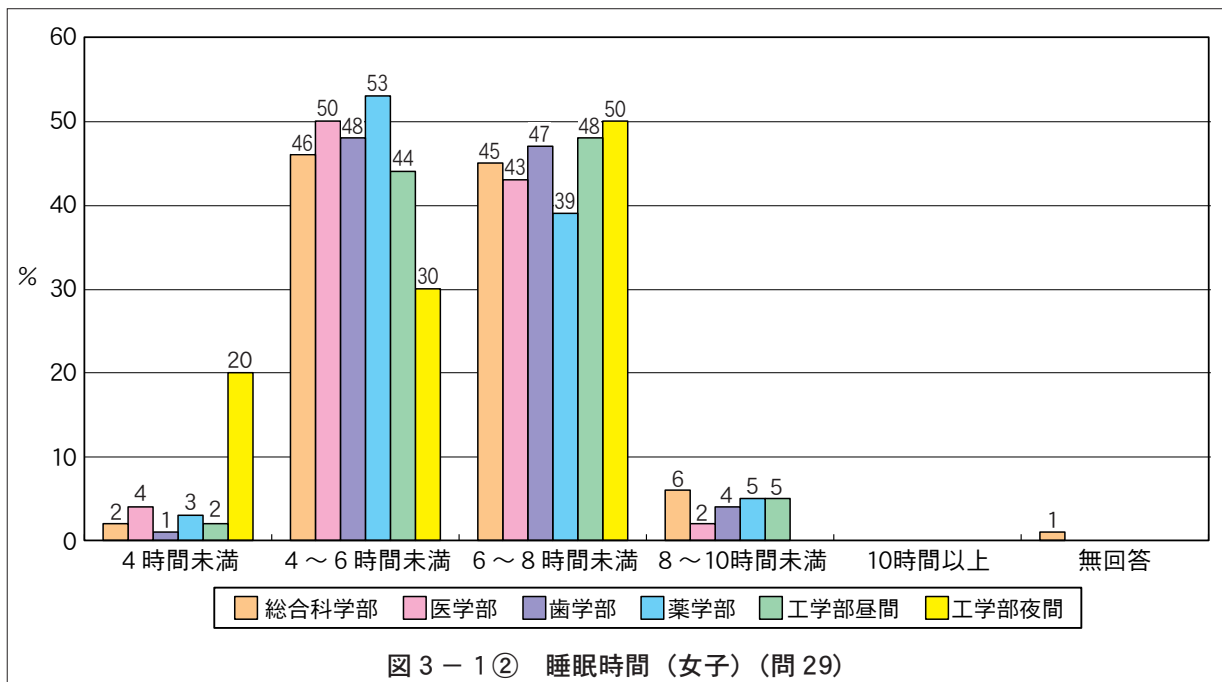


図3-1② 睡眠時間 (女子) (問29)

3-2 気になる症状 (図3-2①, 図3-2②)

何らかの気になる症状がある学生は、男子で38%、女子で59%であり、前回調査と変化はなく、女子が何らかの不調を多く抱えている傾向も同様である。症状の内容は、男子では「アトピー・アレルギー」が11%、「頭痛・めまい」「不眠」がそれぞれ6%、7%認められ、女子では「生理痛・生理不順」が15%、「頭痛・めまい」が12%、「アトピー・アレルギー」が10%に認められている。症状への対処とともに、生活面の指導なども必要であろう。

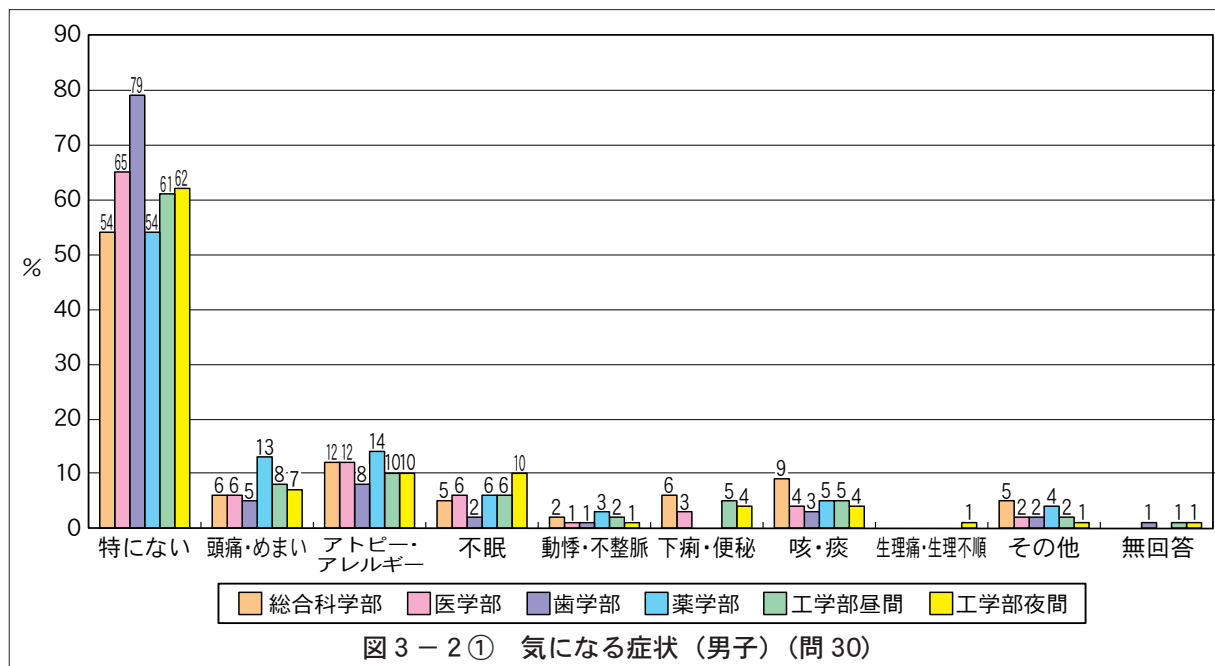


図3-2① 気になる症状 (男子) (問30)

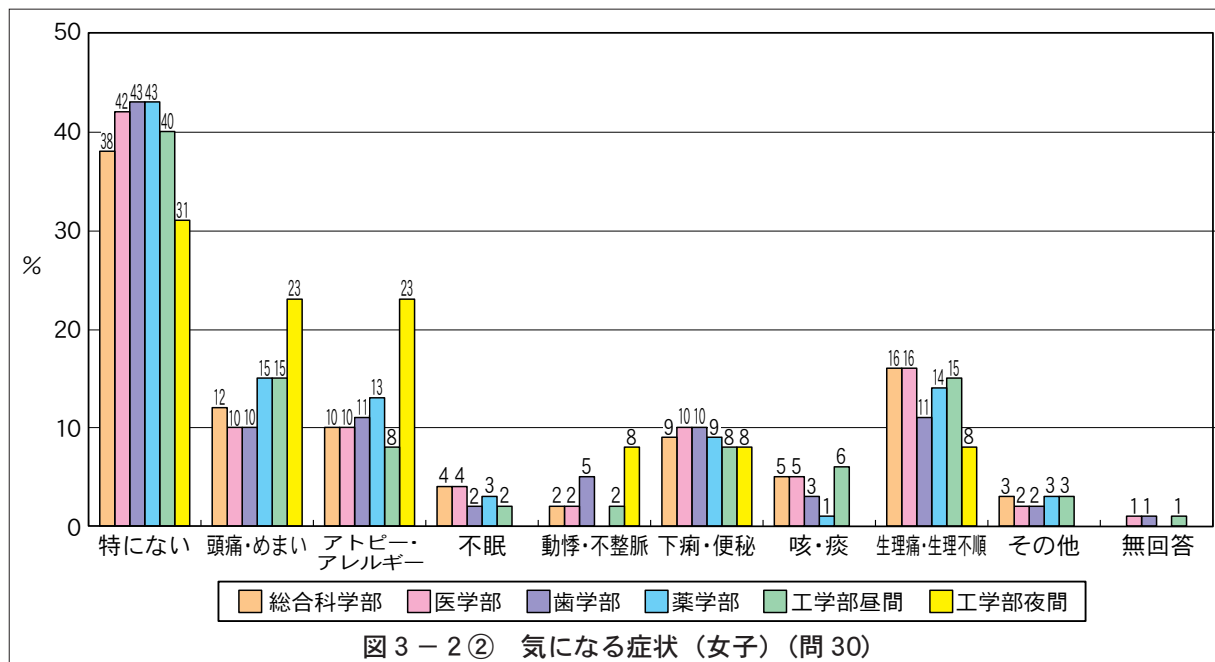


図3-2② 気になる症状 (女子) (問30)

3-3 喫煙について (図3-3①, 図3-3②, 図3-3③)

「喫煙したことがない」学生は男子で76%、女子で95%と前回調査より4%ずつ増加、また、「過去に喫煙していたが現在はしていない」学生をあわせると、男子で81%、女子で96%が喫煙していない

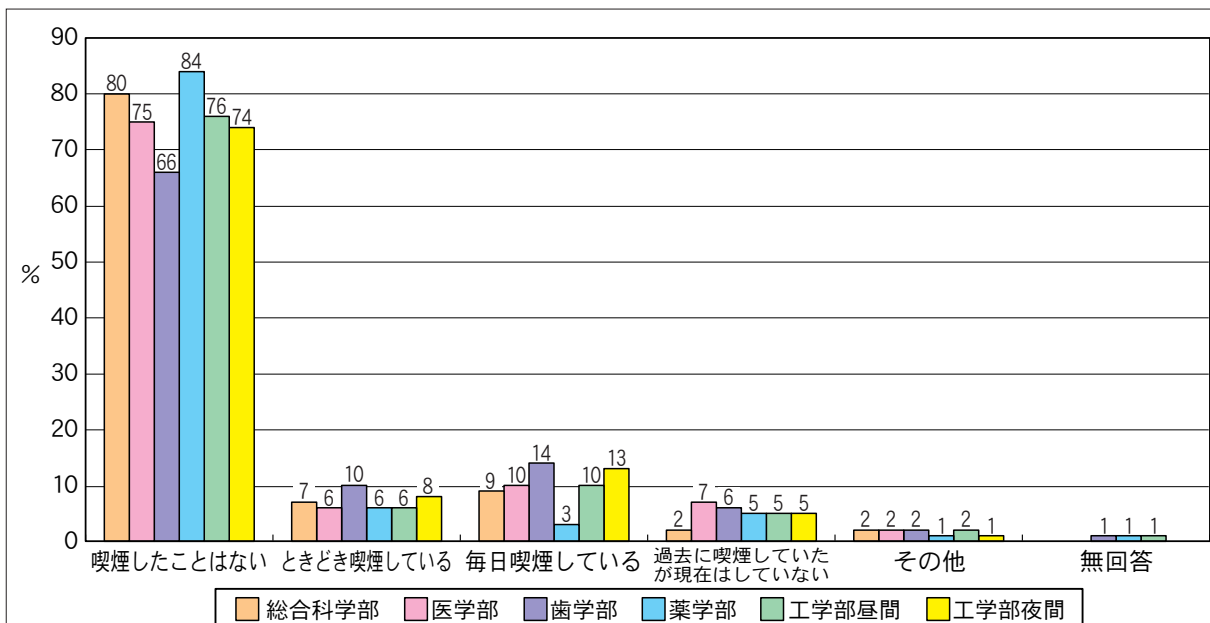


図 3 - 3 ① 喫煙 (男子) (問 31)

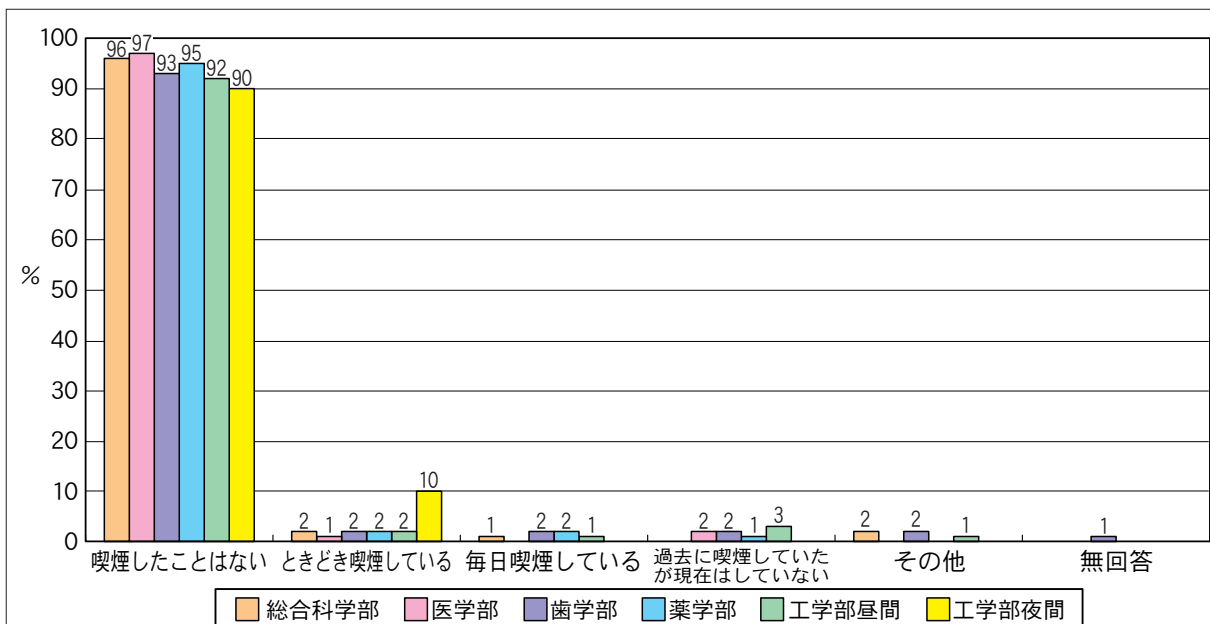


図 3 - 3 ② 喫煙 (女子) (問 31)

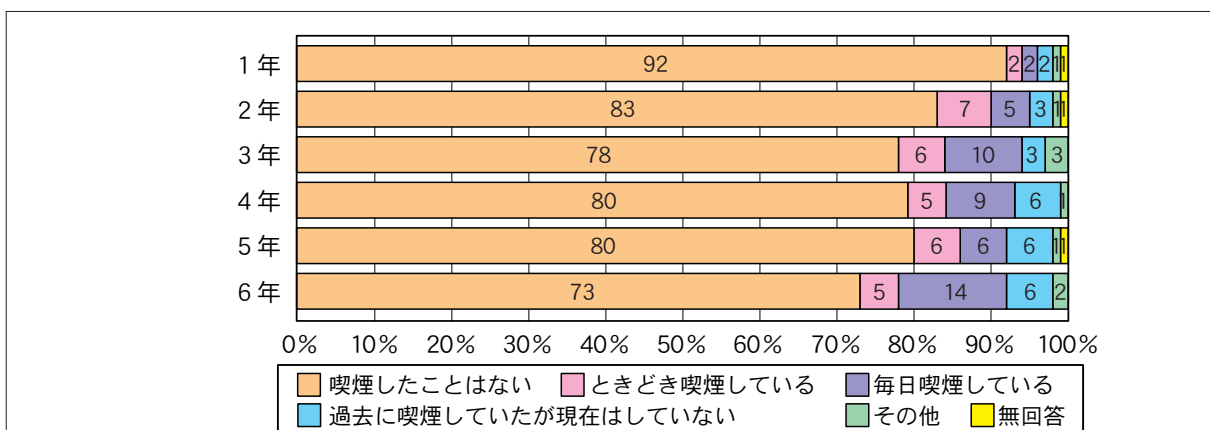


図 3 - 3 ③ 喫煙 (学年別) (問 31)

という結果となった。「ときどき、もしくは毎日喫煙している」学生は男子で17%、女子で2%で、前回調査とほぼ同率であり、また男子で喫煙率が高くなっているのも同様である。日本人の喫煙率21.8%（男性36.8%女性9.1%）と比較して低い、さらに低くする必要がある。学部別の比較で、男子で最も喫煙率が高い歯学部の喫煙率が前回調査31%から今回24%へと減少しているのは、良い変化であった。学年別でみると、1年生では94%が非喫煙だが、6年生では79%と非喫煙率が下がっており、学年が上がると喫煙者が増える傾向がある。長期間の喫煙習慣が様々な有害作用を健康に及ぼすことから、学生時代に喫煙を習慣づけないように指導するべきである。

3-4 飲酒について (図3-4①, 図3-4②, 図3-4③, 図3-4④)

「たまに飲酒する」と答えた学生が男子55%、女子68%と最も多く、「飲酒はしない」と答えた学生

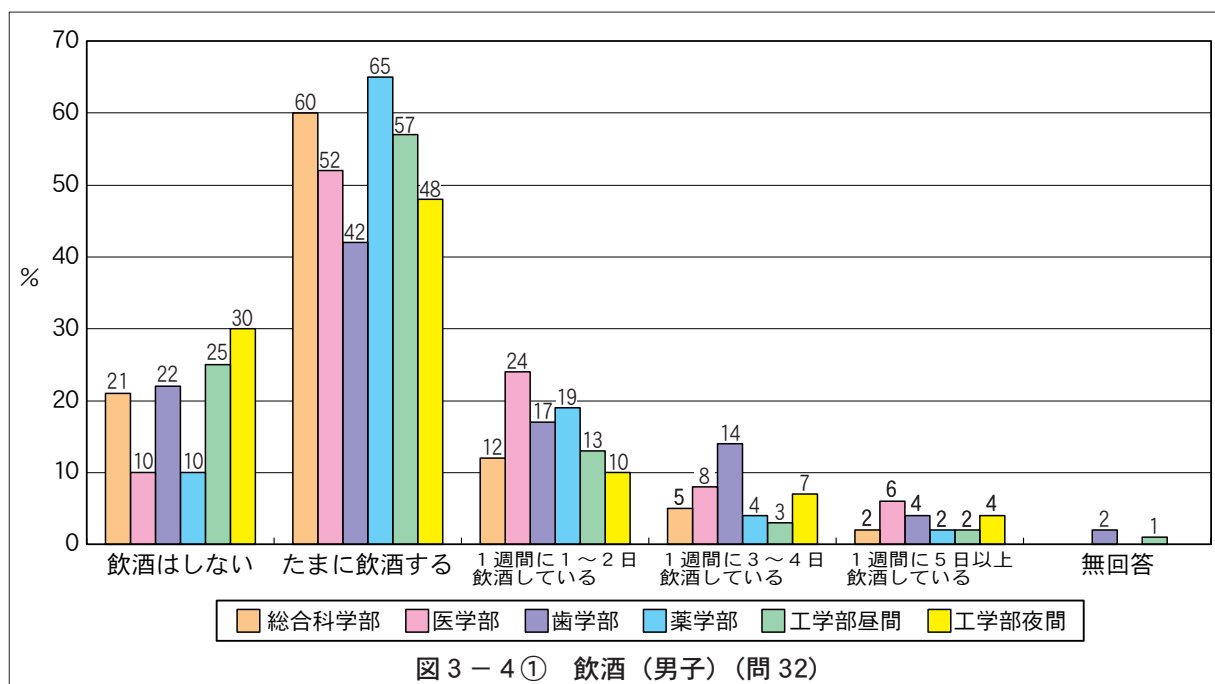


図3-4① 飲酒 (男子) (問32)

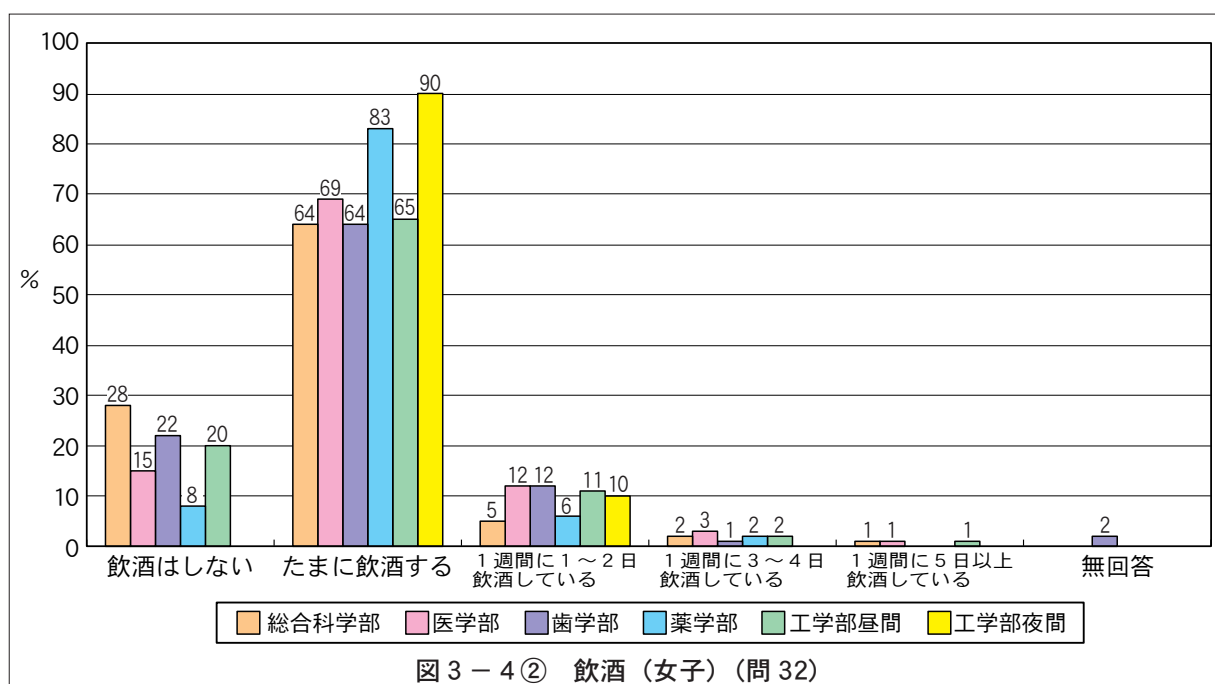


図3-4② 飲酒 (女子) (問32)

も男子21%、女子18%おり、合わせて男子76%、女子86%の学生に飲酒習慣がなく、前回調査とほぼ同様の結果であった。飲酒習慣のある約2割の学生のうち、週3、4日以上飲んでいる学生が男子で8%、女子で3%みられるが、1回の飲酒量が問題となる。

週3回以上の飲酒習慣があると答えた学生のうち、1回あたりの飲酒量は3合未満が男子71%、女子77%で、前回調査とほぼ同率であった。この飲酒量であれば多量飲酒者にはあたらないといえるが、残りの30%弱（60人程度）が、1日平均純アルコール量で60g（日本酒3合）前後の飲酒をしている可能性があり、長期間継続するとアルコール関連健康障害などの酒害に発展する飲酒レベルである。アルコールの適量は1日平均純アルコール20g（日本酒1合）といわれており、アルコールの過剰摂取には十分気をつけるよう指導しなくてはならない。

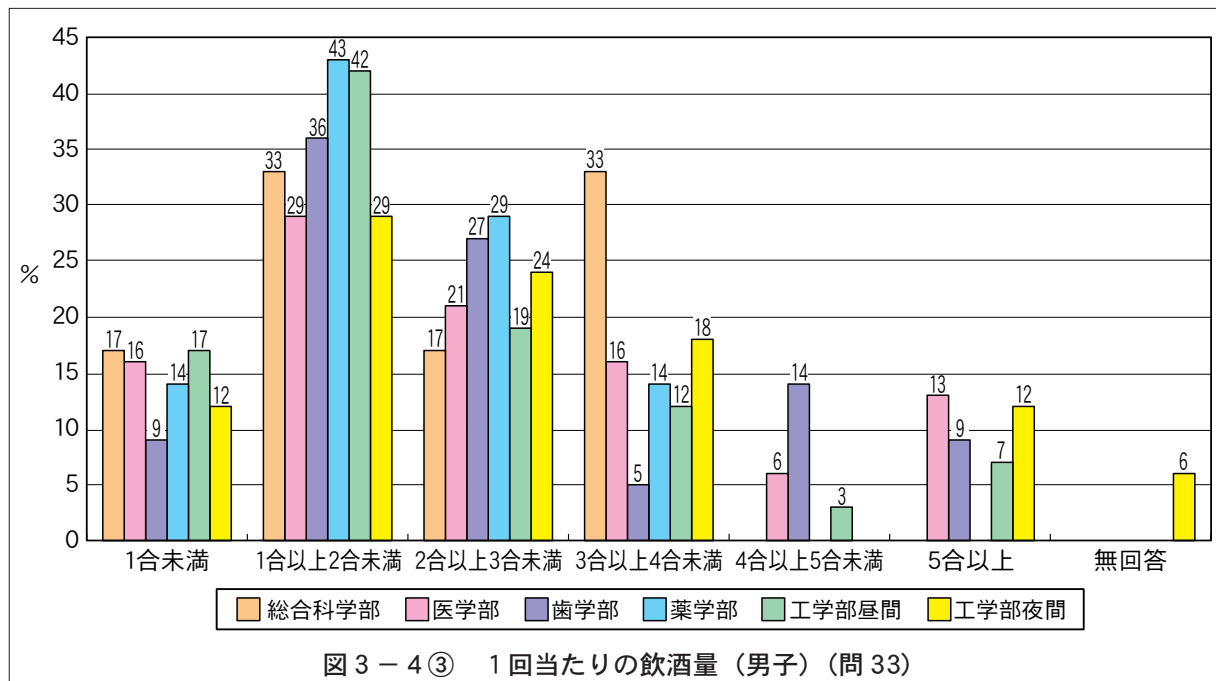


図3-4③ 1回あたりの飲酒量（男子）（問33）

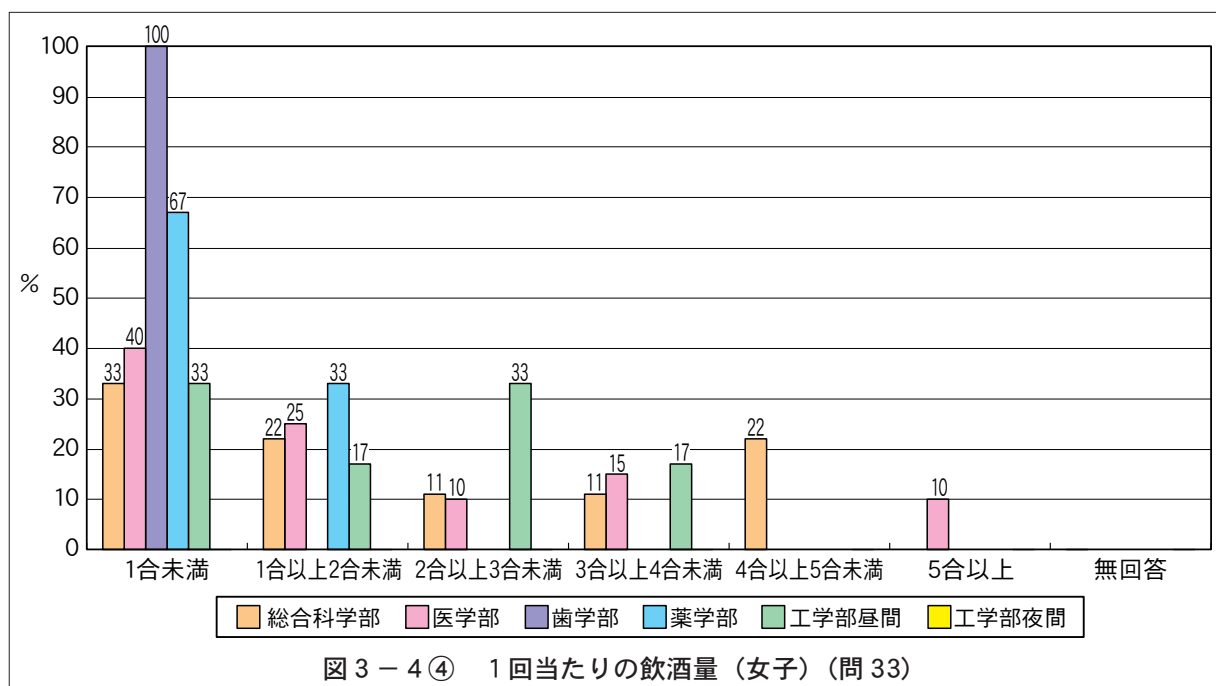


図3-4④ 1回あたりの飲酒量（女子）（問33）

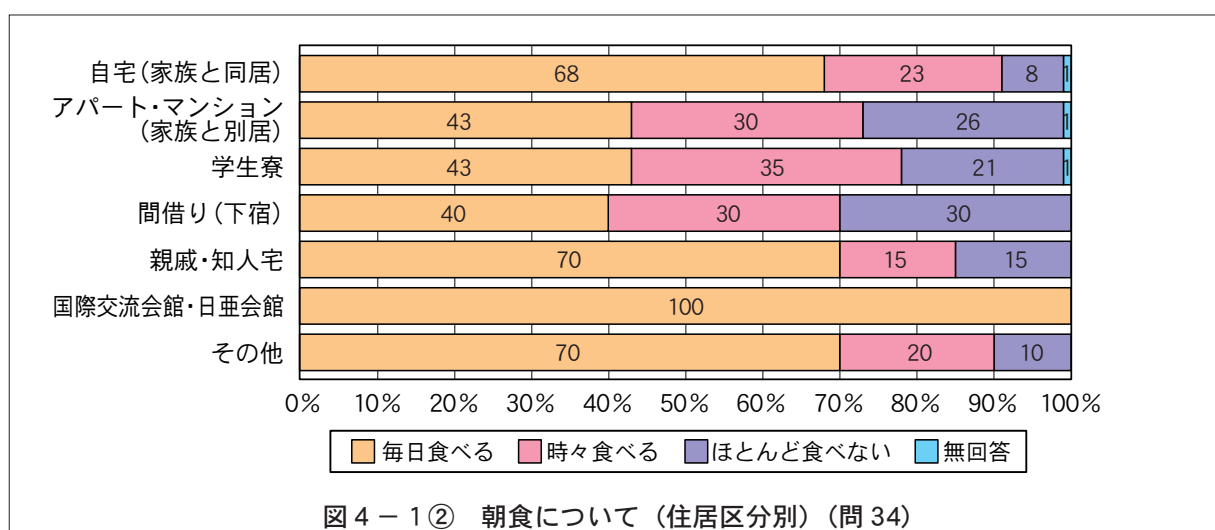
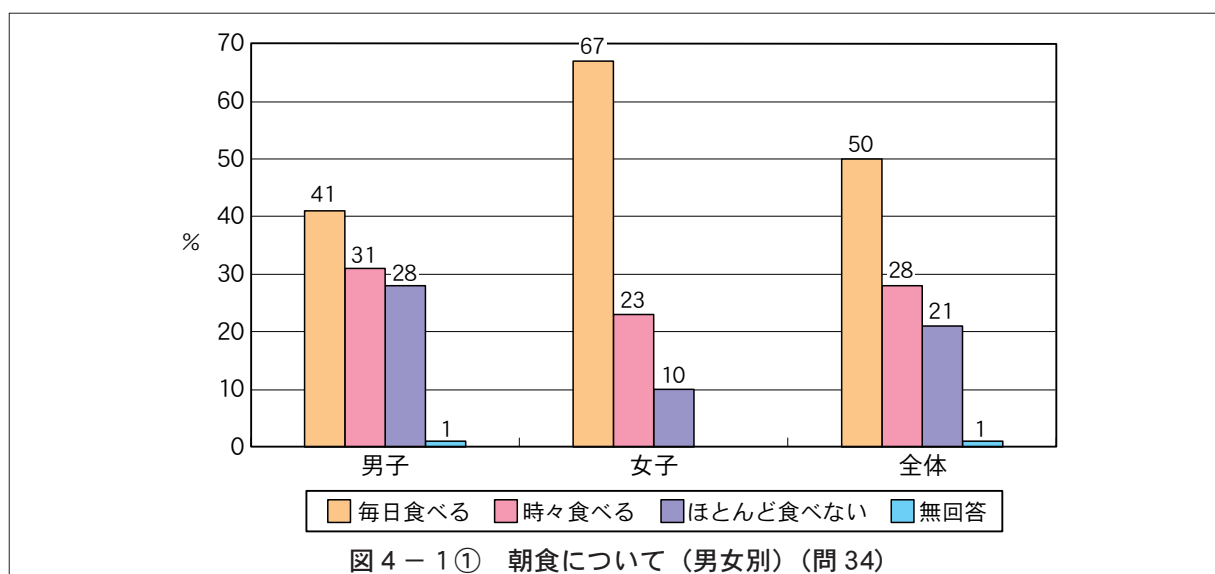
第4章 食事について

4-1 朝食 (図4-1①, 図4-1②)

朝食をほとんど食べない学生は21%であり、前回の調査に比べ1%の減少で大きな変化は見られない。男女差として、女子は10%と少ないのに対し、男子は28%と約3人に1人は朝食をとっていない。

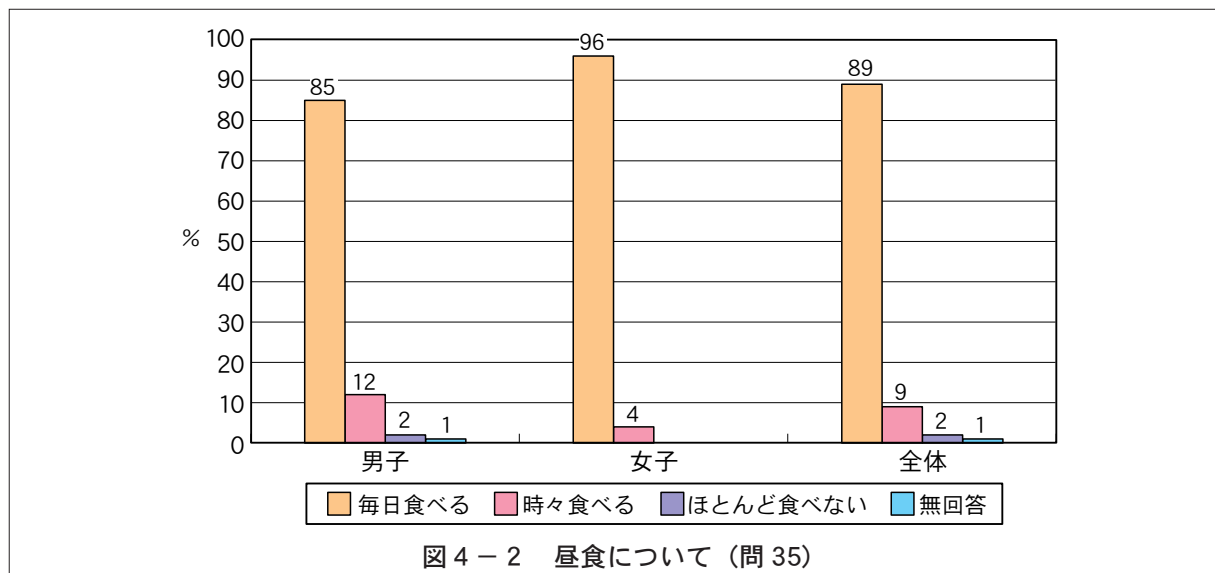
一方、朝食を毎日食べているのは、男子41%、女子67%で、前回の調査と比較して、男子は変化なし、女子は2%の増加であった。その内訳をみると、自宅(家族と同居)である場合が68%で、家族と別居している学生(アパート・マンション、学生寮、間借り)の40~43%と比較して高い。同じく家族と別居していても、親戚・知人宅では自宅と同様、70%が朝食をとっている。国際交流会館および日亜会館に住む外国人留学生は100%となっているが、これは母数が1人であり、評価はできない。

以上のことから、とくに家族と別居し、一人暮らしをしている学生には、朝食をとる生活習慣の意義を繰り返し指導することがなお一層必要であることを示している。



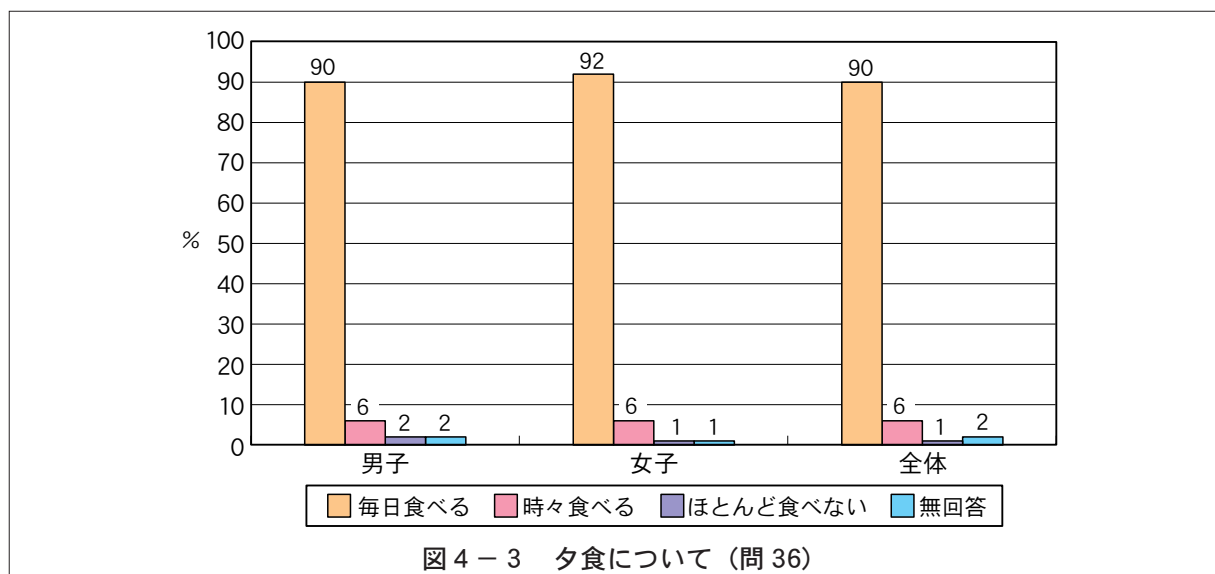
4-2 昼食 (図4-2)

昼食を毎日食べている学生は89%で、前回調査結果と変化はない。とくに女子は96%が毎日昼食をとっている。一方、時々食べるあるいはほとんど昼食を食べないと回答した学生は11%で、前回調査で“昼食は毎日食べない”と回答した11%とほぼ同じである。しかし、この選択肢の表現が前回と今回では微妙に異なるため、比較はできない。



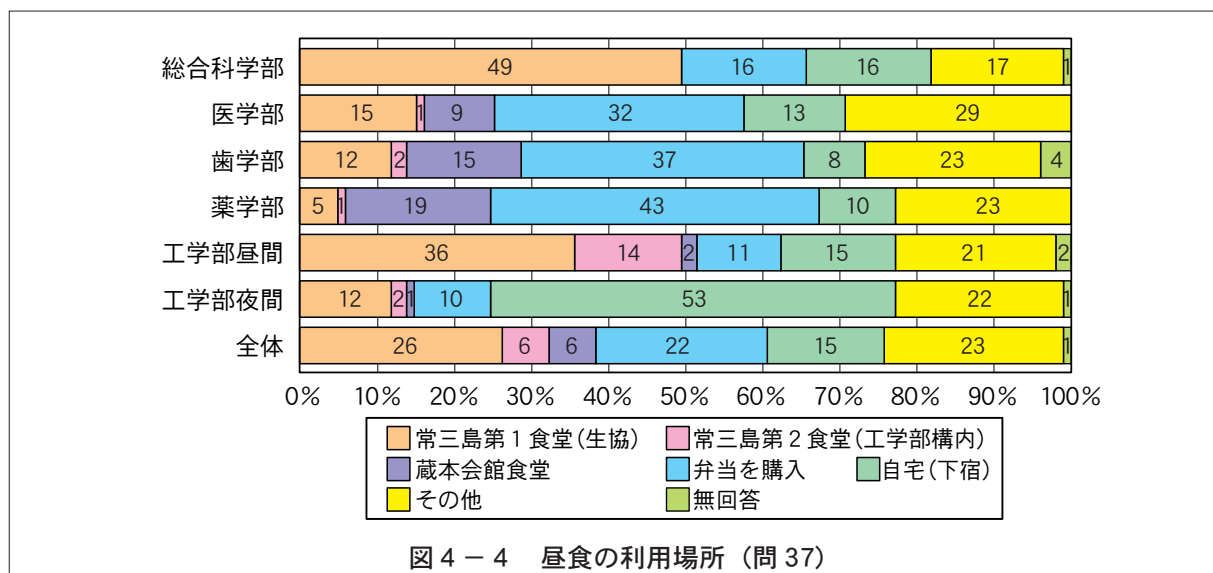
4-3 夕食 (図4-3)

夕食を毎日食べている学生は90%であり、前回調査とほぼ同じである。また、男女ともほぼ同じ%である。一方、夕食を毎日は食べない学生は7%で、前回の8%から大きな変化はない。したがって、この結果からは、これまで実施してきた食育指導はさほど効果が得られていないように思われる。



4-4 昼食の利用場所 (図4-4)

常三島第1食堂 (生協), 常三島第2食堂 (工学部構内), 蔵本会館食堂, 弁当, 自宅 (下宿) を利用

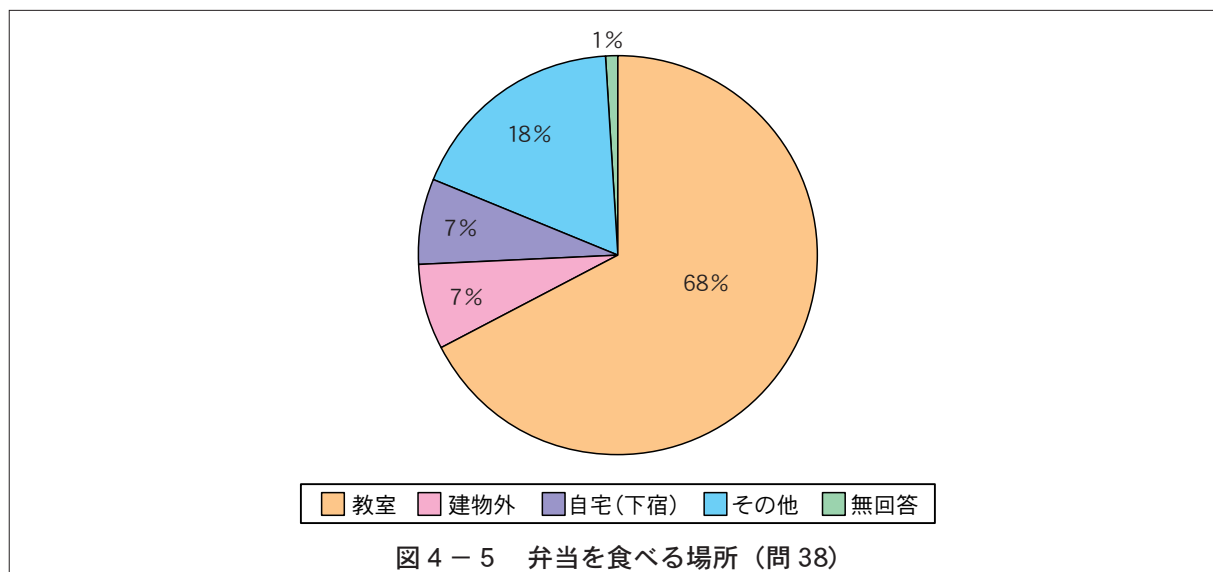


する学生は、それぞれ26%、6%、6%、22%、15%であり、前回とほぼ同じ傾向である。

常三島地区では約半数が食堂を使用（総合科学部49%、工学部昼間50%）しているのに対し、蔵本地区では約15%（医学部9%、歯学部15%、薬学部19%）しか蔵本会館食堂を使用していない。一方、蔵本地区の学生の約40%（医学部32%、歯学部37%、薬学部43%）が弁当を購入している。今回の調査の選択項目に生協カフェテリア「クララ」が入っていなかったため、確かなことはわからないが、その他の中にはクララを利用している学生が入っているのかもしれないが、蔵本地区における蔵本会館食堂離れの傾向は強くなっているように見える。

4-5 弁当を食べる場所 (図4-5)

弁当を食べる学生の68%が教室、7%が建物外、7%が自宅で、18%がその他である。前回調査と比べると、教室の割合はわずかに減少したが、建物外、自宅、その他の割合は大きく変化していない。教室で弁当を食べる学生が多い理由としては、教室などの施設の充実も挙げられるが、外に出て食べる時間がない、外で食べる場所がないなども考えられる。しかし、今回の調査においては理由の記載をもとめなかったため、定かではない。



4-6 学生食堂について感じる事 (図4-6①, 図4-6②)

昼食時の混雑がひどいと答えた学生は31%であり、前回の47%から大きく減少している。この混雑に対する不満は総合科学部と工学部昼間がそれぞれ53%、36%と最も高い。続いてメニューが少ないと答えた学生が21%であり、学部別では歯学部30%、薬学部28%、医学部25%と、蔵本地区が上位を占めている。値段が高いと答えた学生は16%で、学部間での差は小さい。開店時間が短いや場所が不便については6%と5%であり、前回とほぼ同じである。

昼食時の混雑については前回に引き続き、特に常三島地区の学生が問題点として捉えている事項であり、自由記入欄に「昼食時の学食の混雑度合が異常。学食を改装してもっと広くすべきとしか言いようがない」との意見がある。今年度から来年度にかけて、常三島の食堂の改修が開始するため、来年度には食堂の混雑が緩和されていることを望む。蔵本地区の学生で「メニューが少ない」と感じている割合

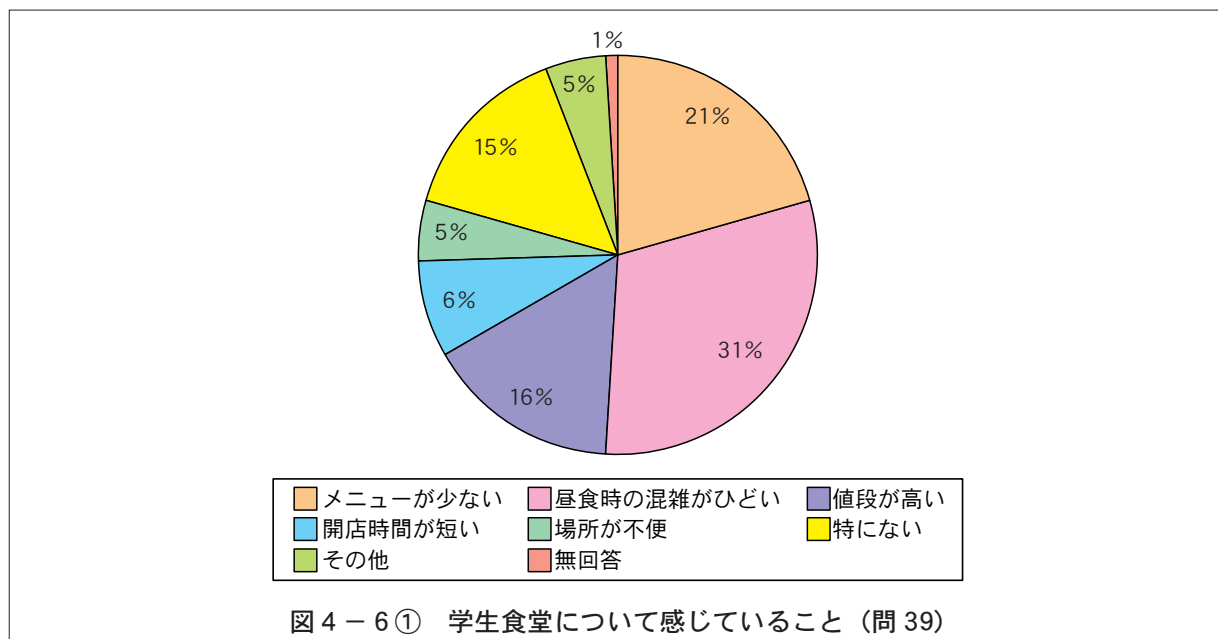


図4-6① 学生食堂について感じていること (問39)

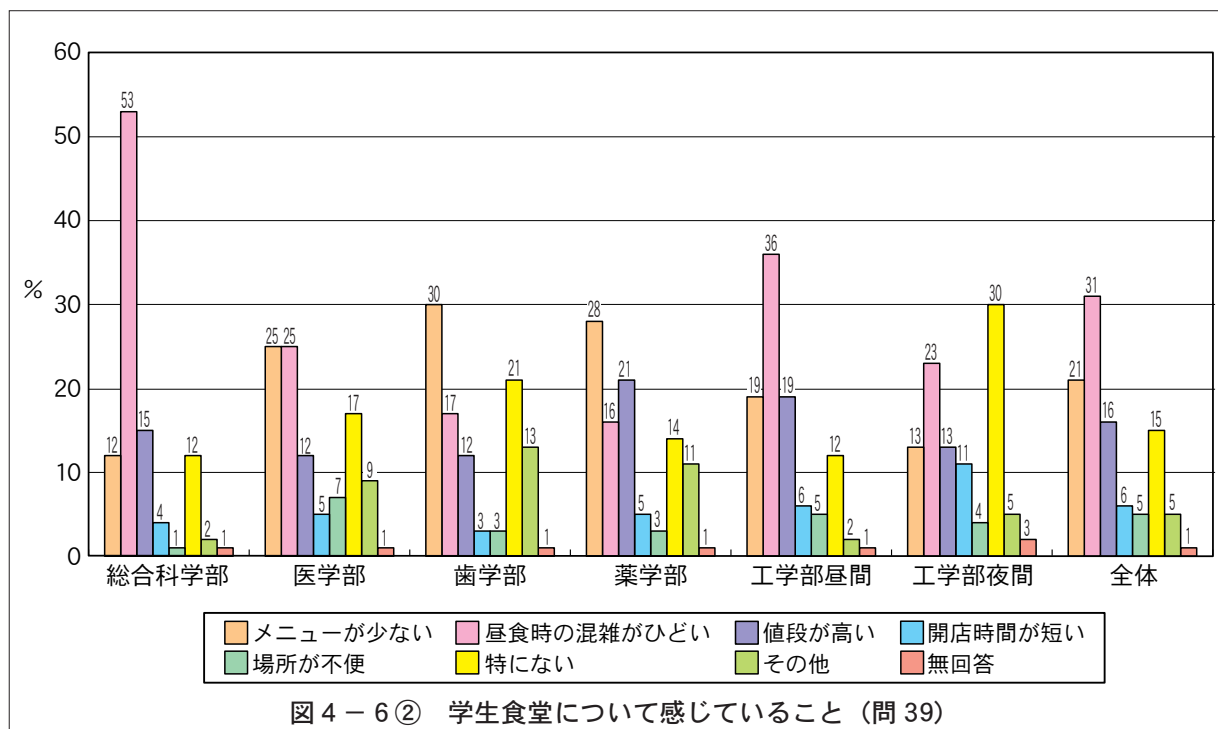


図4-6② 学生食堂について感じていること (問39)

が高いことについては、前回の調査結果からも、すでに蔵本地区の食堂運営者に報告されているであろうが、未だ明らかな改善が見られない。その他、自由記入欄に蔵本地区にも大きな生協食堂を作ってほしいとの要望が多く寄せられているが、この要望も現在の蔵本会館食堂の料理の問題（メニューが少ない、美味しくない、値段が高いなど）が関連している。

また、少数ではあるが「食品産地の表示をしてほしい」との意見がある。産地偽装や海外からの輸入食品の増加などによって、食品産地の開示がほぼ義務づけられてきている昨今、大学食堂といえども学生に食を供している以上、食品産地を表示する取組を考えてもらっても良いのではないかと。

第5章 学生生活上の問題点

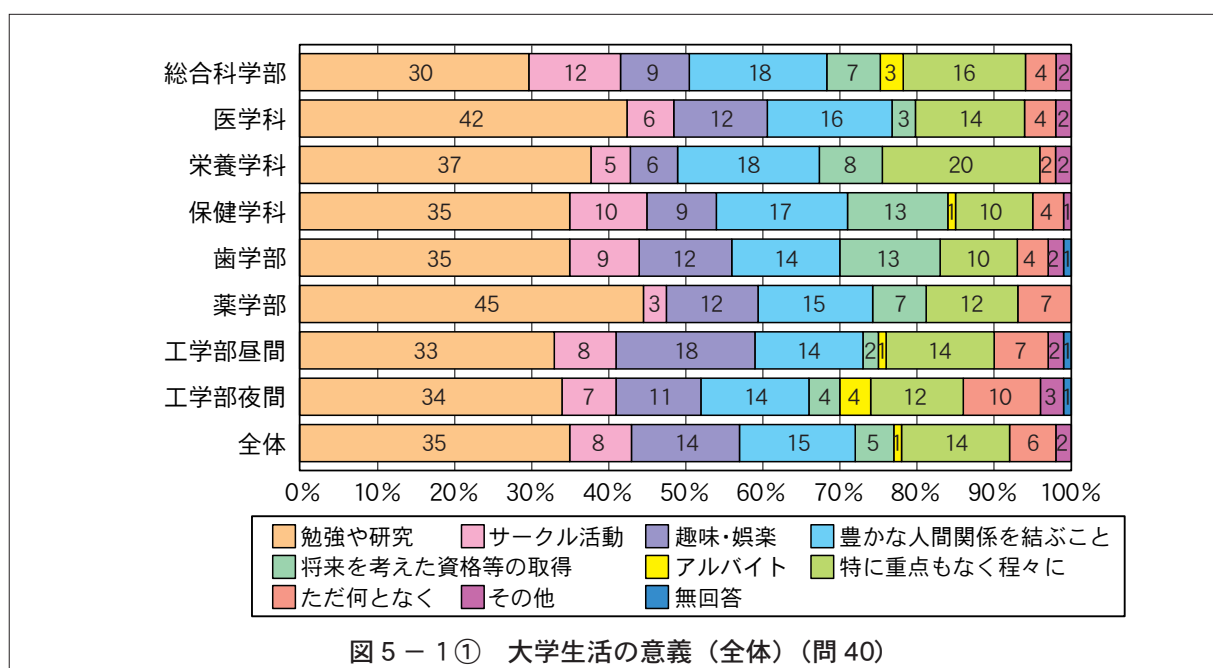
5-1 大学生生活の意義 (図5-1①~図5-1③)

【項目間での比較】(図5-1①)

どの学部・学科においても「勉強や研究」が第1位で30%から40%の範囲を示している。「豊かな人間関係を結ぶこと」が第2位、「趣味・娯楽」及び「特に重点もなく程々に」が第3位と続いている。前回の結果と比べると、「勉強や研究」が4%増加し、「特に重点もなく程々に」が3%減少しており、勉強や研究という大学教育の中心的課題を重視している学生が増加していると考えられる。

【学部・学科間での比較】(図5-1①)

前回と同様、薬学部では、他の学部と比較すると、「勉強や研究」を第一に考えて生活している学生が最も多く、45%であった。これは、薬学部が平成18年度入学生から薬剤師国家試験資格が変わることに伴う学部6年制・4年制併設への改組による効果が安定していることによると思われる。また、医学科において、「勉強や研究」を第一と考える生活している学生は、前回の27%から42%と15%も増加した。これは、医学科における教育指導の効果の表れと考えられる。



【学年間での比較】(図5-1②, 図5-1③)

4年制学部・学科の場合、前回と同様に学年が上がるにつれて「勉強や研究」が増加し、「サークル活動」は減少しているが、これは、大学において修学することの意義を学年が上がるにつれてより強く実感するようになることの表れと考えられる。

また、6年制学部の場合、4年生のときに「勉強や研究」が最も高くなり、その後もそれが維持されている。これは、1年生と5年生の「勉強と研究」が最も低く、3年生で最も高かった前回とは異なった傾向である。

以上のことから、4年制でも6年制でも、学年が上がるにつれて、大学において修学することの意義を強く実感するようになり、修学意欲が高まると考えられる。

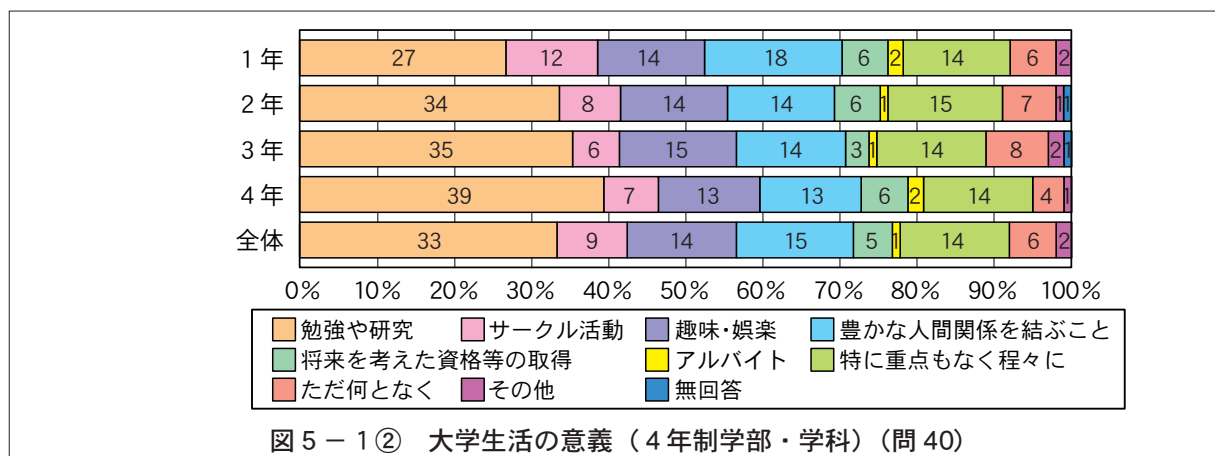


図 5-1② 大学生生活の意義（4年制学部・学科）（問 40）

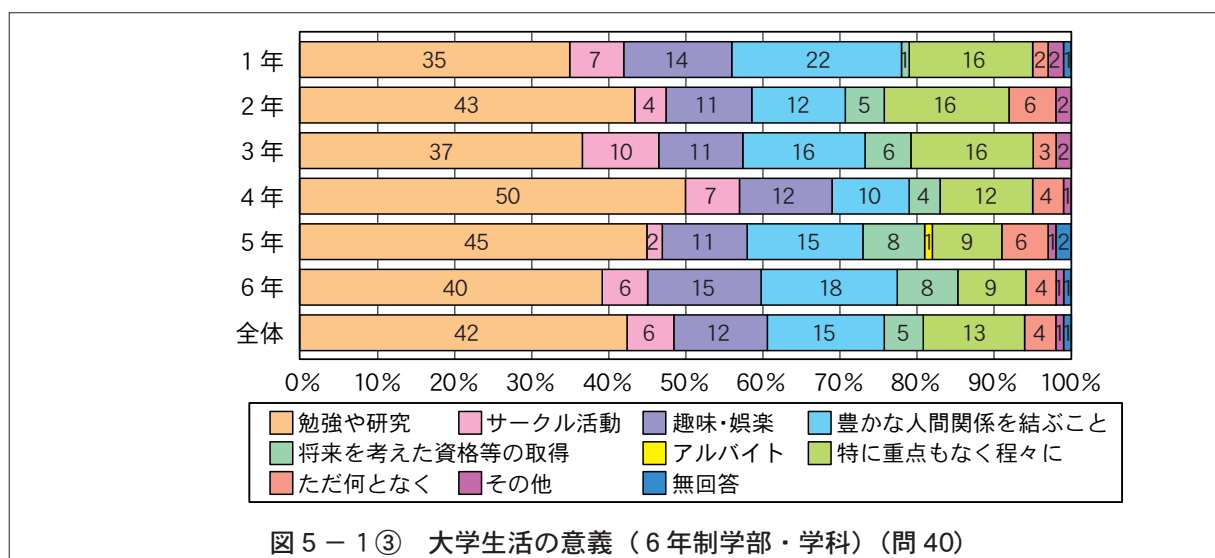


図 5-1③ 大学生生活の意義（6年制学部・学科）（問 40）

5-2 悩みと相談 (図 5-2①~図 5-2⑤)

【主な悩みや不安】(図 5-2①~図 5-2③)

全体では、「勉強」が最も多く19%であった。続いて多かったのは「就職や進路」であり18%、その次は「交友・異性関係」で11%であった。どの学部・学科においても、男女とも「勉強」の悩みや不安が2位以上に来ており、大学生として妥当な傾向を示している。また、男女で比較すると、どの学部・学科においても女性のほうが男性よりも「就職や進路」の悩みや不安を抱える者の割合が高いことがわ

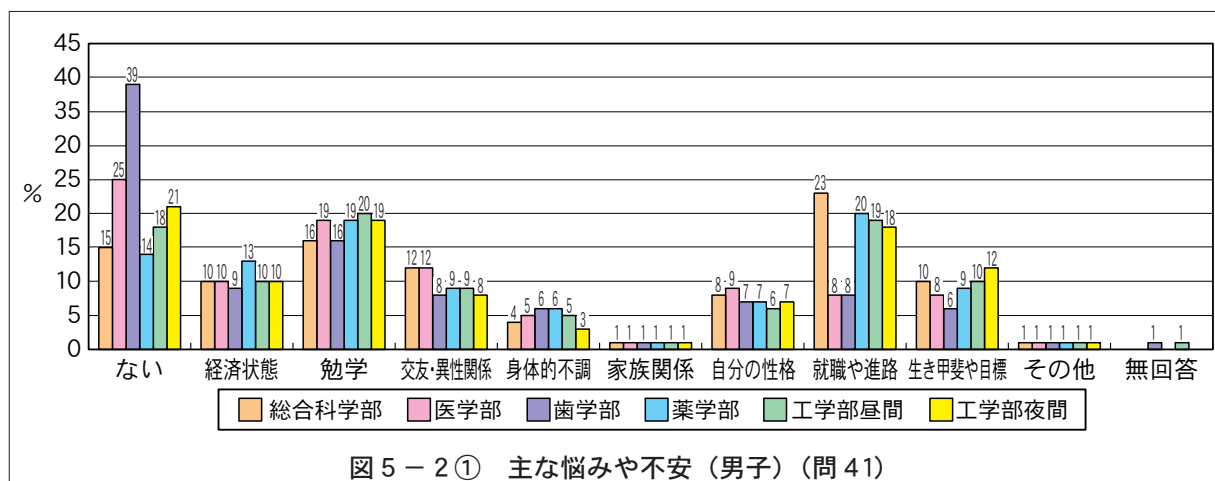


図 5-2① 主な悩みや不安（男子）（問 41）

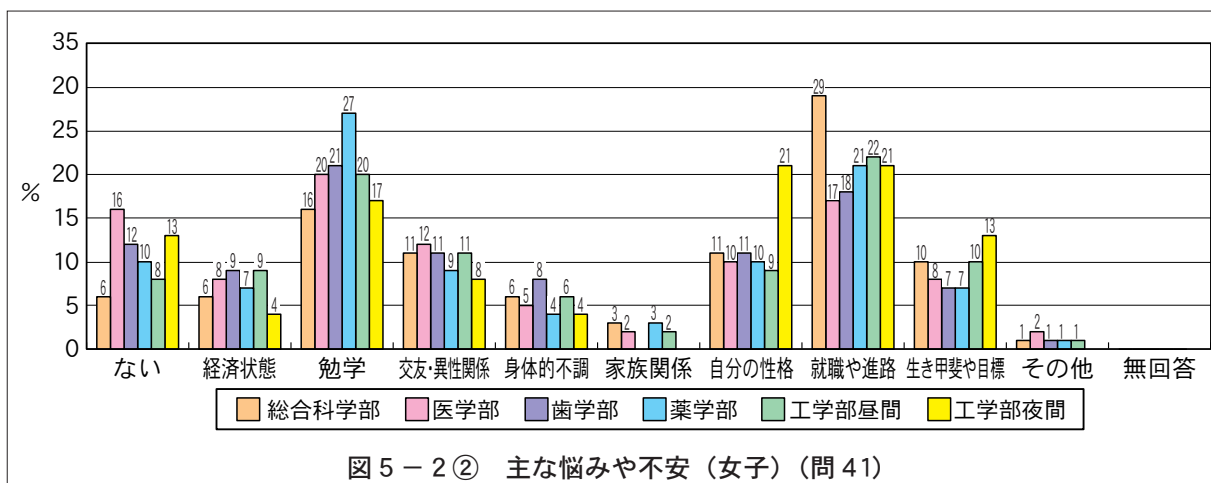


図 5 - 2 ② 主な悩みや不安 (女子) (問 41)

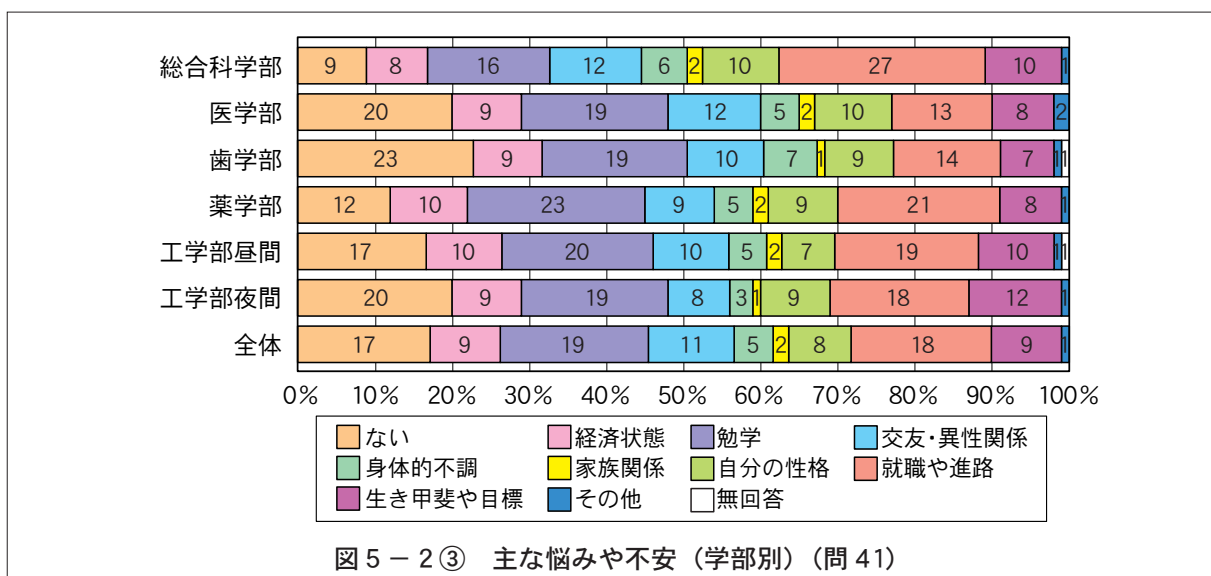


図 5 - 2 ③ 主な悩みや不安 (学部別) (問 41)

かった。今でも女性は家庭や子育てと仕事の両立をどうするのか等、男性よりも人生の選択肢の幅が広く、迷いやすいことが背景にあると考えられる。

【相談相手】(図 5 - 2 ④, 図 5 - 2 ⑤)

全体で最も多かったのは「友人」(50%)で、第2位が「家族」(26%)、第3位が「誰にも相談しない」の17%であった。この順位は男女とも、全学部に通じて見られた。「誰にも相談しない」と回答した者が自力で適切な解決を導くことができているれば問題ないが、信頼できる相談相手を持ち合わせて

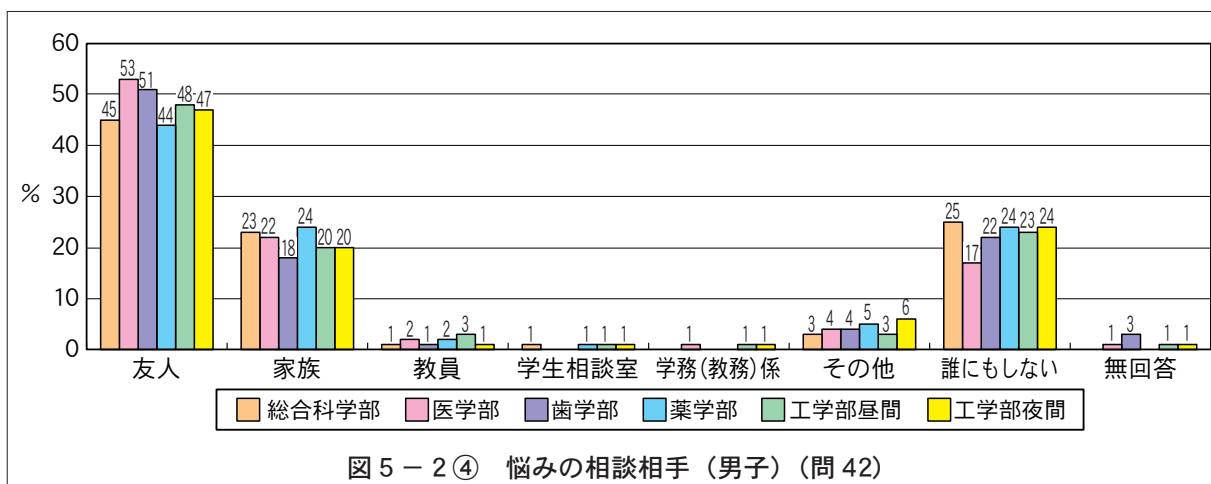
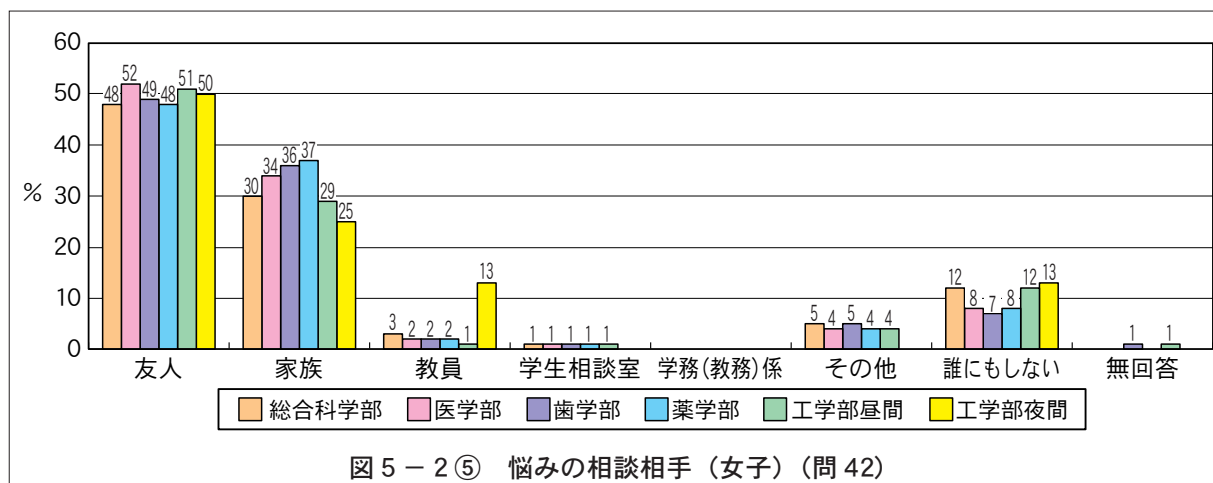


図 5 - 2 ④ 悩みの相談相手 (男子) (問 42)

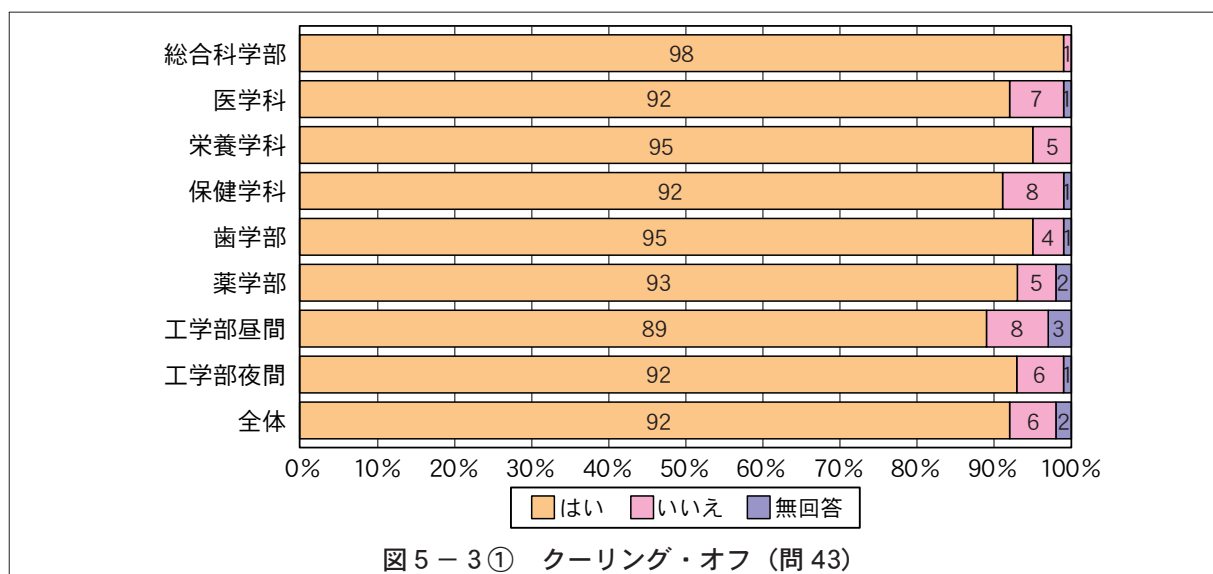


いないために仕方なく自力で解決を試みて堂々めぐりになってしまっている可能性もある。そのような場合、教員や学生相談室のスタッフなどを信頼できる相談相手として選ぶことができるように教員や学生相談室のスタッフは学生に日々働きかける必要がある。

5 - 3 迷惑行為 (図 5 - 3 ①~図 5 - 3 ⑫)

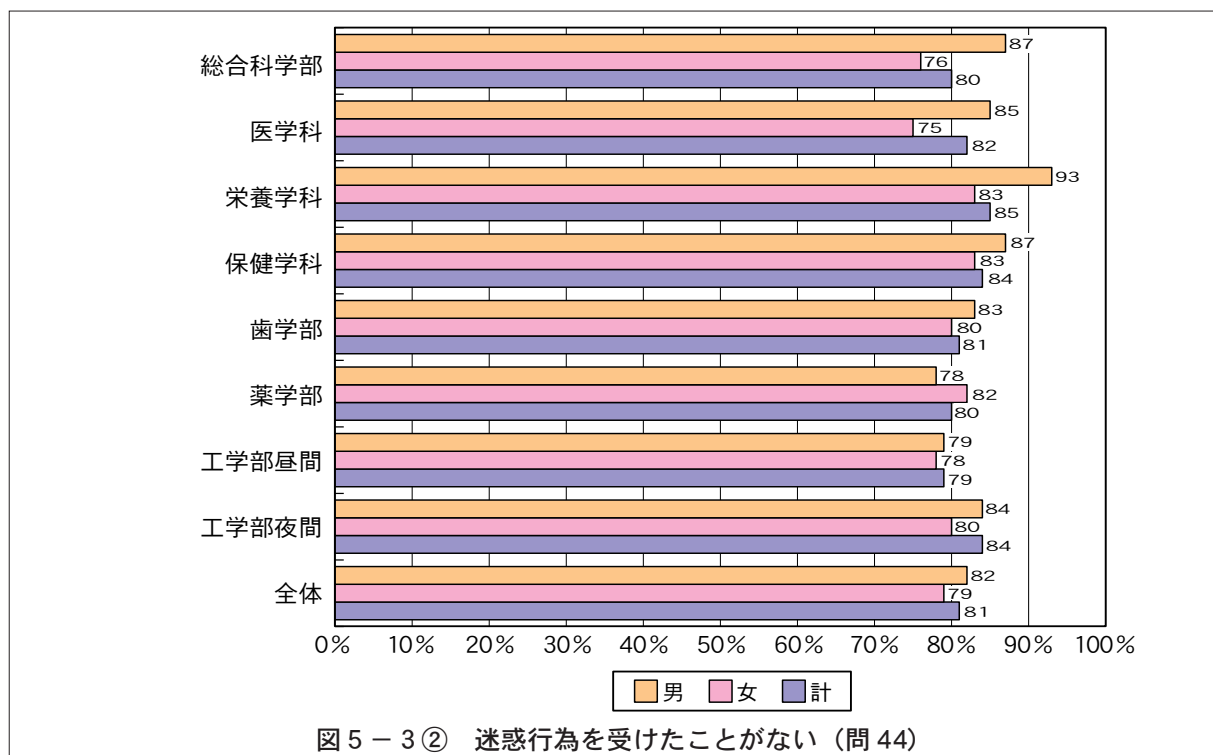
【クーリング・オフ制度の認識】 (図 5 - 3 ①)

クーリング・オフ制度については、前回と同様に全体で 92% と高い割合で「知っている」と回答している。その中でも最も多かったのは総合科学部で 98% であり、他の学部も 89% 以上は知っているとは回答していた。これらの結果は、大学入門講座における教育効果によるものと考えられるので、今後も引き続き丁寧に教育を行う必要がある。



【迷惑行為全体】 (図 5 - 3 ②)

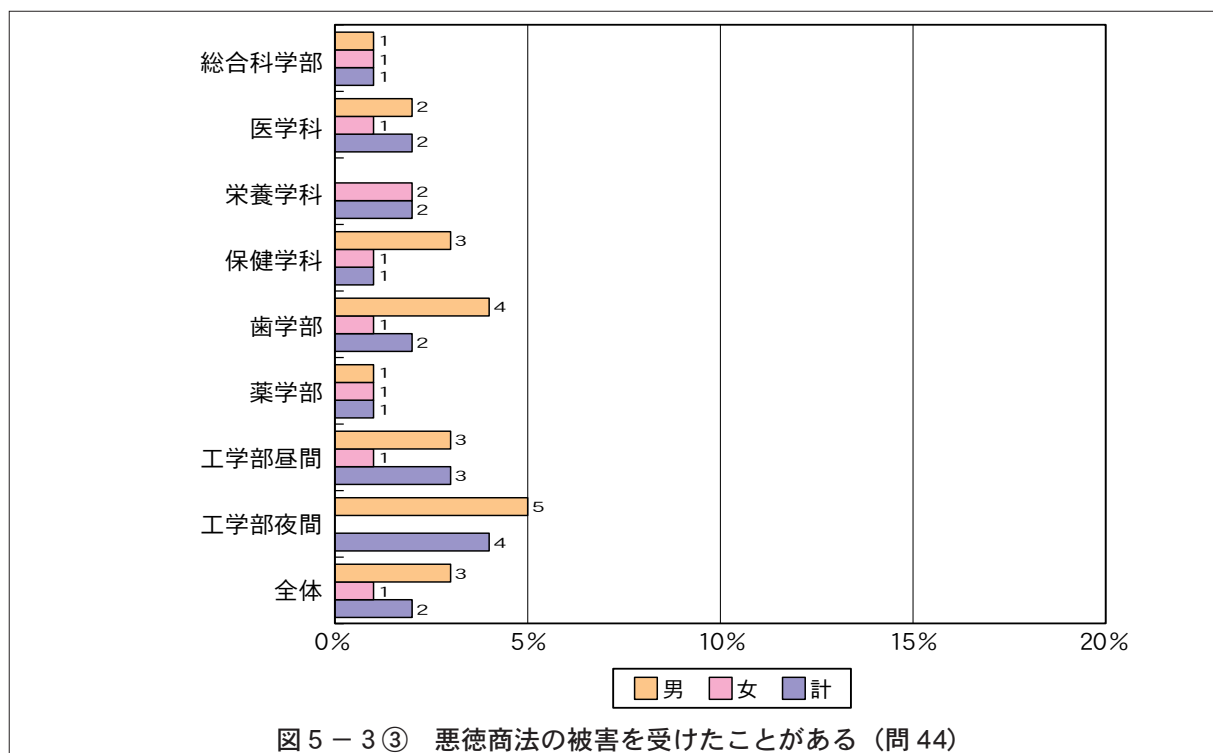
「迷惑行為を受けていない」と回答した学生は、全体で 81% と前回よりも 4% 減少した。男女別でみると、男性では 82% (前回は 85%)、女性では 79% (前回は 83%) と、いずれも前回よりも減少している。「迷惑行為を受けていない」者が最も少なかった学部・学科は、工学部昼間で 79% であった。前回は歯学部と工学部夜間が 79% と最も少なかった。



【悪徳商法】(図 5 - 3 ③)

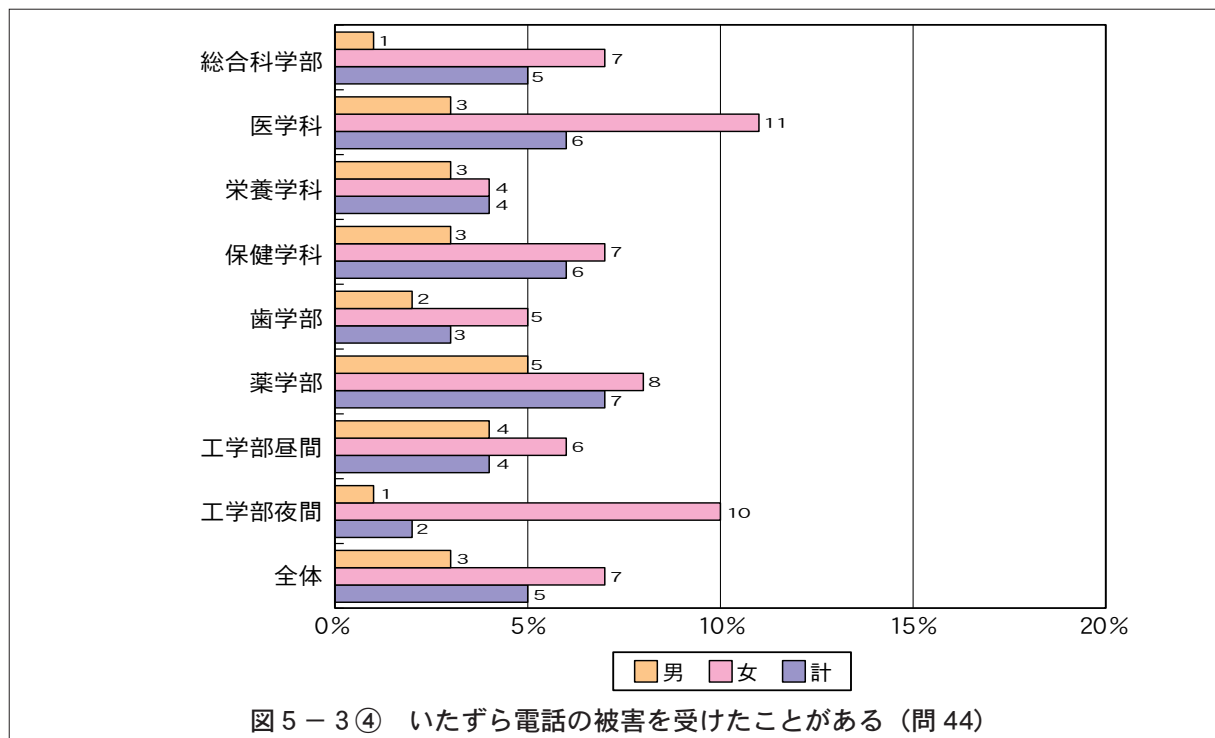
全体で「悪徳商法の被害を受けたことがある」と回答した者は前回と同様 2 %であった。男女別では、男性 3 % (前回も 3 %), 女性 1 % (前回も 1 %) であり、前回と同様の結果となった。また、最も被害経験の多かった学部・学科は工学部夜間で 4 %であった。

前述のとおり、全体における被害者の割合は前回と同じであるが、人数を見てみると、男性 66 人、女性 14 人、合計 80 人であり、前回の男性 50 人、女性 14 人、合計 64 人よりも増加している。今後、各学部・学科においてさらに注意を喚起し、予防に努める必要がある。



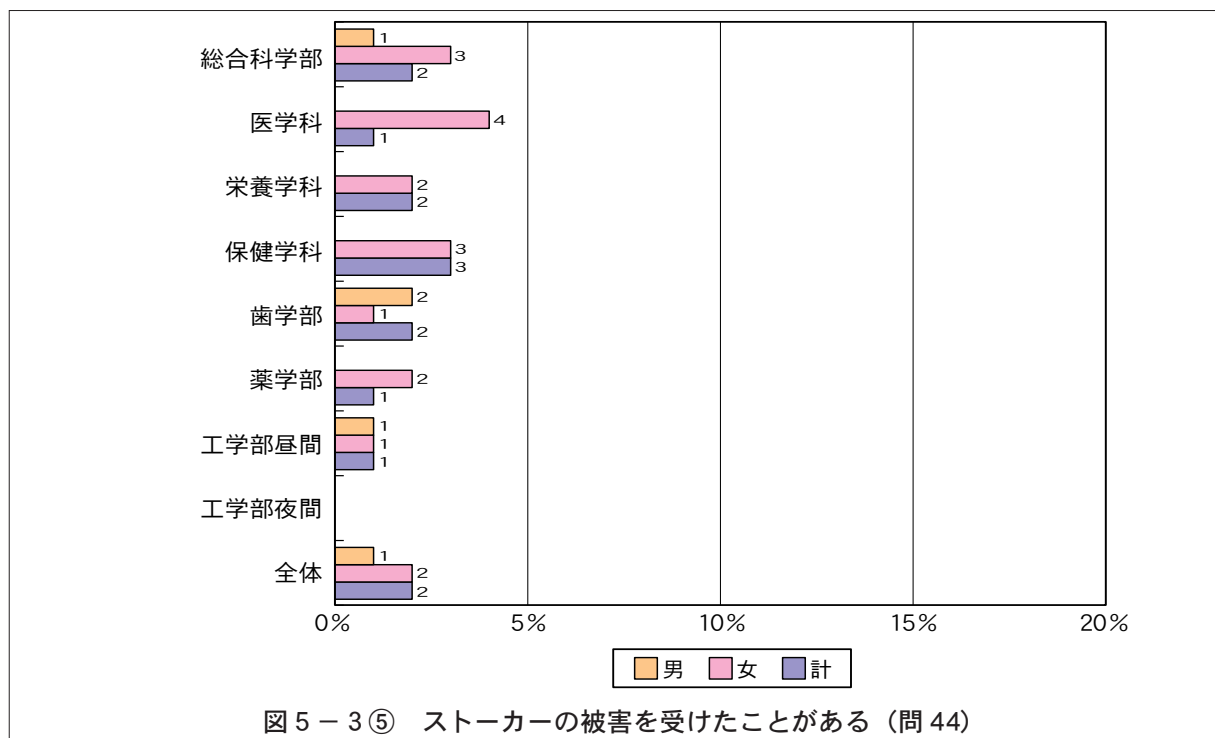
【いたずら電話】(図5-3④)

全体で「いたずら電話の被害を受けたことがある」と回答した者は5%と前回よりも1%減少した。男女別でみると、男性が3%であったのに対し、女性は7%と、女性のほうが被害を受けた者が多かった。この傾向は前回と同じである。また、最も被害経験の多かった学部・学科は薬学部で7%であった。



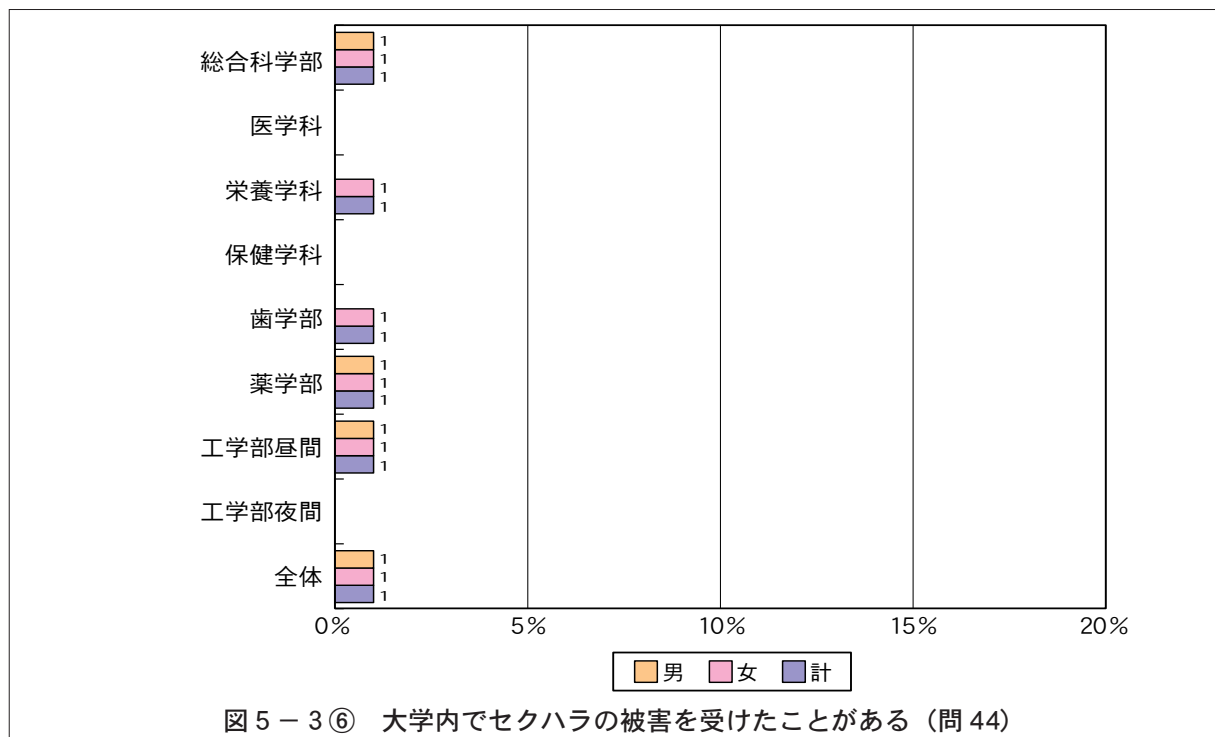
【ストーカー】(図5-3⑤)

全体で「ストーカー被害にあったことがある」と回答した者は2%と前回と同じ割合を示していた。男女別でみると、男性が1%であったのに対し、女性が2%とやや女性のほうが多く、前回と同様の傾向を示した。また、最も被害経験の多かった学部・学科は保健学科であった。



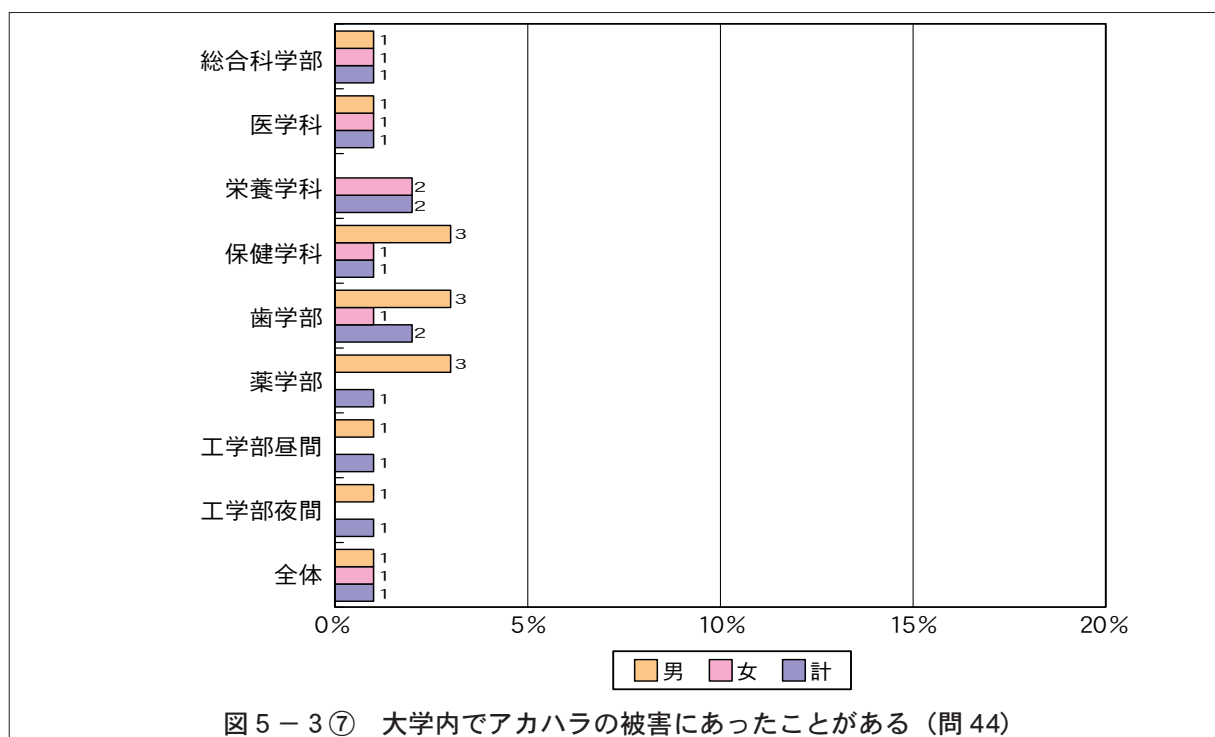
【大学内でのセクハラ】（図5-3⑥）

全体で「大学内でセクハラの被害にあったことがある」と回答した者は1%と、こちらも前回と同じ割合を示した。男女間にも差はなく、いずれも1%であり、これも前回と同様の結果であった。安心して修学できる環境を提供する立場にある大学において、学生が1人でもセクハラの被害を受けることは由々しき問題であるため、さらに学生及び教職員を対象とした予防啓発を徹底する必要がある。



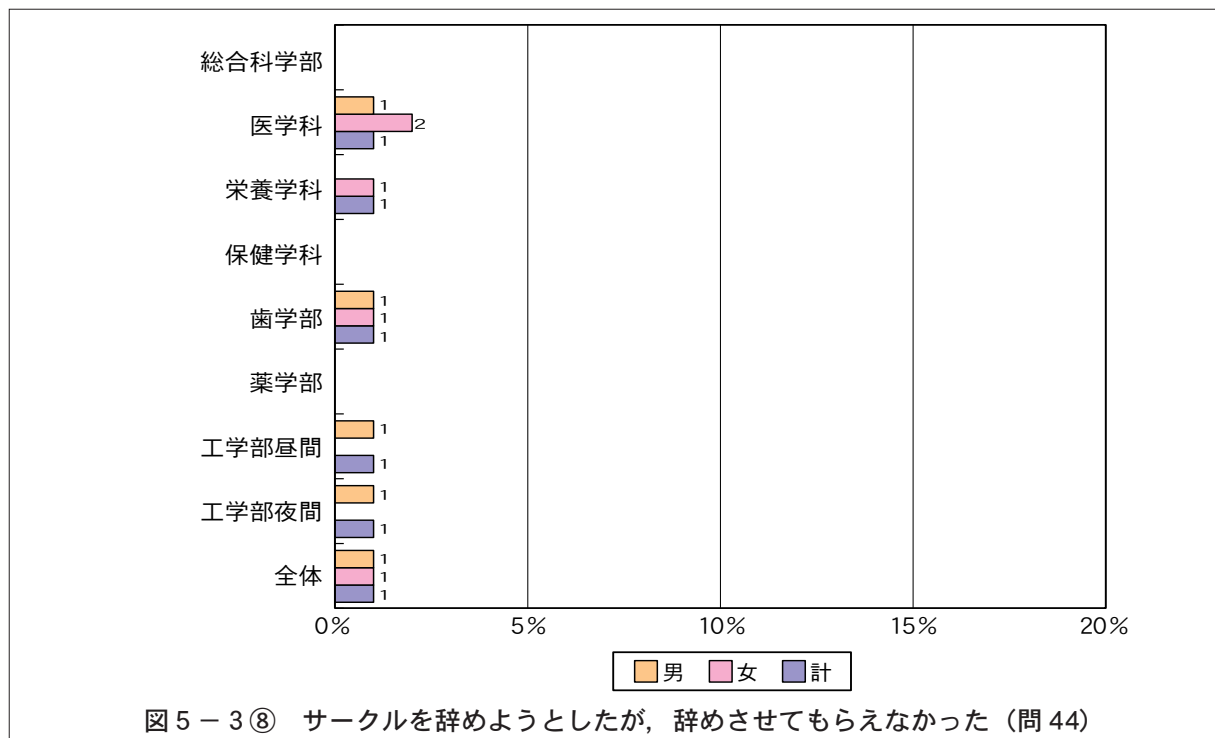
【大学内でのアカハラ】（図5-3⑦）

こちらも、前回同様1%の者が被害を受けていたことがわかった。大学内でのセクハラと同様に、学生及び教職員を対象とした予防啓発を徹底する必要がある。



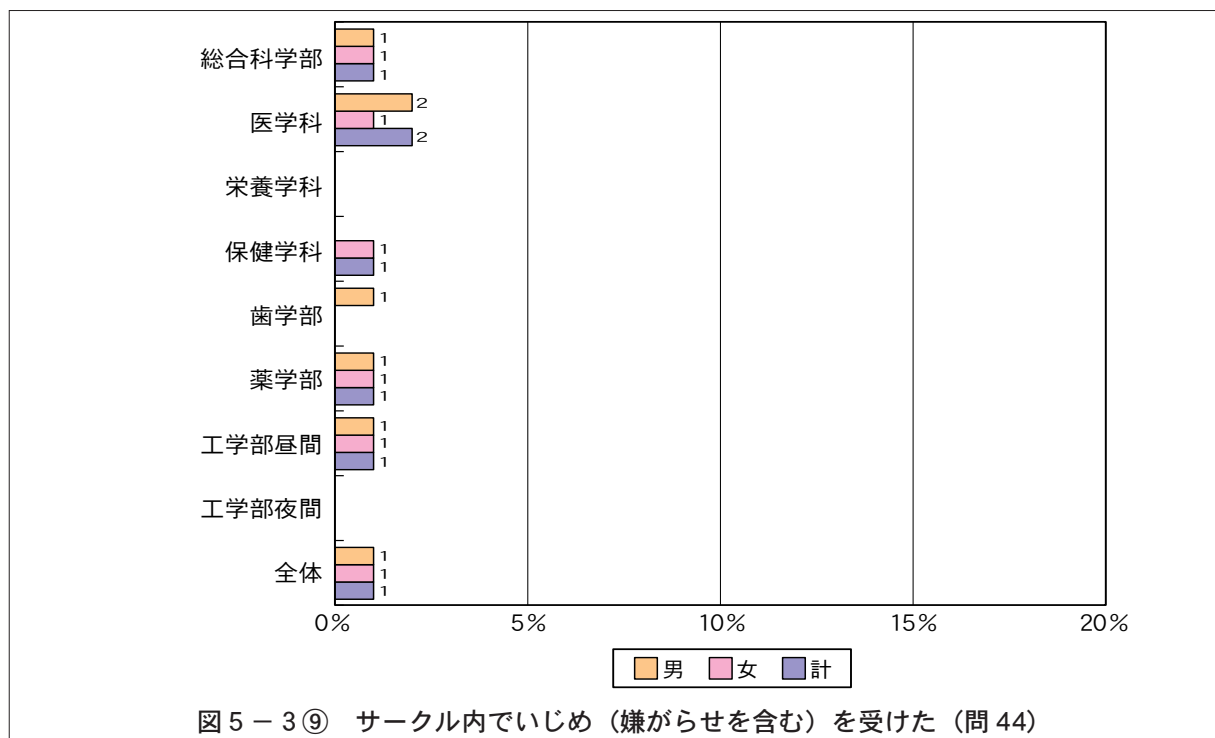
【サークル退部の阻止】(図5-3⑧)

全体において、1%の者がサークルを辞めさせてもらえなかったと回答していた。サークルは本来、個人の意思で参加するものであり、強制されるものではないので、辞めたいときには辞めることができるようにサークル運営の仕方についての指導を強化する必要がある。



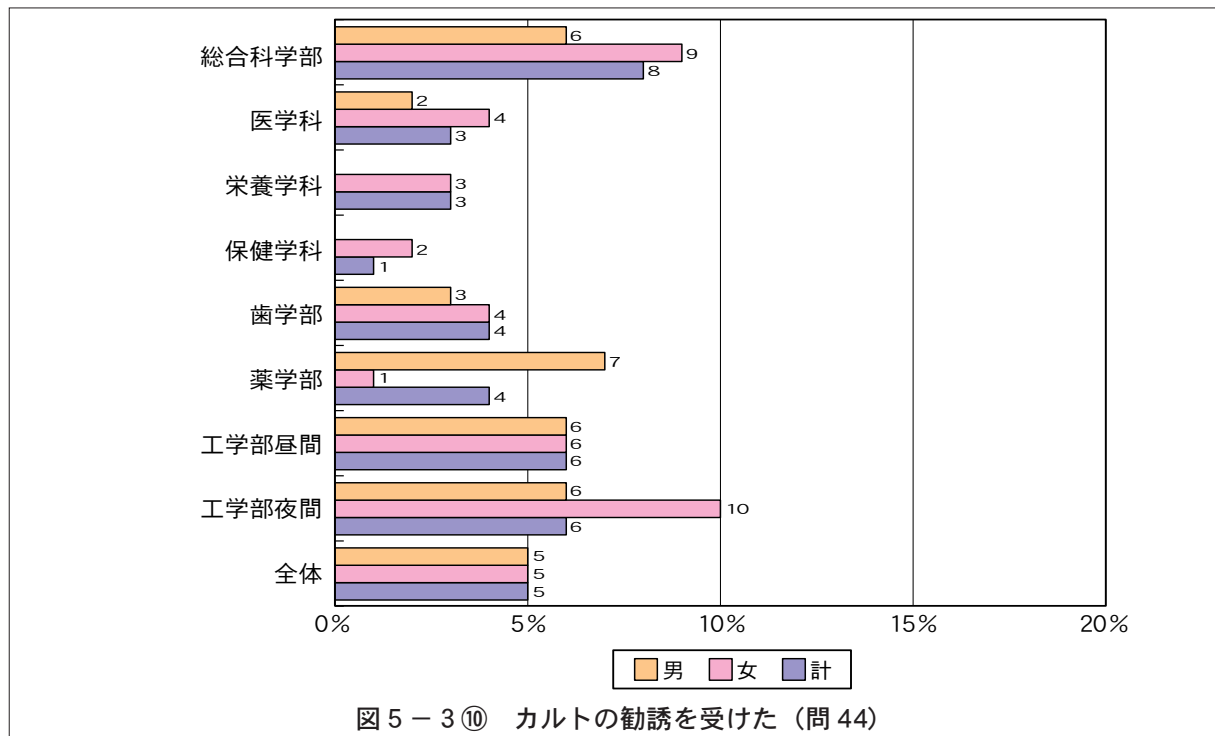
【サークル内でのいじめ】(図5-3⑨)

全体において、サークル内でいじめを受けた者は1%いることがわかった。安心して学生がサークル活動に参加できるように、サークル運営についての指導の中にいじめ防止のテーマも含めることが重要である。



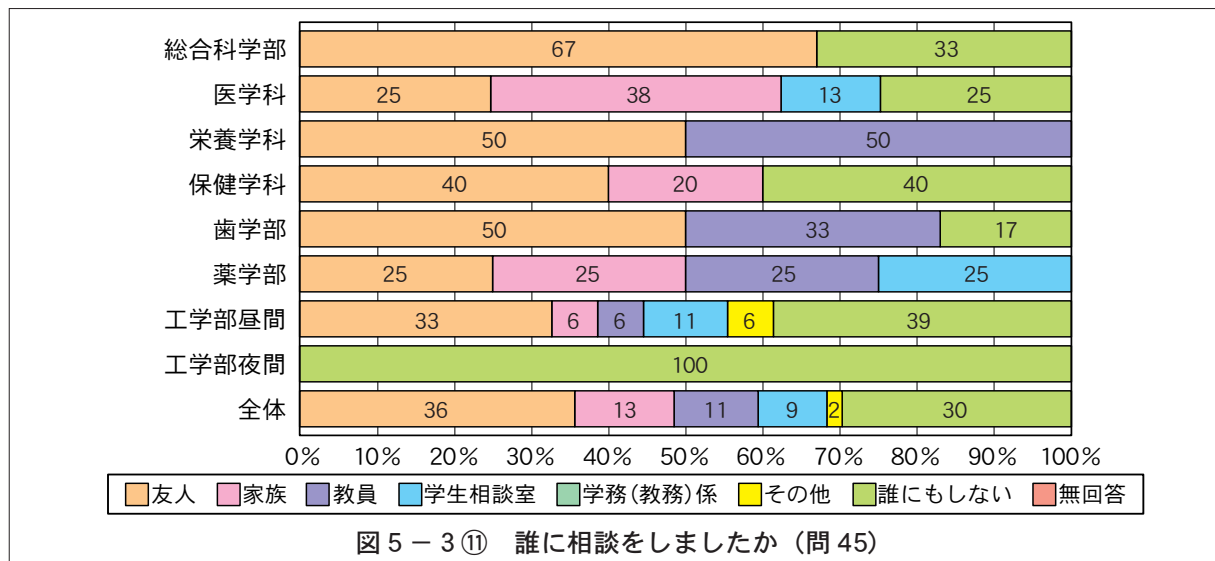
【カルトの勧誘】（図 5 - 3 ⑩）

全体において、5%の者がカルトの勧誘を受けたと回答した。カルトの勧誘を受けた者が最も多かったのは総合科学部で8%であった。カルト勧誘の危険性を学生に周知徹底し、予防に努める必要がある。



【迷惑行為を受けた際の相談先】（図 5 - 3 ⑪）

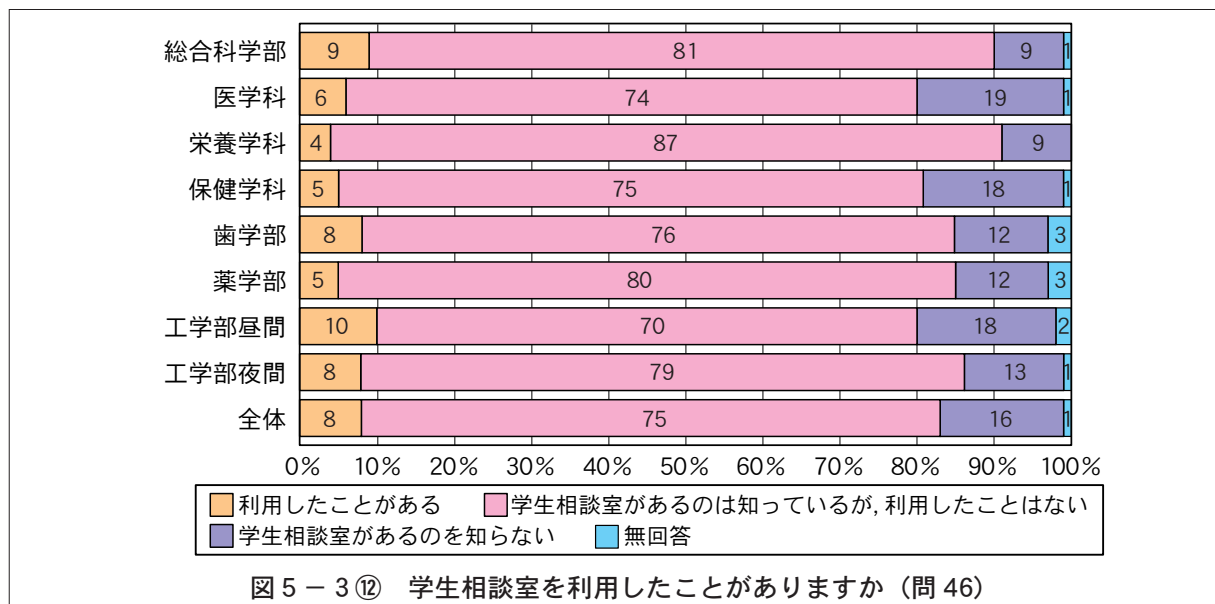
迷惑行為を受けた際の相談先として、最も多かったのは「友人」で36%の者が選択していた。第2位が「誰にもしない」30%，第3位が「家族」と続き、身近な信頼できる他者に相談して解決しようとしている様子が伺える。また、大学スタッフの中では教員が11%と最も多く、次に学生相談室が9%となり、教員や学生相談室のスタッフが被害を受けた学生への支援の要になっていると考えられる。



【学生相談室】（図 5 - 3 ⑫）

学生相談室を利用したことがある者は全体の8%であり、前回の9%と大きな変化はなかった。学部・学科別にみると、最も利用者が多かったのは工学部昼間で10%であった。また、学生相談室の存在

を知らない者が全体の16%と比較的多い。特に、医学科、保健学科、及び工学部昼間では18%～19%と5人に1人が学生相談室を知らないという状況にある。この中には、学生相談室を知らないために、困っていても1人で我慢して、問題をこじらせている学生がいる可能性もある。そうした学生を1人でも助けるため、できるだけすべての学生に学生相談室の存在を知ってもらうことを目的として、学生相談室の広報にさらに力を入れる必要がある。

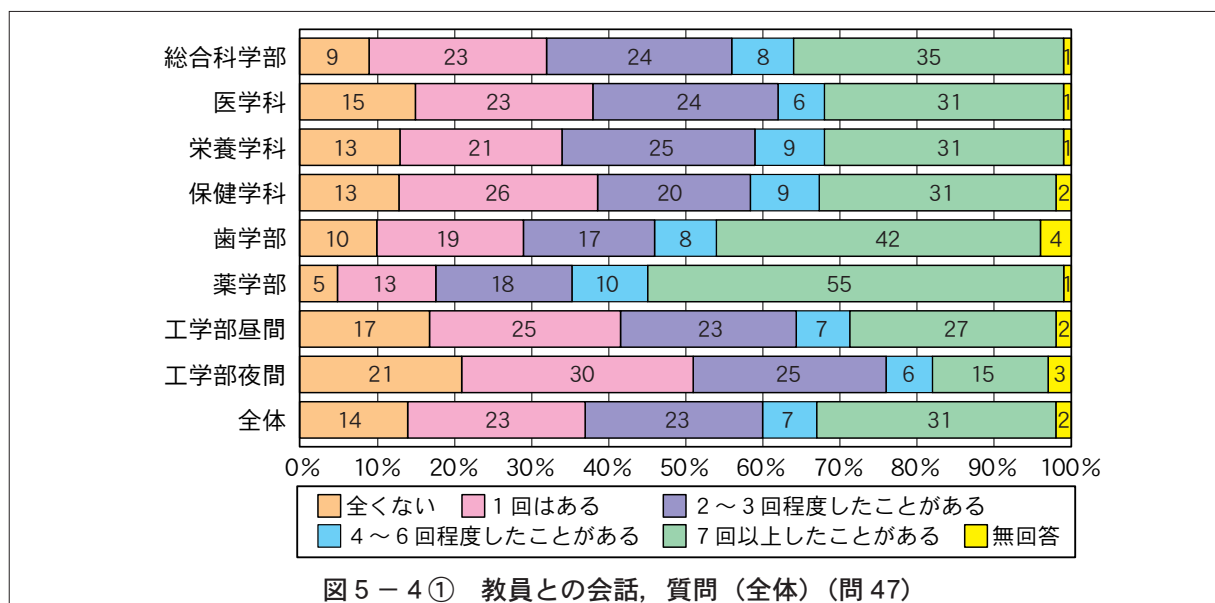


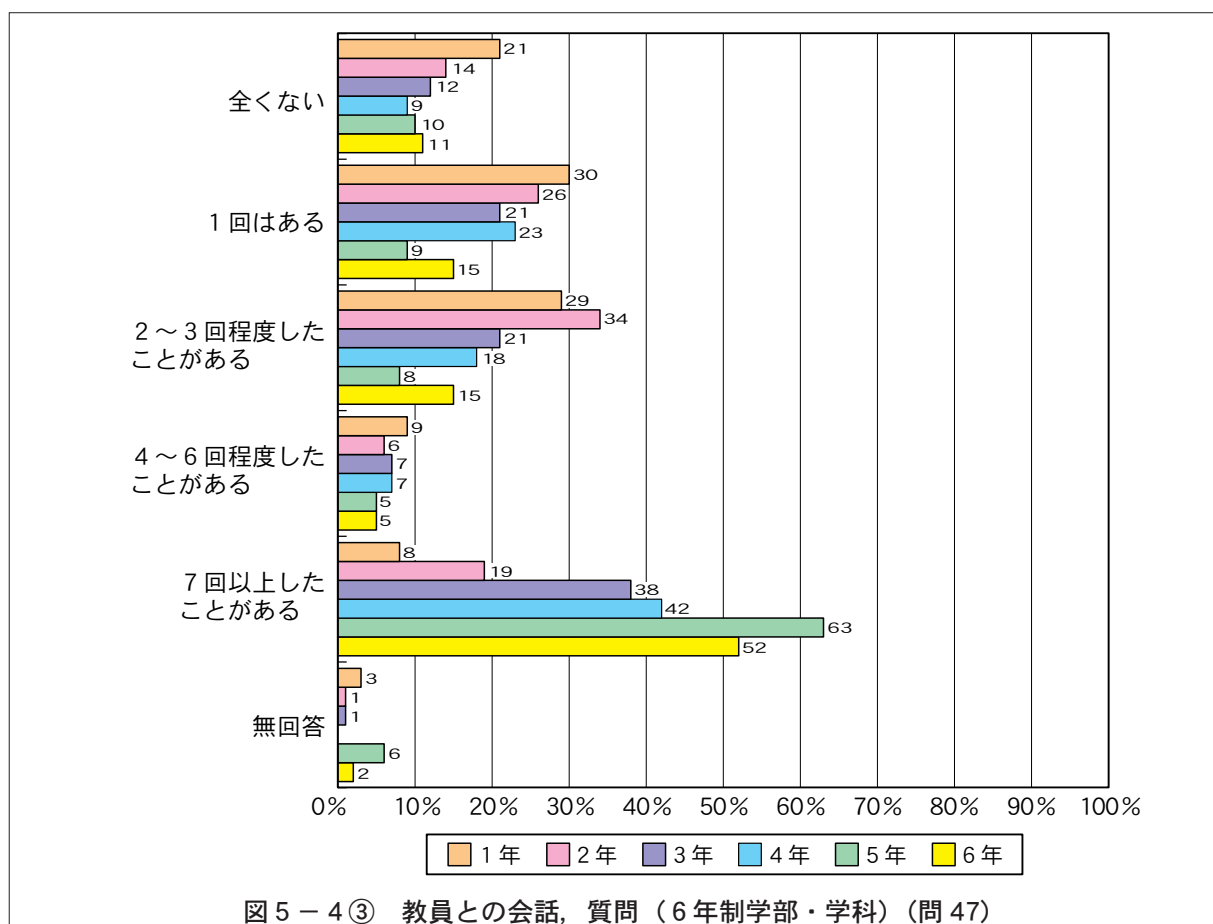
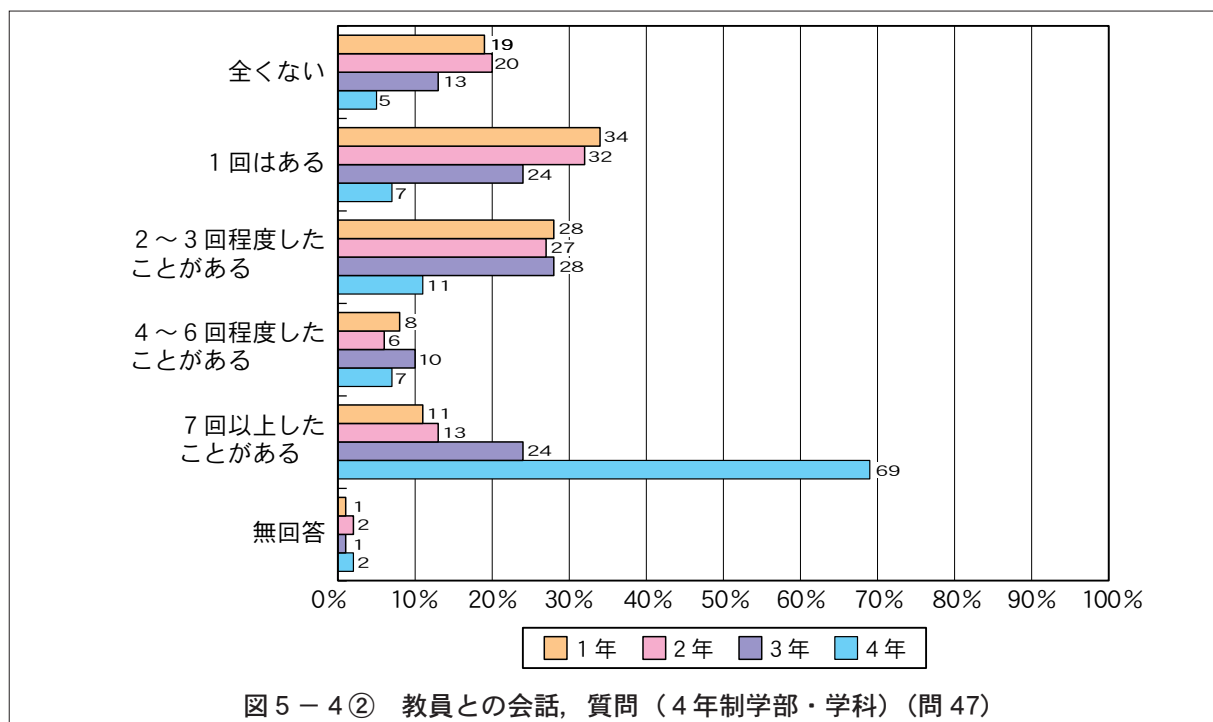
5-4 教職員・友人との交流 (図5-4①～図5-4⑥)

【教員との会話・質問】 (図5-4①～図5-4③)

全体をみると、教職員と7回以上会話・質問をしたことがある者が31%と3人に1人の学生が教員と積極的に交流している様子が伺える。ただし、前回よりは4%減少している。

また、一方で、教員に一度も会話・質問したことがない者が14%もいて、前回よりも2%増加している。これらの結果から、前回よりも教員との交流が少し減少していると考えられる。学部別にみると、医学科・薬学部・歯学部以外の学部は、全く教員に会話・質問をしたことがない者が前回よりも1～4%増加している。その中でも最も多かったのは工学部夜間で21%であった。学年が上がるにつれて教員

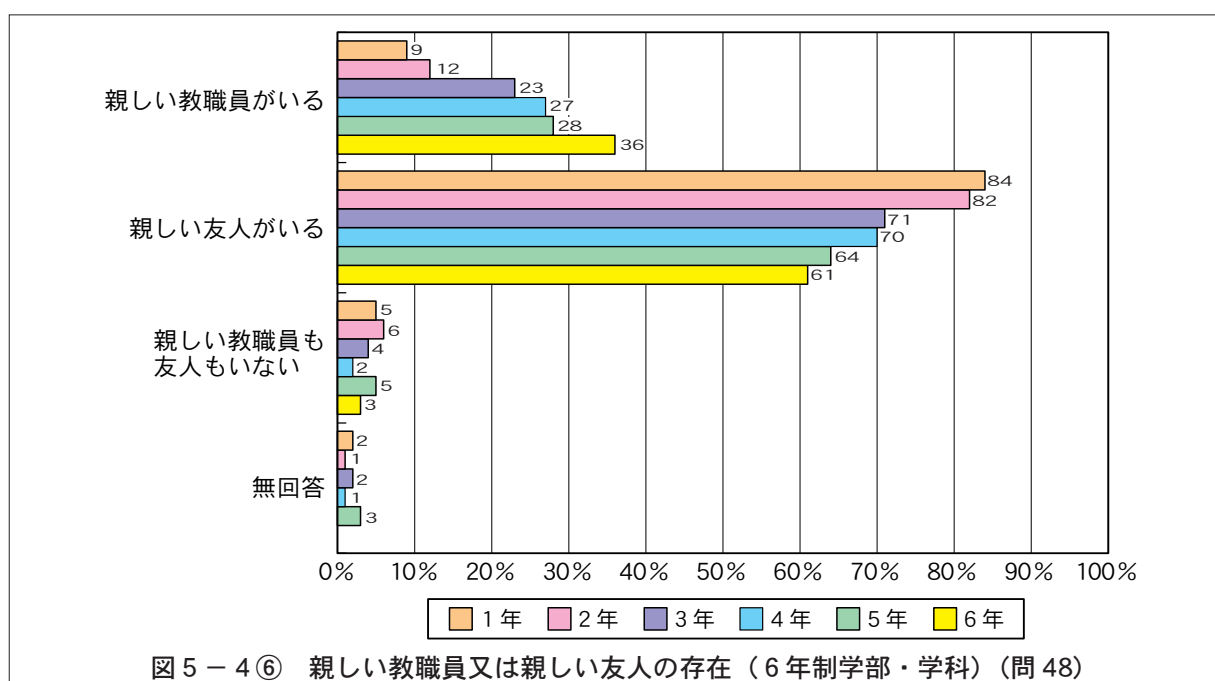
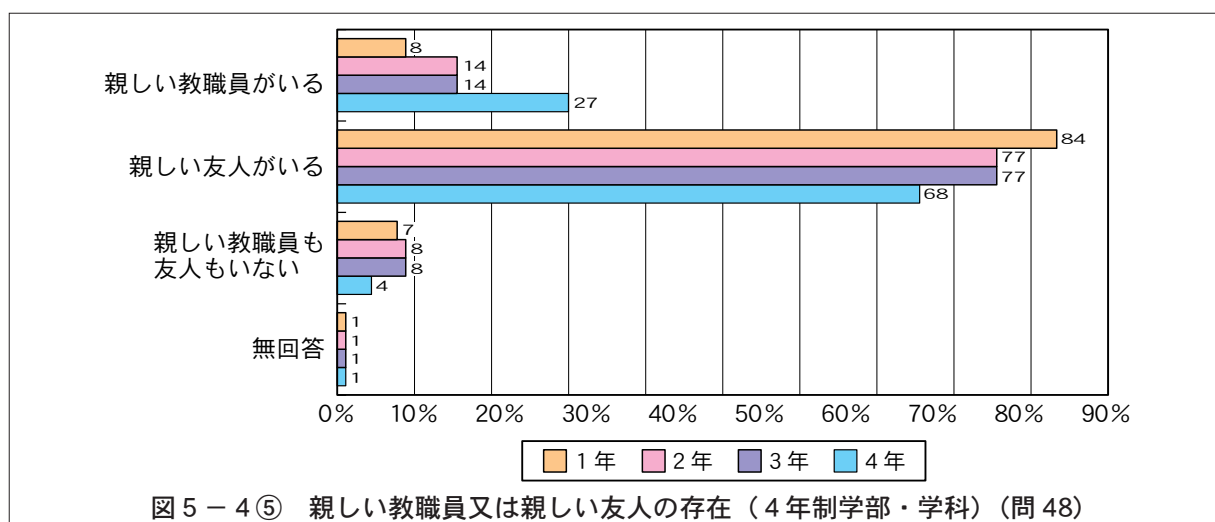
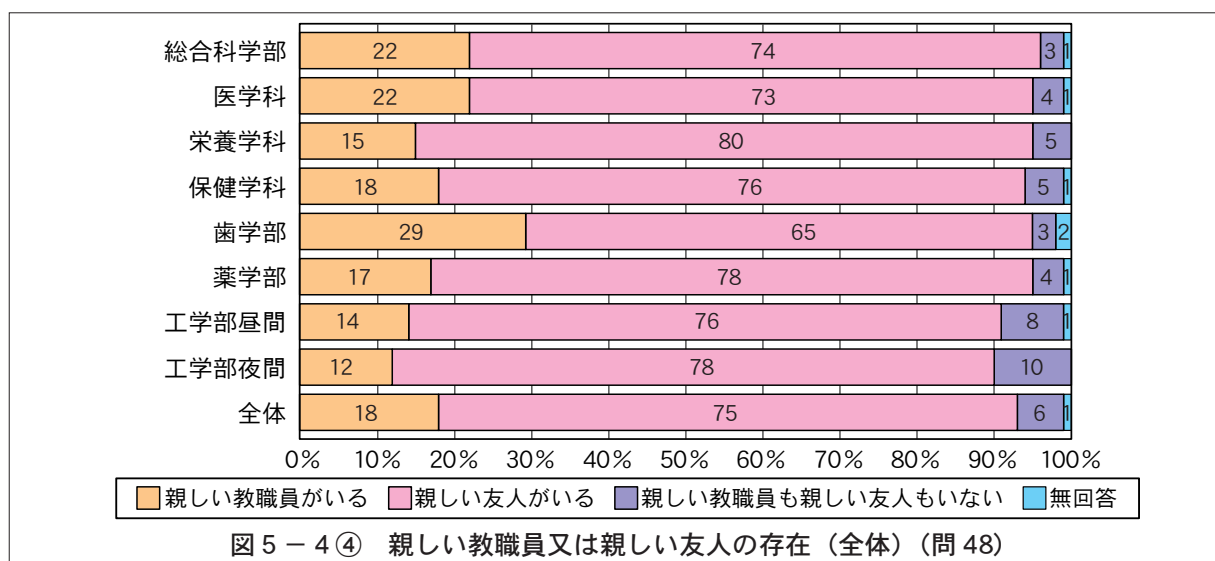




に会話・質問する回数が増えているが、これは指導体制が個別化する影響によると考えられる。全く教員に会話・質問をしたことがない学生の中には他者との交流に苦手意識や強い恐怖を感じて、交流したいのにできないという学生も含まれていると考えられる。そのため、こうした学生に対しては、特に低学年ほど新入生合宿研修などの行事の時や日ごろの授業において教員から積極的に働きかけていく必要がある。

【親しい教職員・親しい友人の存在】（図5-4④～図5-4⑥）

全体では、親しい友人がいると回答した者が75%、親しい教職員がいると回答した者が18%、合わ



せて93%の者が親しい他者をもっていることがわかった。また、どの学部・学科においても90%以上の者が親しい他者をもっていること、そして学年が上がるにつれて親しい教職員をもつ者が増加することも見出された。その一方で親しい友人も教職員もいないと回答した者が6%存在し、学年が上がってもそれほど減少しないこともわかった。こうした学生の中には他者との交流をほとんどもっていない者が含まれている可能性がある。そのため、彼らの生活が閉鎖的になって成長を阻害することのないように、関係する教職員が特に気にかけて必要な支援を提供する必要がある。

5-5 大学事務室の対応への満足度 (図5-5)

全体でみると、満足している者が17%、ほぼ満足している者が25%、合わせて42%と約4割の者が大学事務室の対応に満足しており、前回の33%を大きく上回った。このことは、大学事務室のスタッフが学生のニーズに応じたきめ細やかな対応に努めたことの表れと考えられる。その一方で、前回よりも9%も減少したものの、やや不満足が10%、不満足が9%、合わせて19%の者が大学事務室の対応に不満を感じていることもわかった。このことから、大学事務室においてはさらに学生のニーズに合ったきめ細やかな対応を行うように努める必要がある。

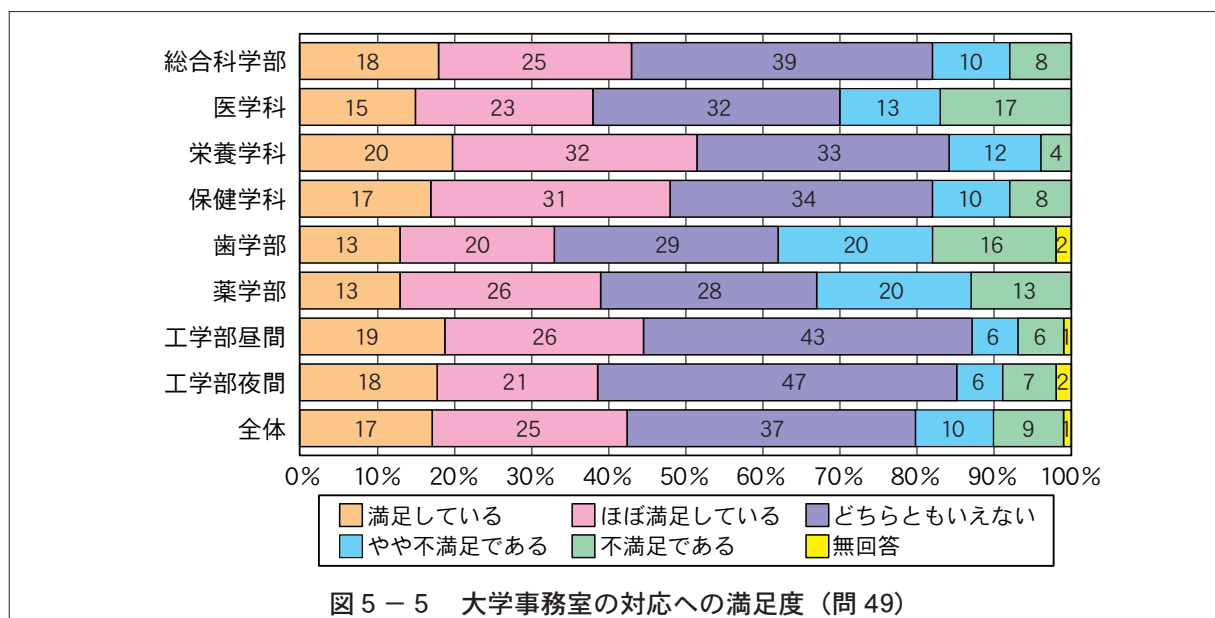


図5-5 大学事務室の対応への満足度 (問49)

5-6 盗難等犯罪被害 (図5-6①~図5-6⑤)

【盗難等犯罪被害】 (図5-6①~図5-6③)

全体でみると、76%の者が被害を受けたことがないと回答し、前回とほぼ同様の結果となった。また、被害を受けた者の中で最も多かったのは「盗難 (盗み)」で18%もあり、これも前回と同様の結果となった。特に多かったのは工学部昼間で23%、ついで工学部夜間で22%と、5人に1人の学生が盗難被害にあっていた。また、男女別でみると、盗難被害は男性のほうが女性よりも多く、23%もあった。今後も盗難を中心とした防犯教育を徹底する必要がある。

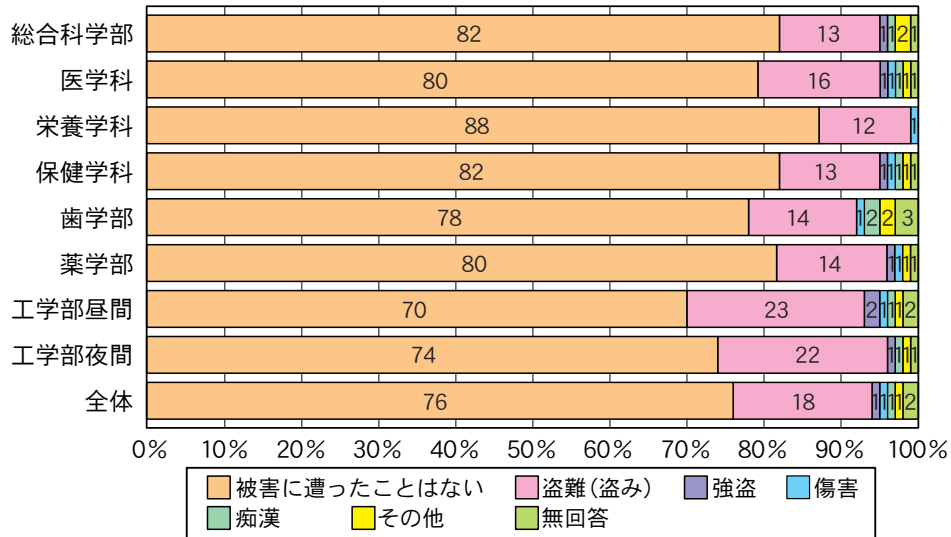


図5-6① 盗難等犯罪被害（全体）（問50）

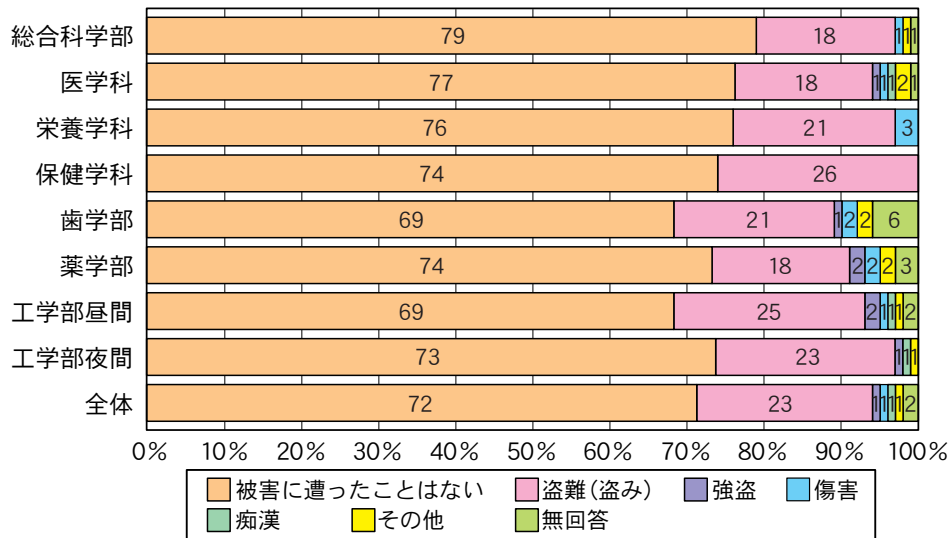


図5-6② 盗難等犯罪被害（男子）（問50）

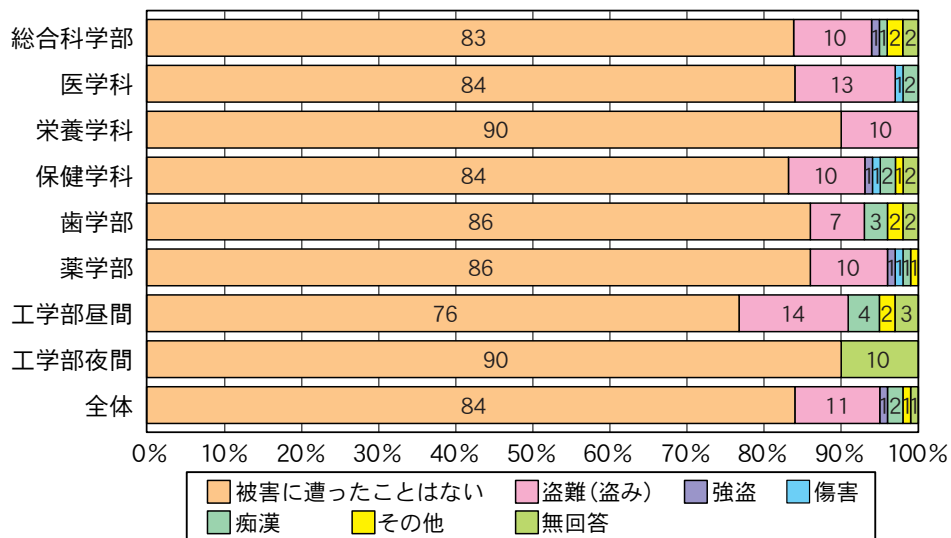
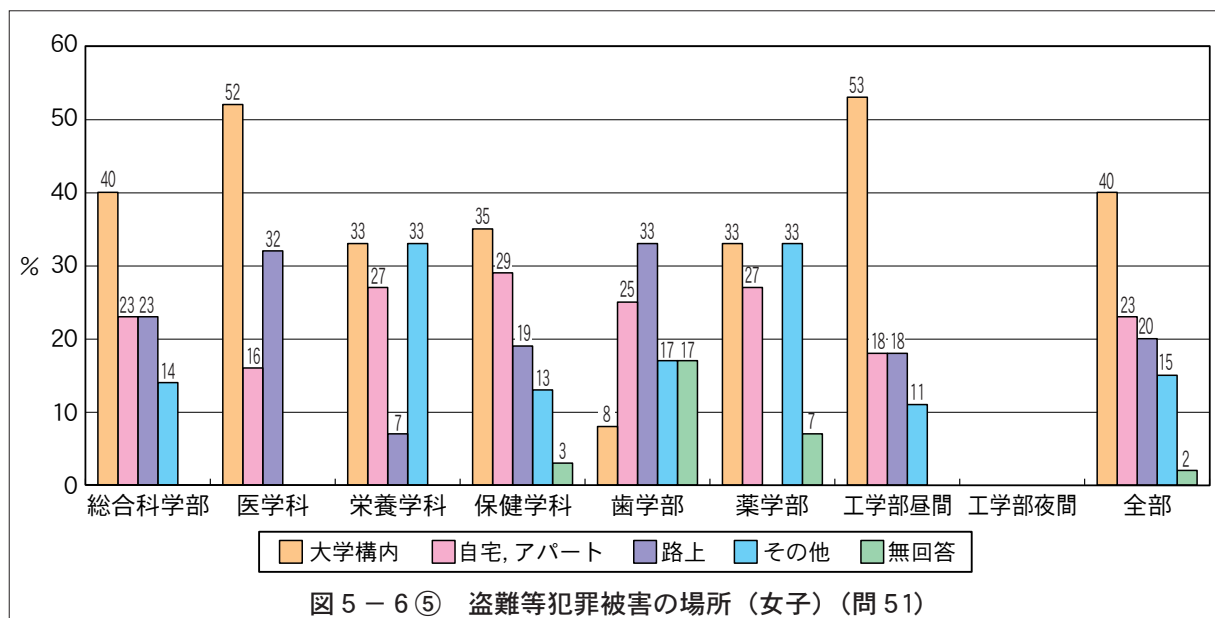
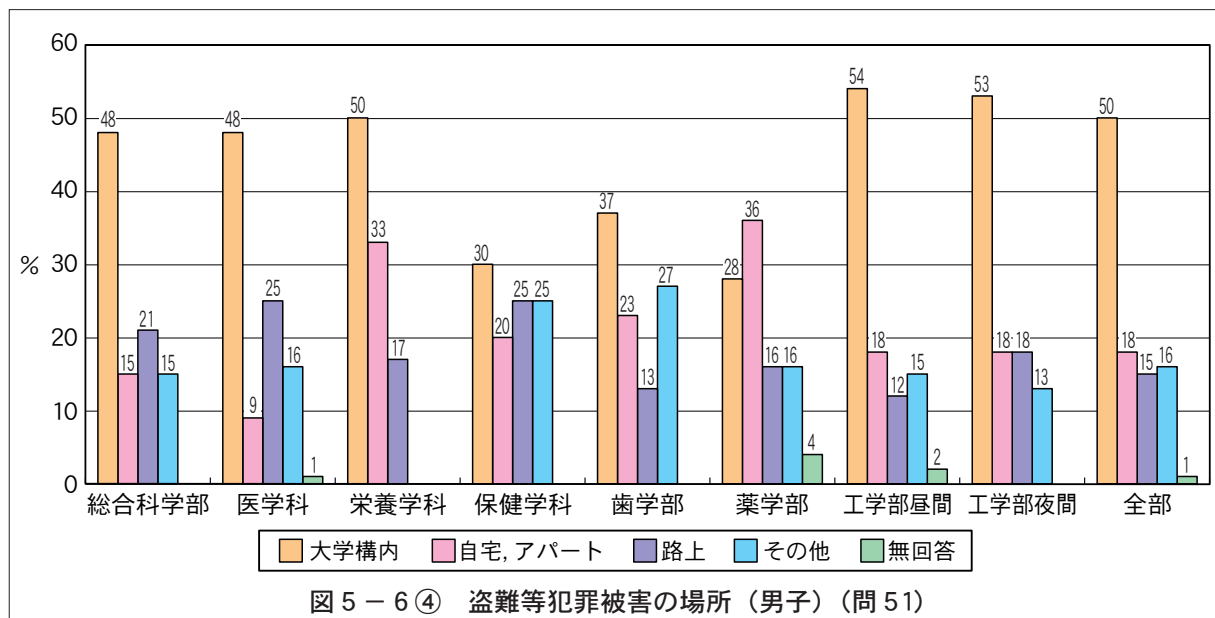


図5-6③ 盗難等犯罪被害（女子）（問50）

【盗難被害場所】（図5-6④, 図5-6⑤）

男女とも、盗難等の犯罪被害を受けた場所で最も多かったのは大学構内で男性が50%、女性が40%といずれも高い割合を示した。こうしたことから防犯教育を徹底し、構内のいたるところに防犯意識を高める啓発ポスターを掲示するなどの対策が求められる。また、大学構内で起こった盗難等犯罪被害については、即座に全学に通知し、注意を呼びかけて再発防止を図ることが求められる。また、大学には盗難等犯罪被害時の警察官の立入りに関するガイドラインが用意されている。そうしたことも含めて、学生委員会委員が十分に知識をもって適切に対応できるよう、定期的な研修を行う必要がある。



第6章 修学状況について

6-1 本学を選んだ理由と所属学部への満足度 (図6-1①, 図6-1②)

本学を選んだ理由(複数回答可)は「国立大学だから」が最も多く(26%)、続いて「希望する学部・学科があったから」が22%、「地元の大学だから」が18%となっており、前回調査と同様の傾向を示している(図6-1①)。学部別の結果も前回調査と同様であり、総合科学部と工学部では「国立大学だから」との回答が最も多い(総合科学部:29%、工学部昼間:29%、工学部夜間:26%)。一方、医学部と歯学部、薬学部では「希望する学部・学科があったから」との回答が最も多く(医学部:30%、歯学部:30%、薬学部:36%)、入学時における目的意識の高さがうかがわれる。

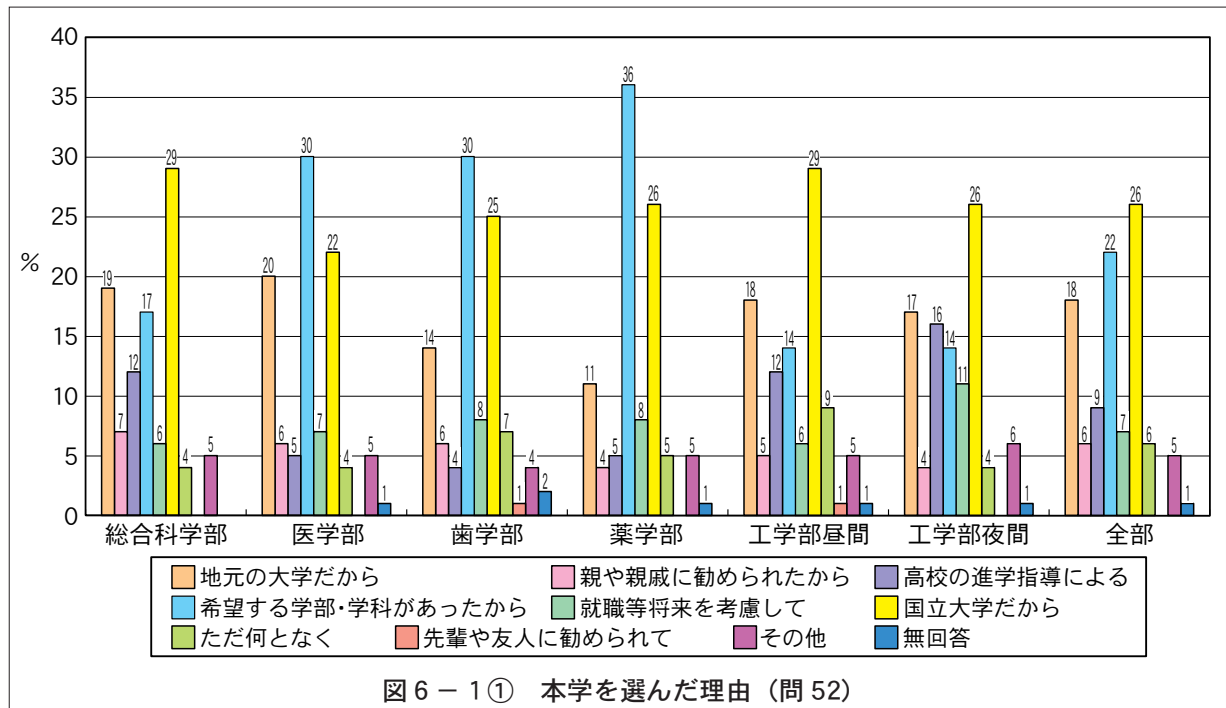


図6-1① 本学を選んだ理由 (問52)

所属学部・学科に「満足している」と回答した学生は32%であり、「ほぼ満足している」と答えた学生(33%)と合わせて65%であった(図6-1②)。一方、「やや不満足である」は8%、「不満足である」は5%となっている。学部別に見ると、医学部の満足度(満足している:47%、ほぼ満足してい

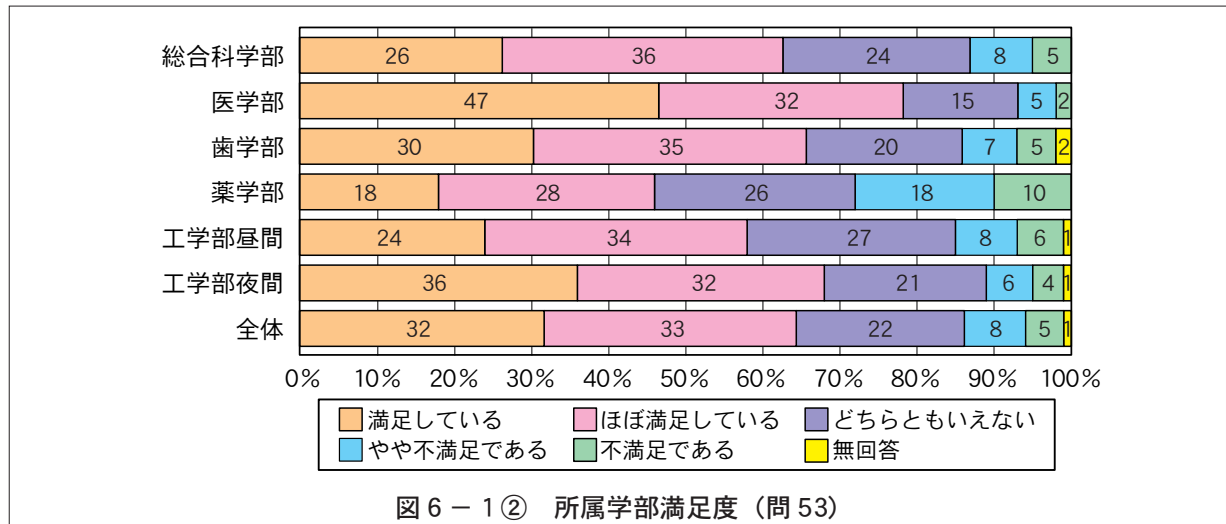
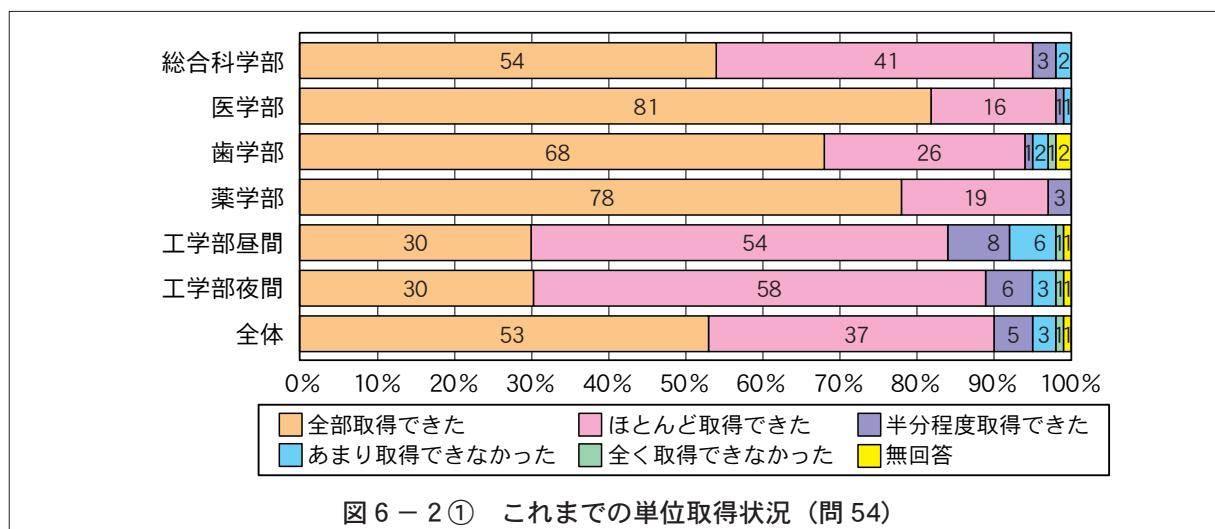


図6-1② 所属学部満足度 (問53)

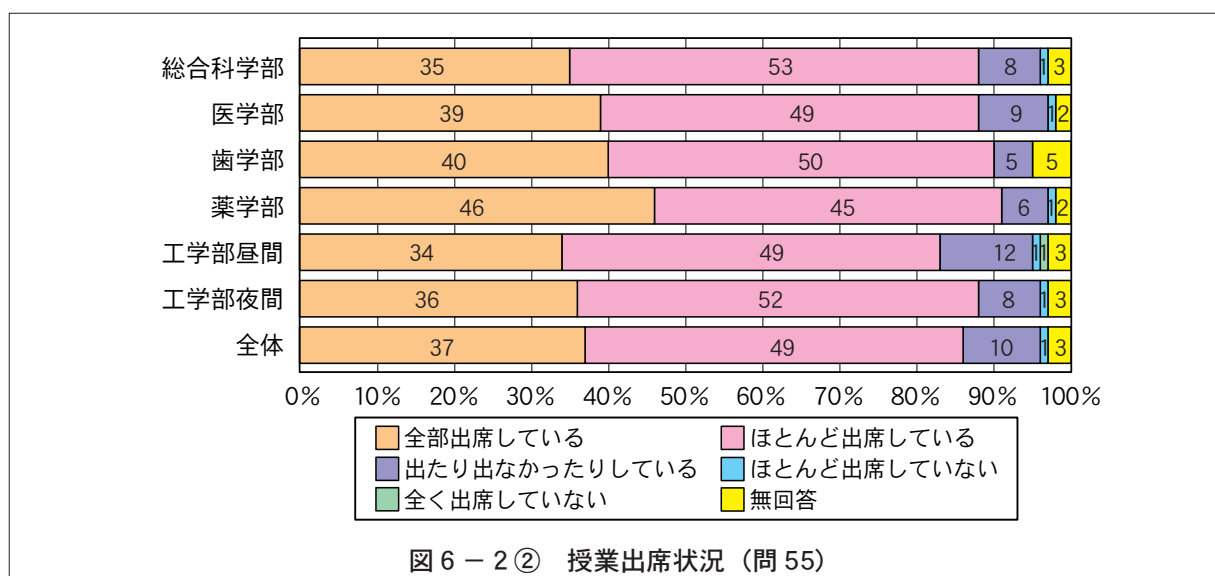
る:32%)が非常に高いのに対し、薬学部では「満足している(18%)」と「ほぼ満足している(28%)」を合わせた回答が50%を下回っている。

6-2 単位取得状況と授業出席状況 (図6-2①~図6-2③)

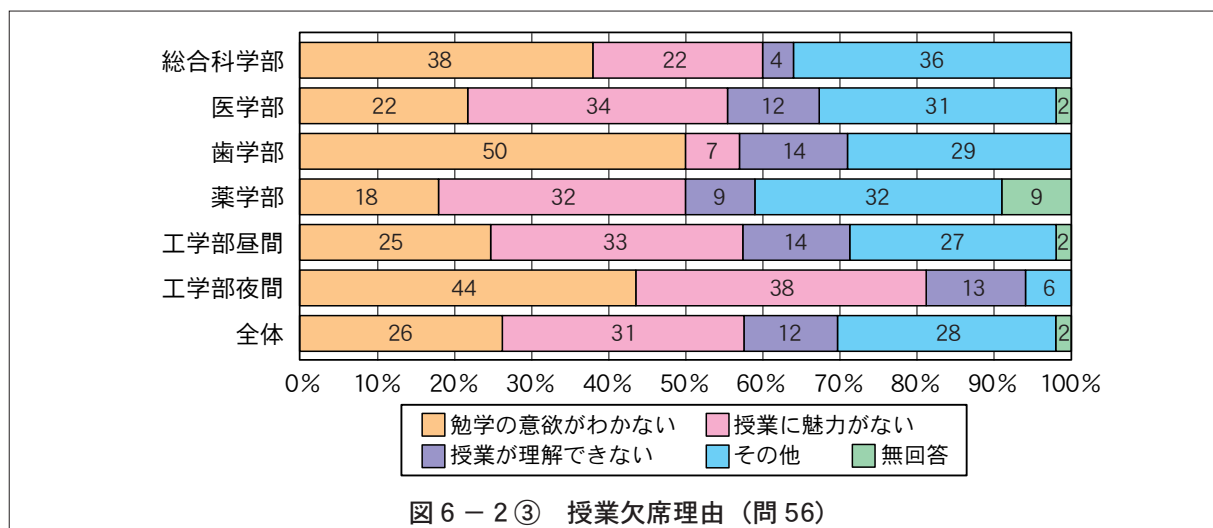
図6-2①より、これまでの単位取得状況について「全部取得できた」(53%)または「ほとんど取得できた」(37%)と回答した学生の割合は90%であり、前回調査(91%)とほぼ同じ割合であった。学部別に見ると、工学部では「全部取得できた」または「ほとんど取得できた」と回答した学生の割合(昼間:84%, 夜間88%)が前回調査と同様に全体平均を下回っている。



また、授業の出席状況について、図6-2②より、「全部出席している」(37%)または「ほとんど出席している」(49%)と回答した学生の割合は、86%であった。学部別に見ると、工学部昼間では「全部出席している」または「ほとんど出席している」と回答した学生が83%であり、前回調査と同様に全体平均を下回っている。

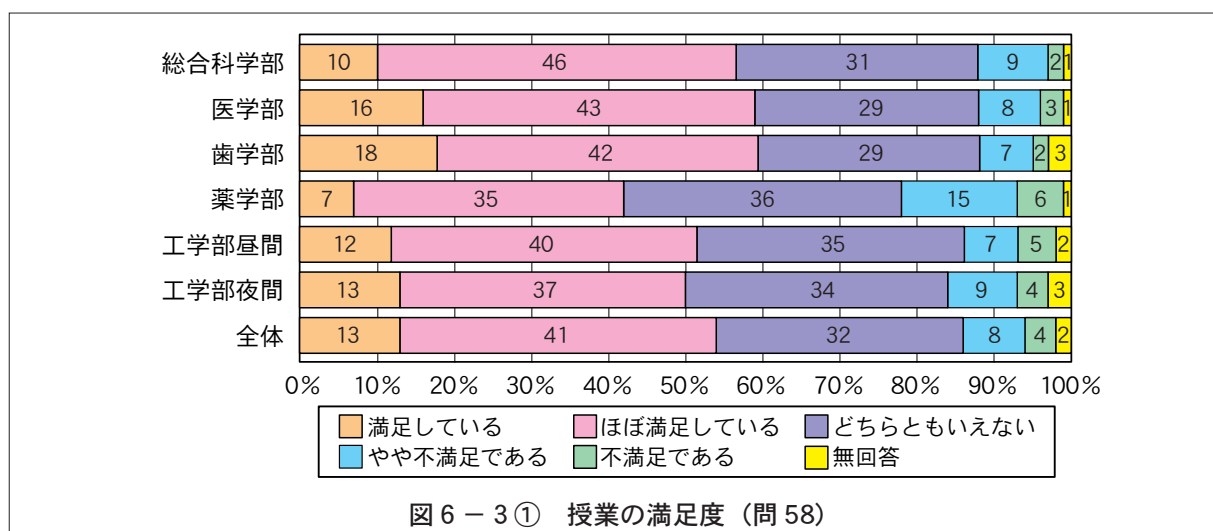


授業の欠席理由(複数回答可)については、「授業に魅力がない」が最も多く(31%),続いて「勉学の意欲がわからない」が26%,「授業が理解できない」が12%であった(図6-2③)。教員には、より魅力的な授業を行うための一層の努力が望まれる。

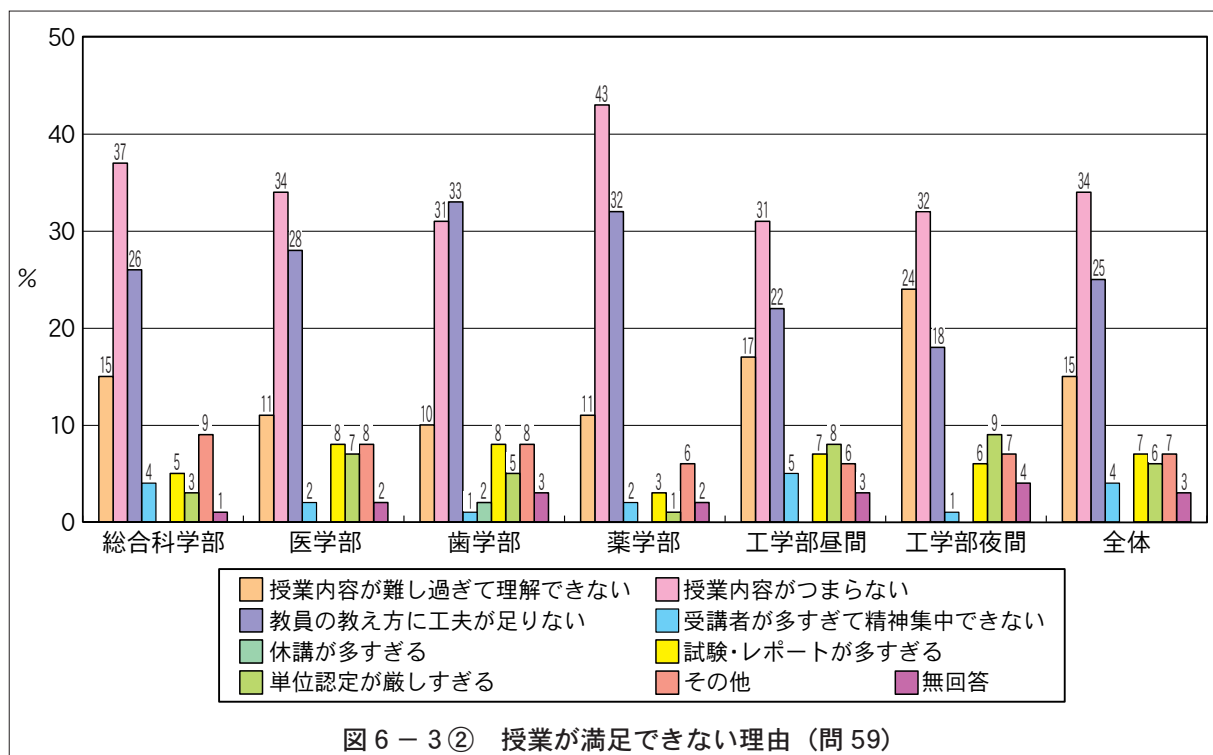


6 - 3 授業の満足度 (図 6 - 3 ①, 図 6 - 3 ②)

図 6 - 3 ①より、受講している授業への満足度に対する設問に対しては、「ほぼ満足している」との回答 (41%) が最も多く、続いて「どちらともいえない」が 32%、「満足している」が 13%、「やや不満足である」が 8%、「不満足である」が 4%となっている。学部別に見ると、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答は、前回調査 (42%) と同様に薬学部 (42%) が最も低かった。

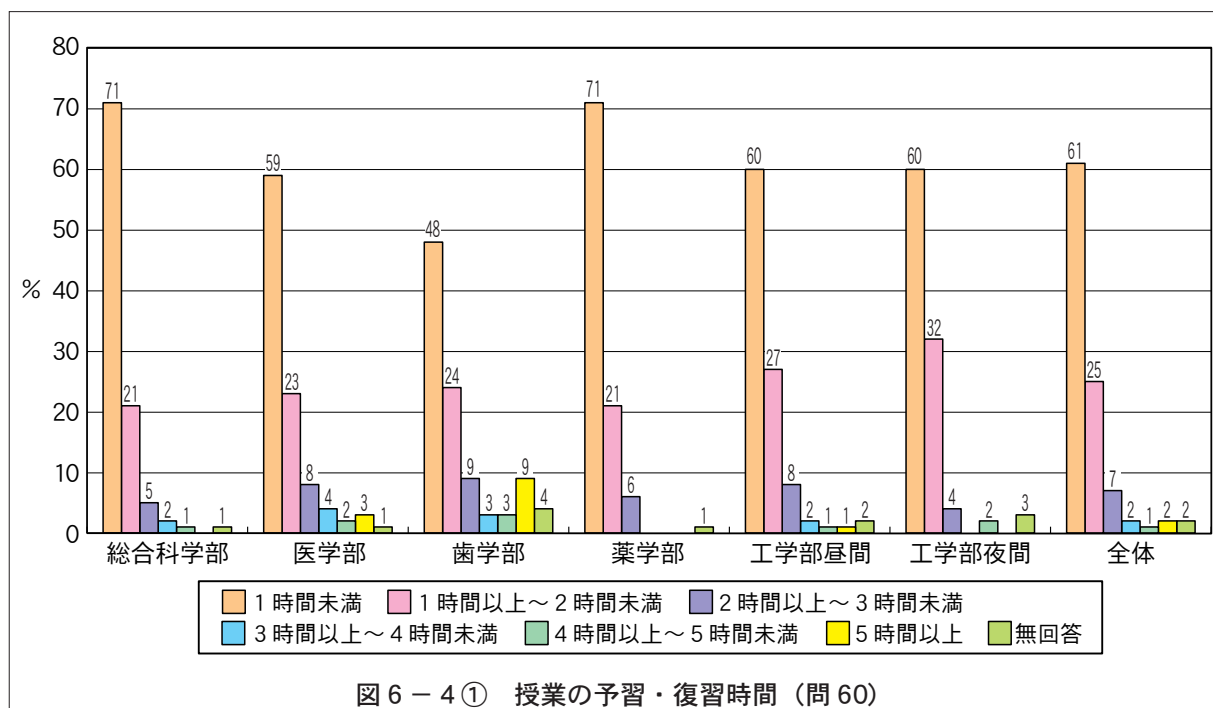


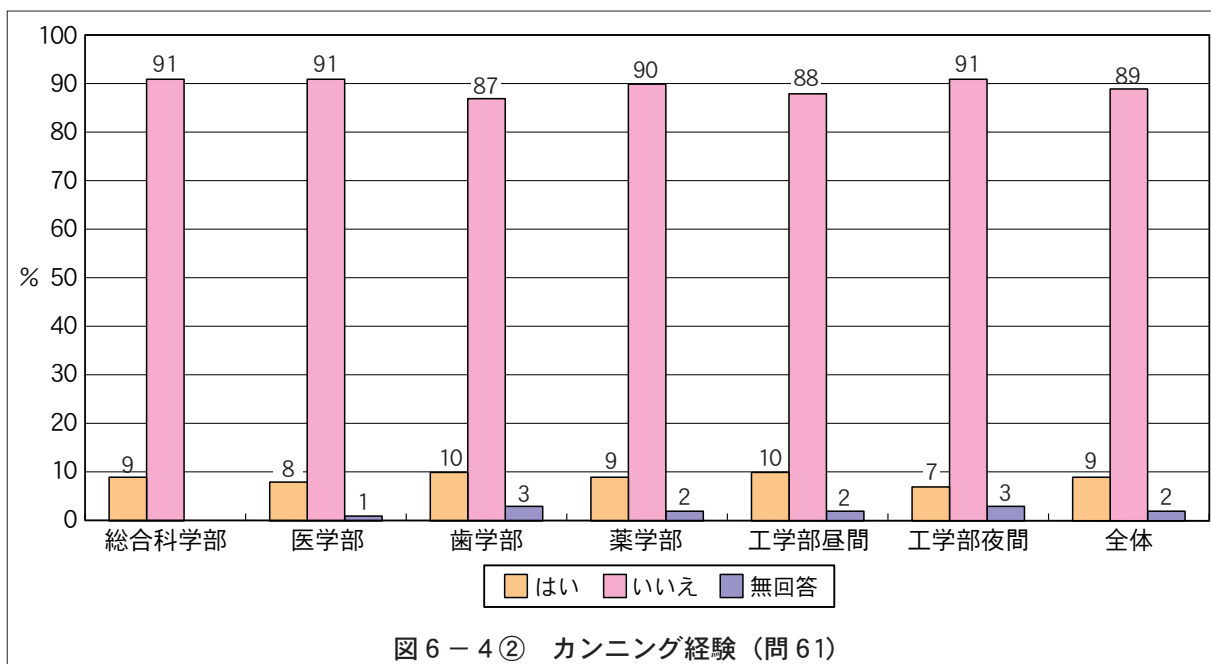
授業が満足できない主な理由 (複数回答可) は、「授業内容がつまらない」が最も多く (34%)、「教員の教え方に工夫が足りない」が 25%、「授業内容が難しすぎて理解できない」が 15%となっている (図 6 - 3 ②)。



6-4 授業予習復習時間とカンニング経験 (図 6-4①, 図 6-4②)

授業の予習・復習に費やす1日の平均時間は、「1時間未満」との回答(61%)が最も多く、次いで「1時間以上～2時間未満」が25%、「2時間以上～3時間未満」が7%となっており、前回調査(1時間未満:62%, 1時間以上～2時間未満:24%, 2時間以上～3時間未満:8%)と同様に予習・復習に費やす時間は短い(図6-4①)。各学部とも同様の傾向ではあるが、「1時間未満」との回答が総合科学部(71%)と薬学部(71%)で多くなっている。一方、歯学部では9%の学生が「5時間以上」と回答しており、「1時間未満」との回答(48%)は他学部よりも低かった。



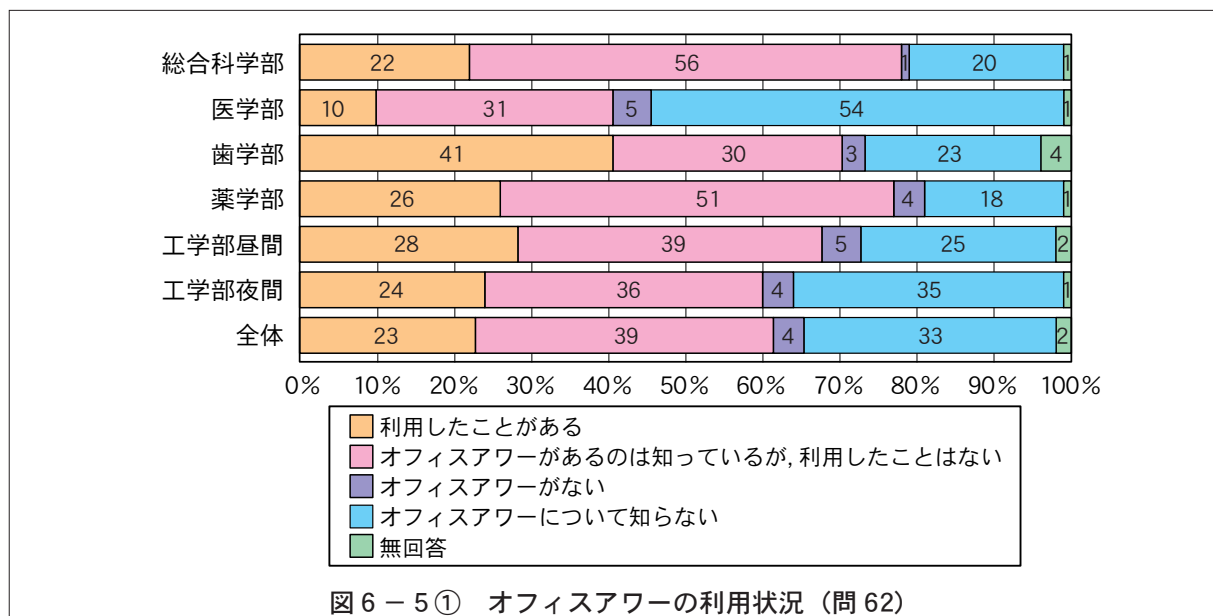


カンニングをしたことがあるかとの設問には、9%の学生が「ある」と回答しており、前回調査(10%)とほぼ同じ結果であった。学部別に見ると、薬学部において「ある」と答えた学生が前回の3%から9%に増加している。カンニングに対する各学部のより一層の厳格な取組が求められる。

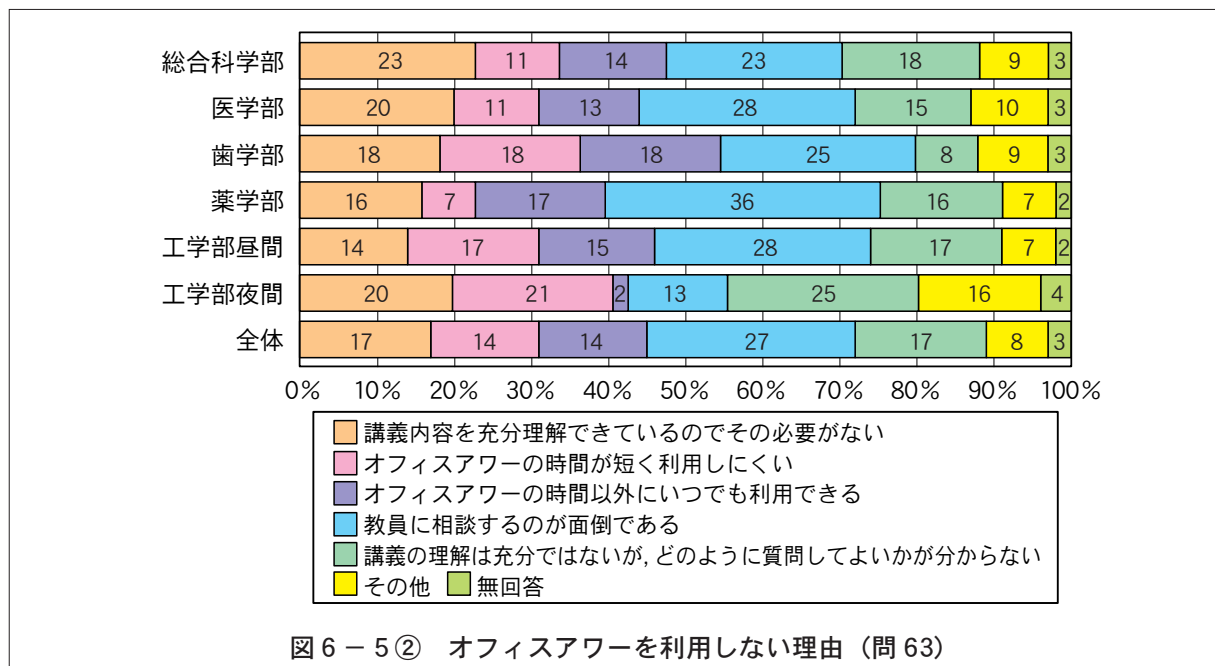
6-5 オフィスアワーの利用状況 (図6-5①, 図6-5②)

オフィスアワーについては、23%の学生が「利用したことがある」と答えており、前回調査(25%)とほぼ同様の結果である(図6-5①)。一方、「オフィスアワーについて知らない」と回答した学生(33%)は前回調査(26%)より増えており、オフィスアワーの周知へ向けた取り組みが必要である。学部別に見ると、医学部でのオフィスアワー利用状況が極端に低い(利用したことがある:10%)。

オフィスアワーを利用しない理由としては「教員に相談するのが面倒である」との回答が最も多く(27%)、次いで、「講義内容が充分理解できるのでその必要がない」と「講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいか分からない」がいずれも17%、「オフィスアワーの時間が短く利用しにく



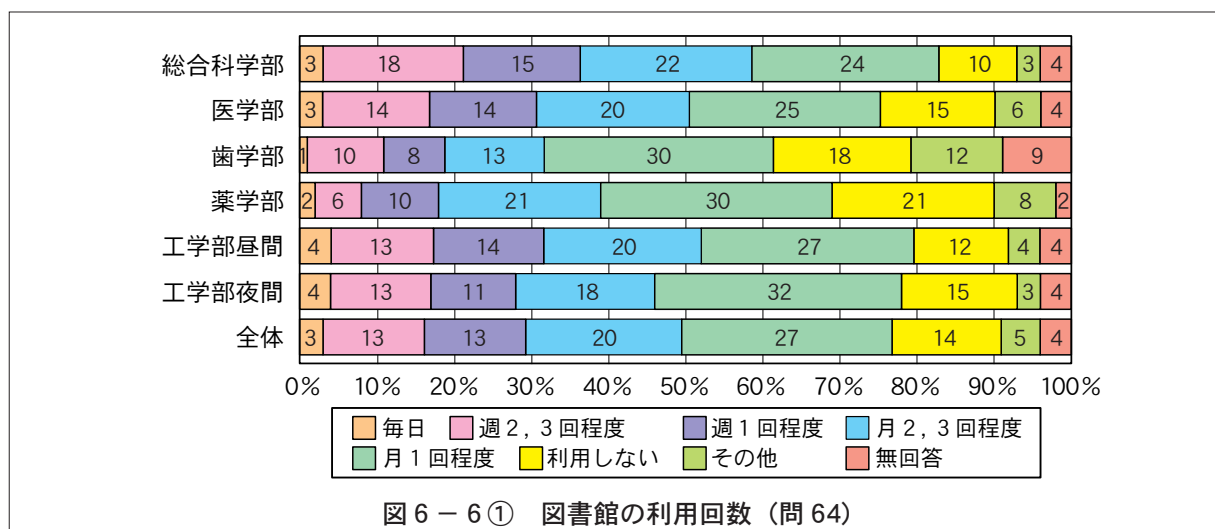
い」と「オフィスアワーの時間以外にいつでも利用できる」がいずれも14%であった（図6-5②）。



6-6 図書館の利用状況 (図6-6①, 図6-6②)

図書館を1週間に1回以上利用する学生は29%（毎日：3%，週2～3回程度：13%，週1回程度：13%）であり，前回調査の38%（毎日：6%，週2～3回程度：18%，週1回程度：14%）を下回った。原因としては，蔵本分館の改修工事が始まったことや図書館ウェブサイトの利用率の増加などが考えられる。学部別に見ると，薬学部と歯学部の利用回数が低く，図書館を1週間に1回以上利用するとの回答はそれぞれ18%と19%であった。

図書館を利用しない理由（複数回答可）としては「図書の貸し出しや返却が面倒」（19%）が最も多く，次いで「開館時間が短い」が8%，「蔵書の種類や数に不満足」が6%であった。学生の多様なニーズに対応したサービスの一層の充実が望まれる。



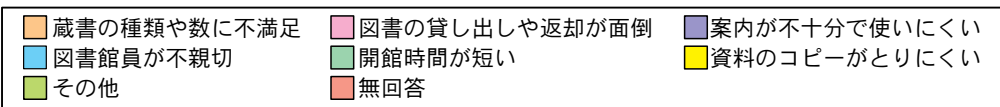
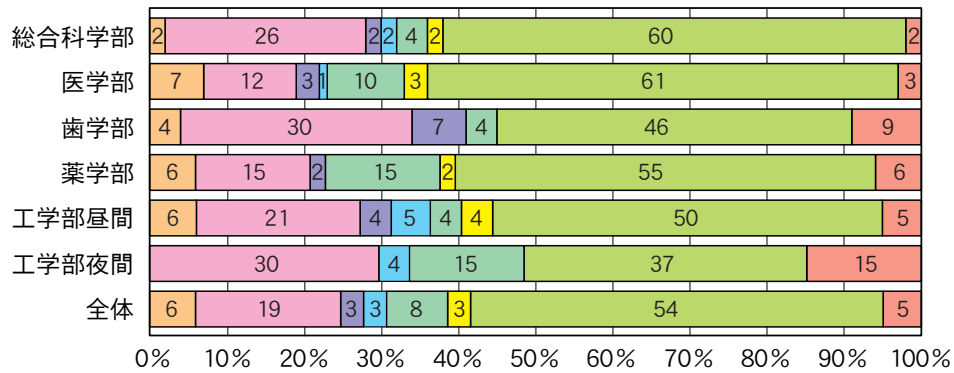


図 6 - 6 ② 図書館を利用しない理由 (問 65)

第7章 課外活動について

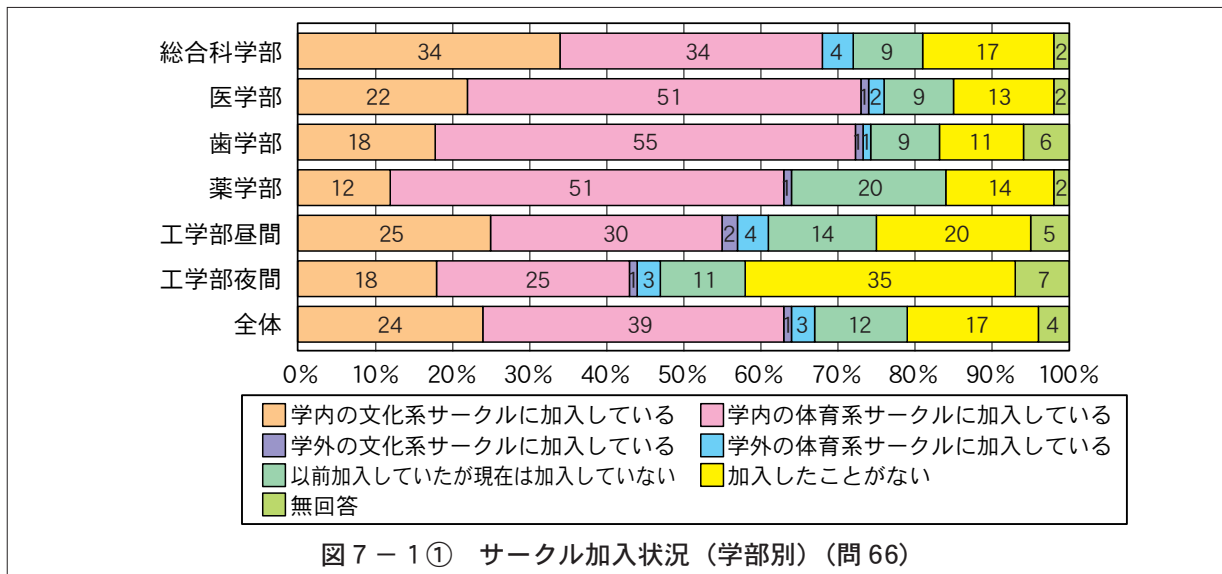
7-1 サークル加入状況 (図7-1①~図7-1③)

<加入率>

サークルへの加入率は、全体で67%を占めている。体育系サークルと文化系サークルの比較では学内及び学外合わせて体育系42%、文化系25%であり、体育系サークルへの加入率が高い。前回調査との比較では、「学内体育系サークル」は39%で前回(38%)と同様であり、「学内文化系サークル」は24%で前回(21%)より微増であった。「以前加入していたが現在は加入していない」は12%、「加入したことがない」は17%を示し、加入していない学生は6%減少している。サークル加入率は、前回調査時より微増の傾向を示している。

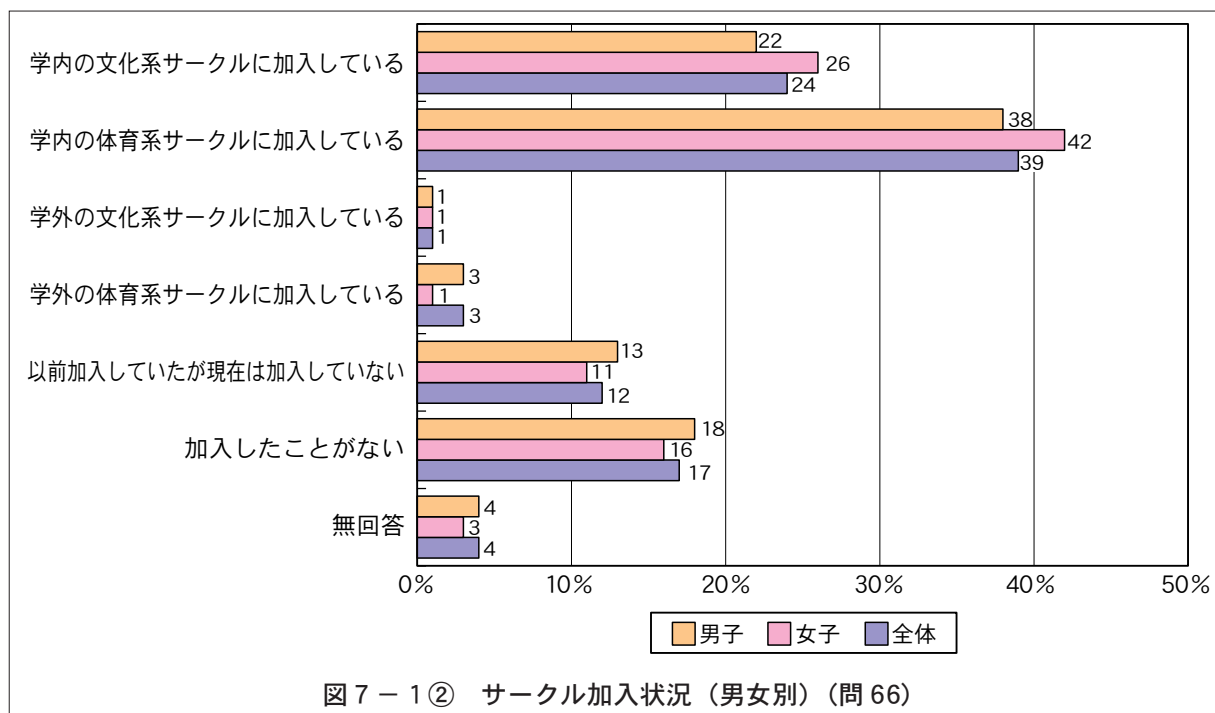
学部別のサークル加入状況(図7-1①)は、医学部、歯学部、総合科学部では、それぞれ76%、75%、72%の学生が学内及び学外のいずれかの体育系、文化系サークルに加入している。薬学部は64%であり前回調査時(72%)から8%減少している。学内・学外文化系サークルへの加入者が最も多いのは総合科学部(34%)であり、学内・学外体育系サークルでは、歯学部(56%)、医学部(53%)、薬学部(51%)の3学部で加入率が高い。加入率が低いのは工学部夜間で、学内・学外体育系、文化系の両サークルへの加入率は合計で47%であり、前回(44%)より微増であった。

「以前加入していたが現在は加入していない」との回答割合は12%あり、前回調査時の15%より微減していた。



<男女別>

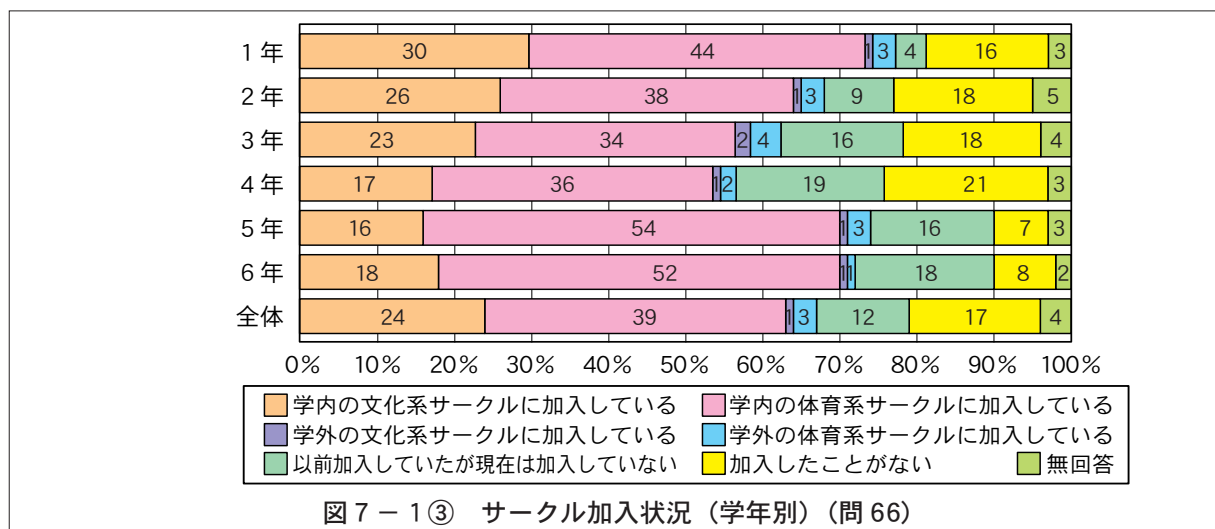
男女別のサークル加入率(図7-1②)については、学内文化系、体育系ともに女子学生の方が男子学生に比べて4%加入率が高かった。学外については、若干ではあるが男子学生の体育系での加入率が高い傾向があった。



<学年別>

学年別 (図 7-1③) では、1年生から4年生への学年進行とともに、サークル加入率が低下し、「以前加入していたが現在は加入していない」学生の割合が増加している。加入率の低下は、文化系サークルで顕著であり、体育系サークルでは3年生と4年生での加入率に差はない。これらの傾向は、前回調査と同様であった。

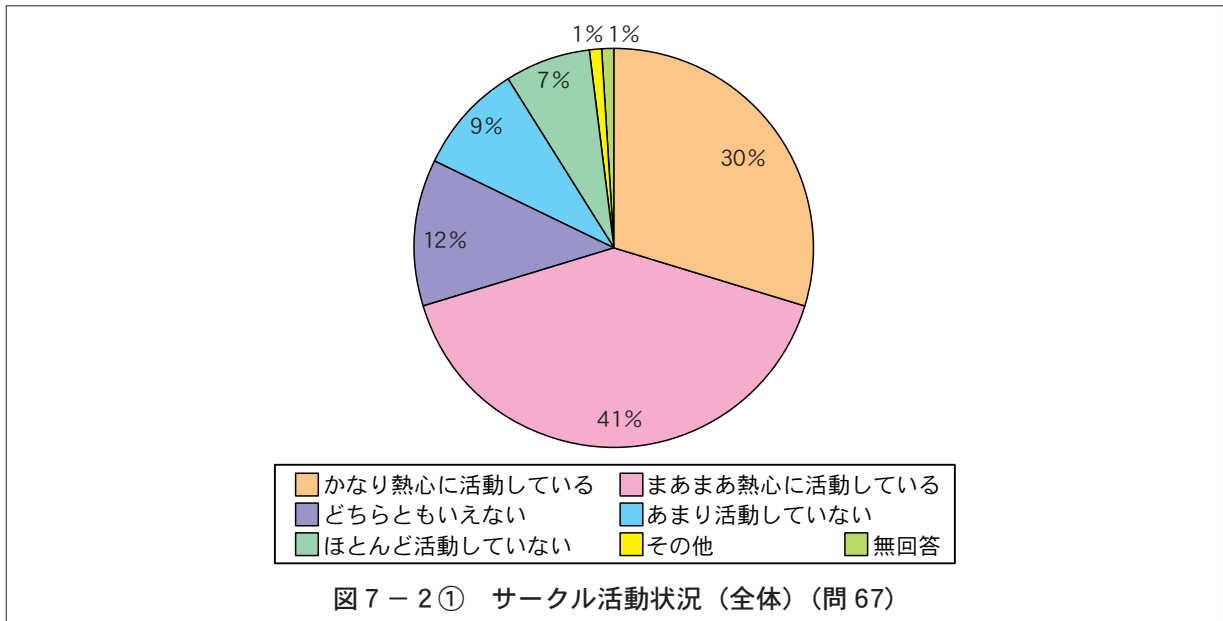
5年生、6年生は医学部医学科と歯学部歯学科の学生の動向を表している。体育系のサークル加入率が50%を超えて維持されていることが特徴で、前回調査時と同様な傾向にある。



7-2 活動状況 (図 7-2①, 図 7-2②)

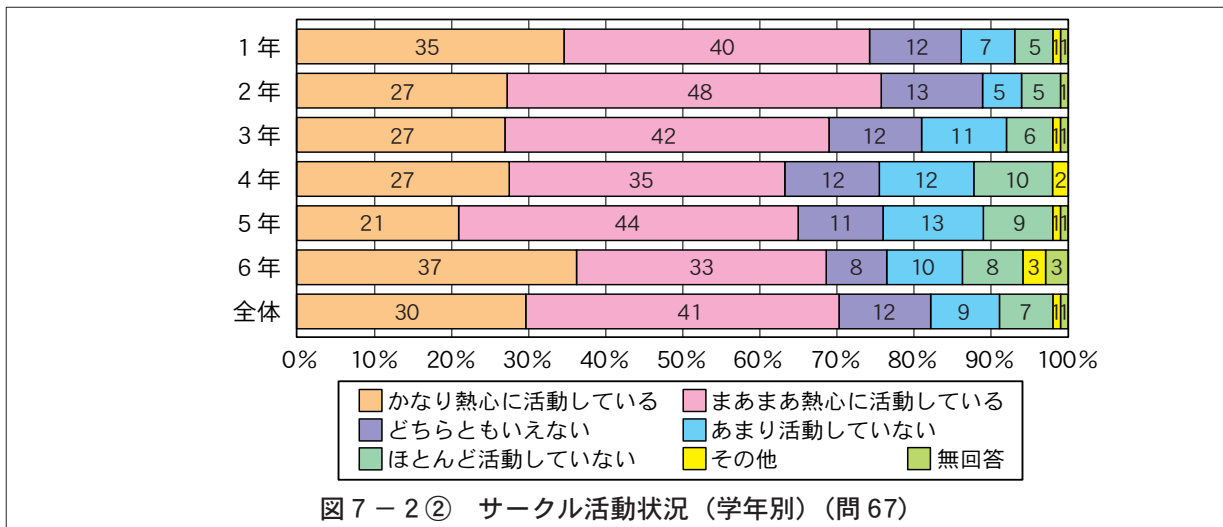
サークル活動状況 (図 7-2①) は、2,406 名のサークル入会者の回答を検討した。「かなり熱心に活動している」は30%で、「まあまあ熱心に活動している」は41%であり、71%の学生がサークル活動を積極的にすすめている。「どちらとも言えない」が12%、「あまり活動していない」が9%、「ほとんど

活動していない」が7%である。これらの結果は、前回調査時とほぼ同様の割合である。サークル加入者の活動状況は前回調査時と同様に活発だといえる。



<学年別>

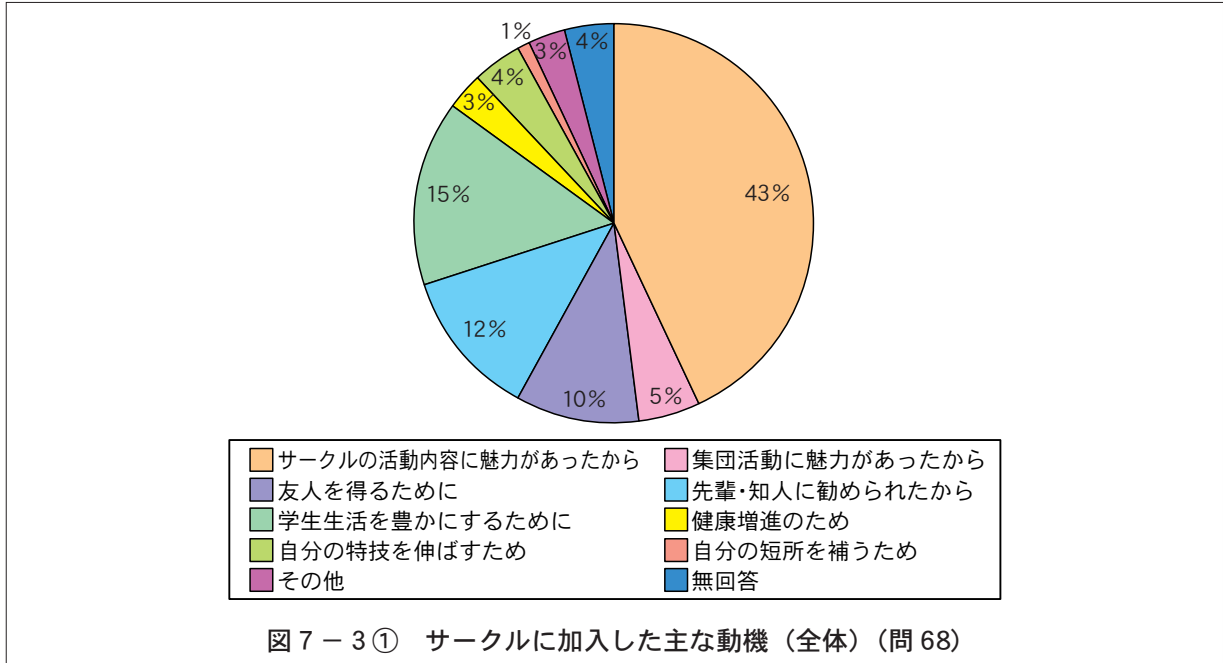
学年別 (図 7-2 ②) のサークル活動状況については、3年生以降で熱心に活動しているとは言えない学生が増加するものの、すべての学年で60%以上の学生が熱心に活動していると回答した。前回調査時と比較すると、2年生まではほぼ同様の活動状態であったが、3年生で熱心に活動していると回答した学生の割合は76%から69%に、4年生では68%から62%に減少していた。5年生、6年生は医学部医学科と歯学部歯学科の学生からの回答であるが、前回調査時と比較すると5年生では73%から65%に、6年生では80%から70%に減少していた。就職活動とも関連して、3年生になった時点でサークル活動から離脱する学生が増えているのかもしれない。



7-3 加入の動機 (図 7-3 ①, 図 7-3 ②)

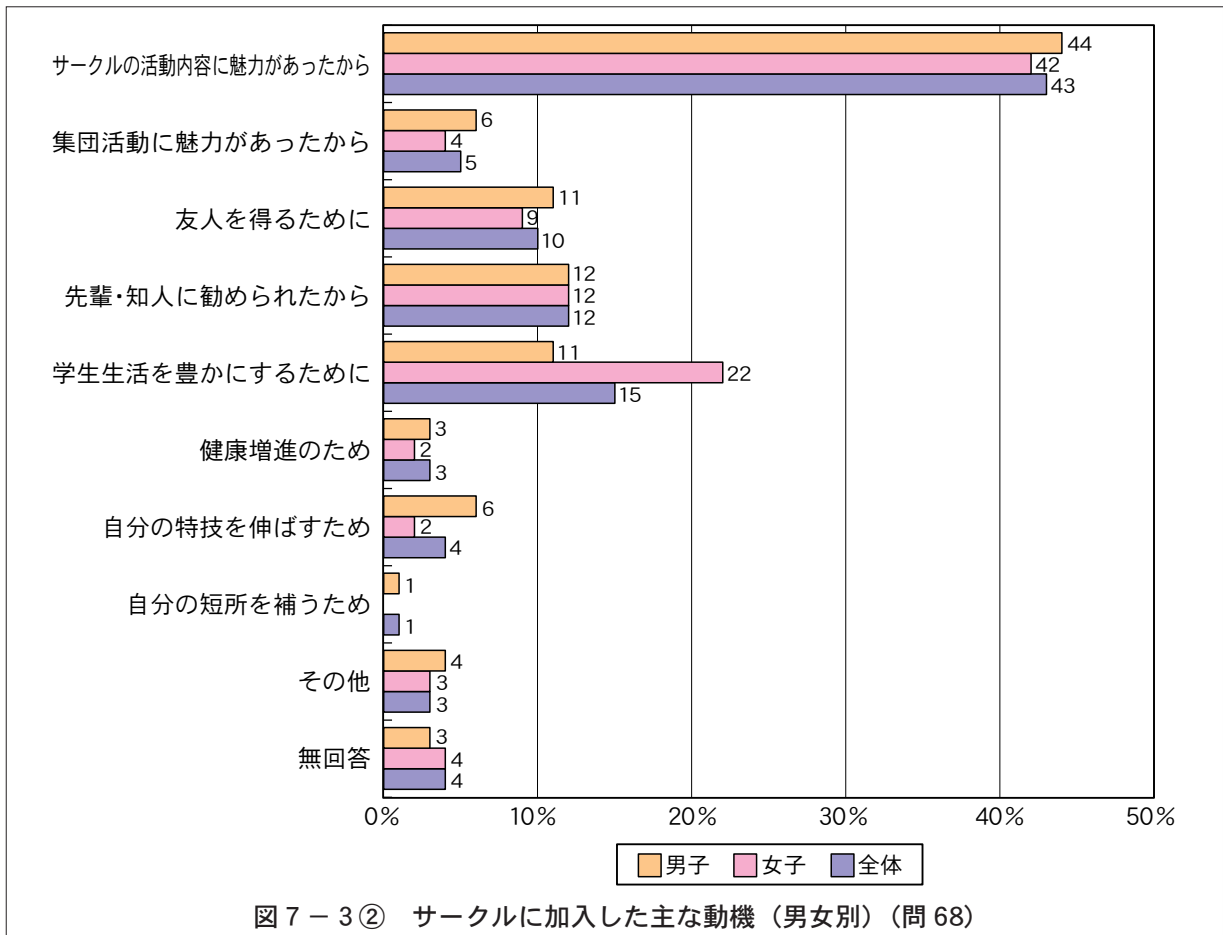
サークルへの加入動機 (図 7-3 ①) は、「サークルの活動内容に魅力があったから」が43%で最も高く、次いで「学生生活を豊かにするため (15%)」、「先輩・友人に勧められたから (12%)」、「友人を

得るため（10%）」と続いている。この順位は前回調査時と全く同じで、割合もほぼ同様である。



<男女別>

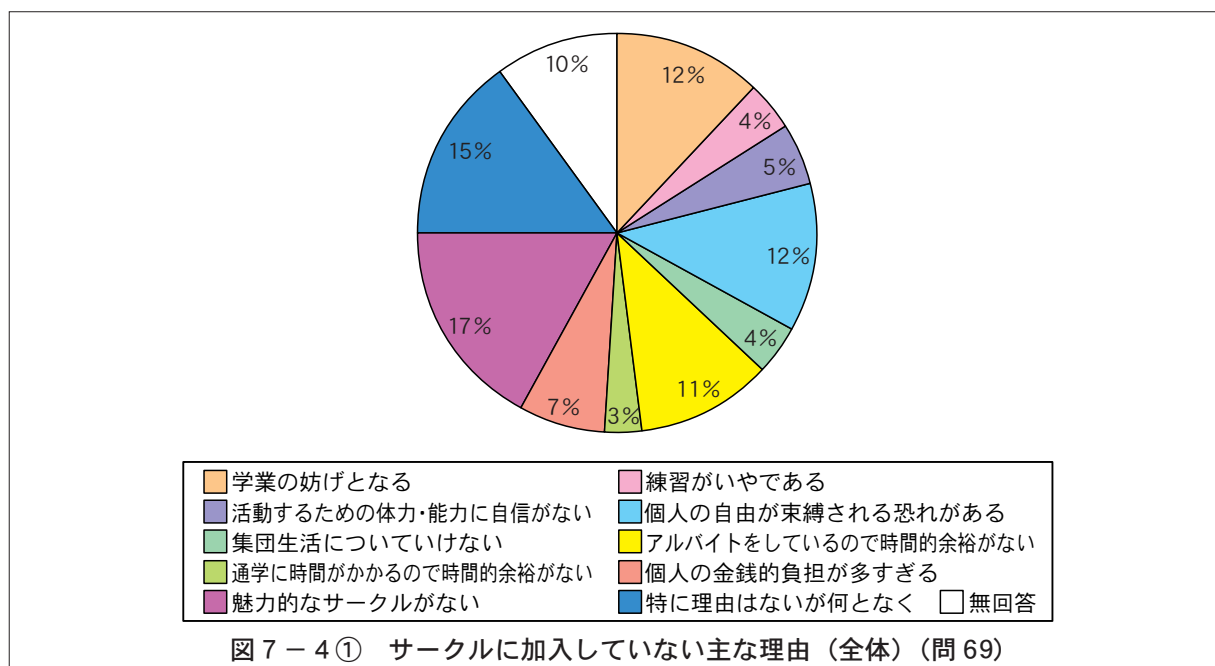
男女別（図 7-3 ②）にみたサークル加入動機は、「サークル活動内容に魅力があったから」が男女ともに最も高かった。これは前回調査時と同様であったが、前回調査時に比べて男子では 4%，女子では 3% 高くなっていた。



男女で顕著な差が現れるのは、「学生生活を豊かにするため」とするもので、女子学生の方が男子学生に比べ11%高かった。一方、男子学生は、「自分の特技を伸ばすため」及び「集団活動に魅力があったから」というものが、女子学生よりも高い動機として現れた。

7-4 サークルに加入していない理由 (図7-4①~図7-4④)

サークルに加入していない927名の回答結果(図7-4①)から、最も高いのが「魅力的なサークルがない(17%)」であり、「特に理由はないが何となく(15%)」、「個人の自由が束縛される恐れがある(12%)」、「学業の妨げとなる(12%)」及び「アルバイトをしているので時間的余裕がない(11%)」と続いている。前回調査時と順位は若干異なるものの、それぞれの回答割合には大きな変化はない。



<男女別>

加入しない理由を男女別(図7-4②)で見ると、「学業の妨げとなる(男子15%, 女子6%)」、「練習がいやである(男子5%, 女子2%)」、「集団生活についていけない(男子5%, 女子2%)」については男子学生のほうで、「個人の自由が束縛される恐れがある(男子11%, 女子14%)」、「アルバイトをしているので時間的余裕がない(男子10%, 女子13%)」、「通学に時間がかかるので時間的余裕がない(男子2%, 女子5%)」については女子学生のほうで理由にあげられる割合が高かった。

<学部間の比較>

学部別の未加入理由を示したのが、図7-4③である。図7-1①で示されたように、未加入率の高い学部は、工学部夜間46%、工学部昼間34%、薬学部34%となっている。前回の調査時には、総合科学部では37%、薬学部では27%が未加入であったが、今回はその割合が逆転していた。それは、総合科学部で「アルバイトをしているので時間的余裕がない」と回答した学生の割合が、前回21%であったのに対し、今回は11%に減少したことを反映しているようだ。薬学部での加入割合が減少した要因は、読み取ることができなかった。工学部夜間では「アルバイトをしているので時間的余裕がない」とする回答割合は前回調査時の33%に対して26%に減少しているものの、依然として、それが大きな理由であることに変わりはない。工学部夜間、工学部昼間、薬学部では、他の3学部(総合科学部、医学部、歯

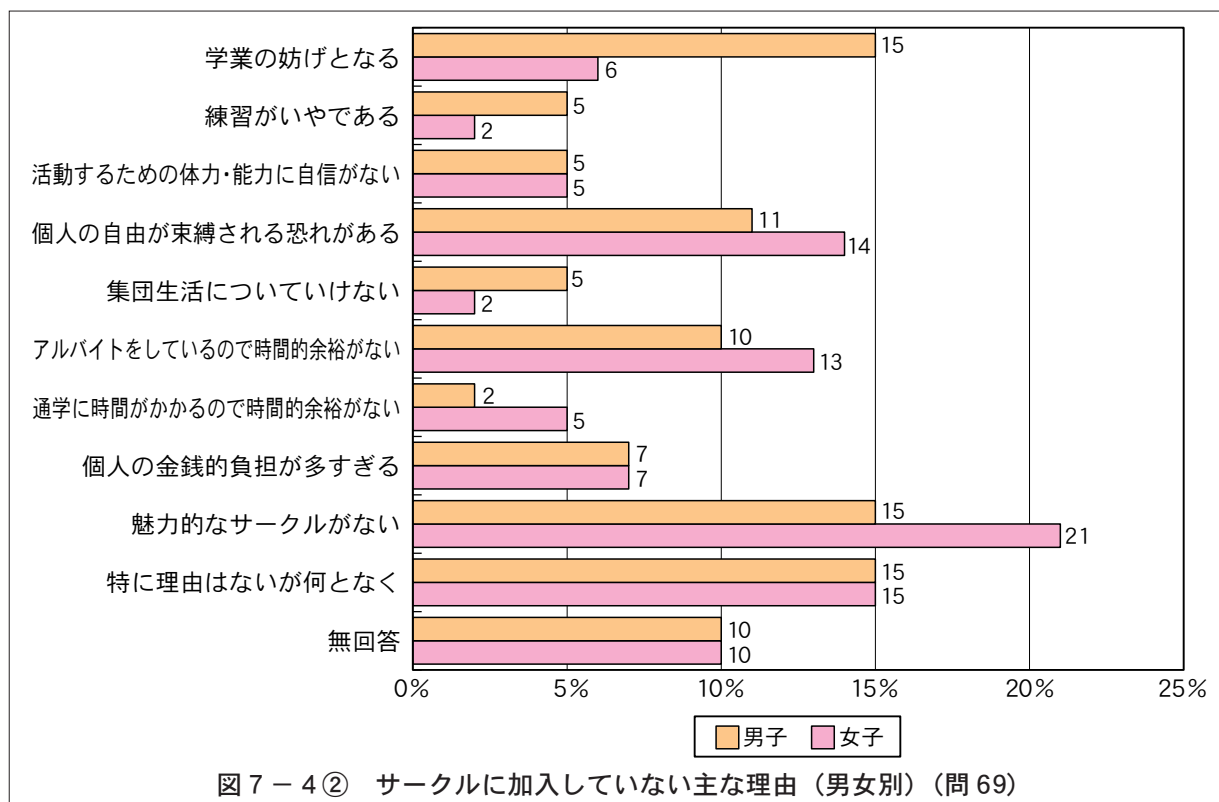


図 7-4② サークルに加入していない主な理由 (男女別) (問 69)

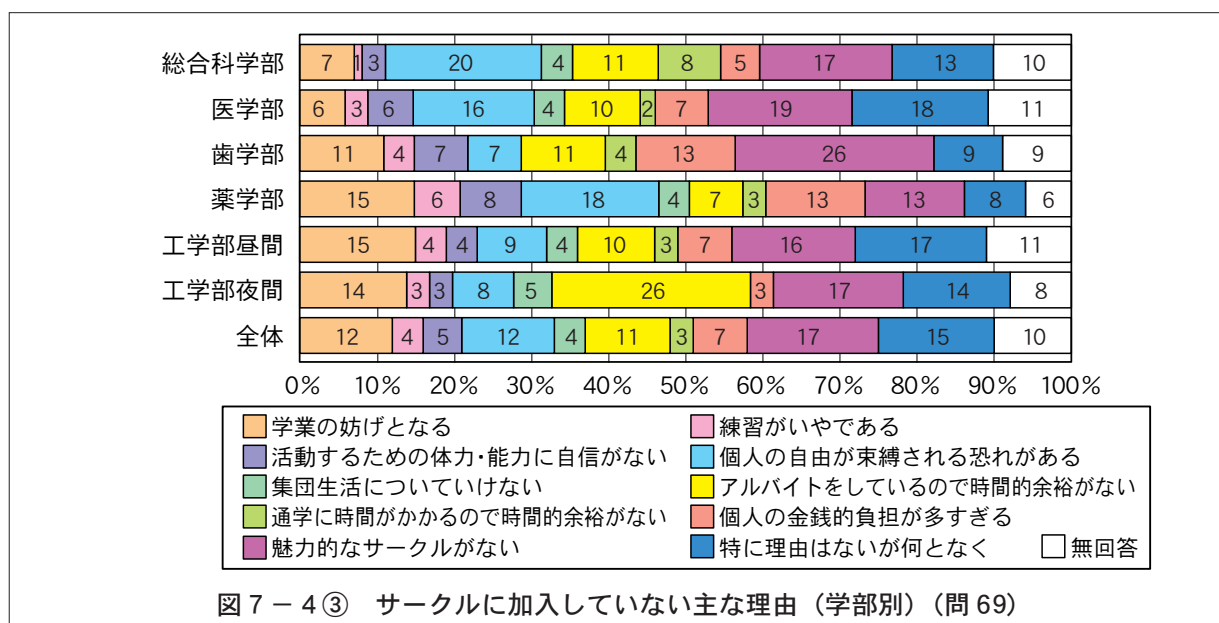


図 7-4③ サークルに加入していない主な理由 (学部別) (問 69)

学部)に比べて、「学業の妨げとなる」ことを未加入理由としてあげている学生が比較的多い(14 - 15%)ことが特徴である。

医学部、歯学部、総合科学部学生のサークル未加入率は、それぞれ22%、20%、26%と他の学部比べて低い(図7-1①)。加入していない理由は明確ではないが、医学部では16%、総合科学部では20%の学生が、「個人の自由が束縛される恐れがある」と回答した。

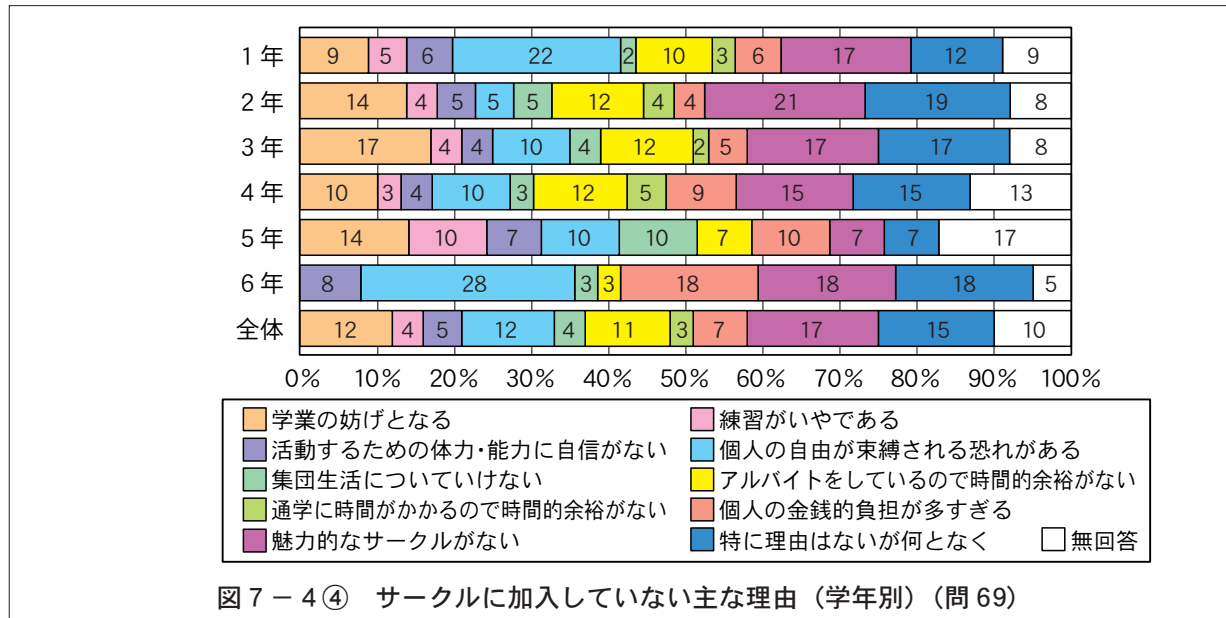
全学部で「魅力的なサークルがない」、「特に理由はない」と回答した学生が比較的多いことが特徴で、これは前回の調査時でも同様の傾向が確認されている。

<学年別>

学年別の結果を図7-4④に示す。医学部医学科と歯学部歯学科の学生からの回答である5年生、6

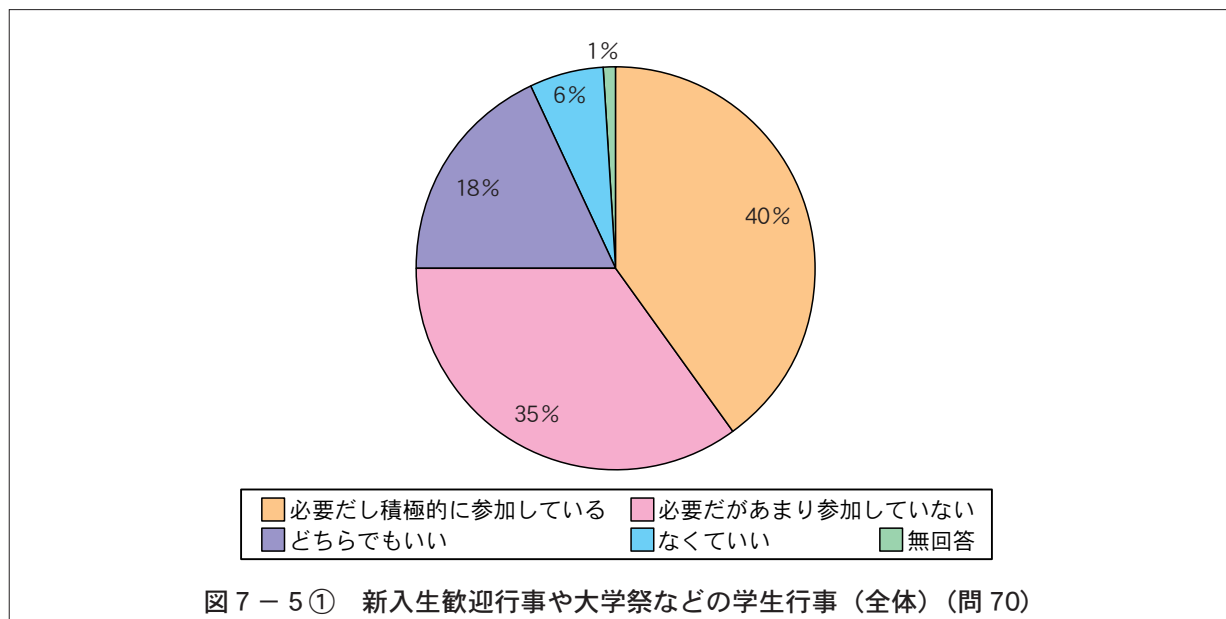
年生を除くと、「特に理由はないが何となく（12～19%）」と「魅力的なサークルがない（15～21%）」が主な理由となっている。この傾向は、前回調査時の結果と類似している。

医学部医学科と歯学部歯学科の5年生については、前回調査の結果では「学業の妨げとなる」と「個人の自由が束縛される恐れがある」がそれぞれ25%と高かったが、本年度は、それぞれ14%、10%に減少していた。6年生では、前回調査時には16%であった「個人の自由が束縛される恐れがある」との回答が28%に増加した一方で、前回には26%であった「学業の妨げとなる」との回答は、今回は0%となっていた。



7-5 学生行事 (図7-5①~図7-5④)

新入生歓迎会や大学祭などの学生行事(図7-5①)については、その必要性を75%が認めている。この傾向は回答内容の内訳も含め、前回調査時とほぼ同じであった。



<学部別>

学部別の意識を図7-5②に示した。「必要だし積極的に参加している」または「必要だがあまり参加していない」と回答した学生行事の必要性を認めている学生は、工学部夜間を除いた5学部では71%～81%と多かった。ただし、積極的に参加している学生は半数程度にとどまる。必要性を認める工学部夜間の学生割合は67%であり、積極的に参加している学生の割合も27%と他の学部と比べて低かった。

前回調査と比較すると、総合科学部で「必要だし積極的に参加している」と回答した学生割合が8%増加したのが特徴で、他の学部では大きな変化は認められなかった。

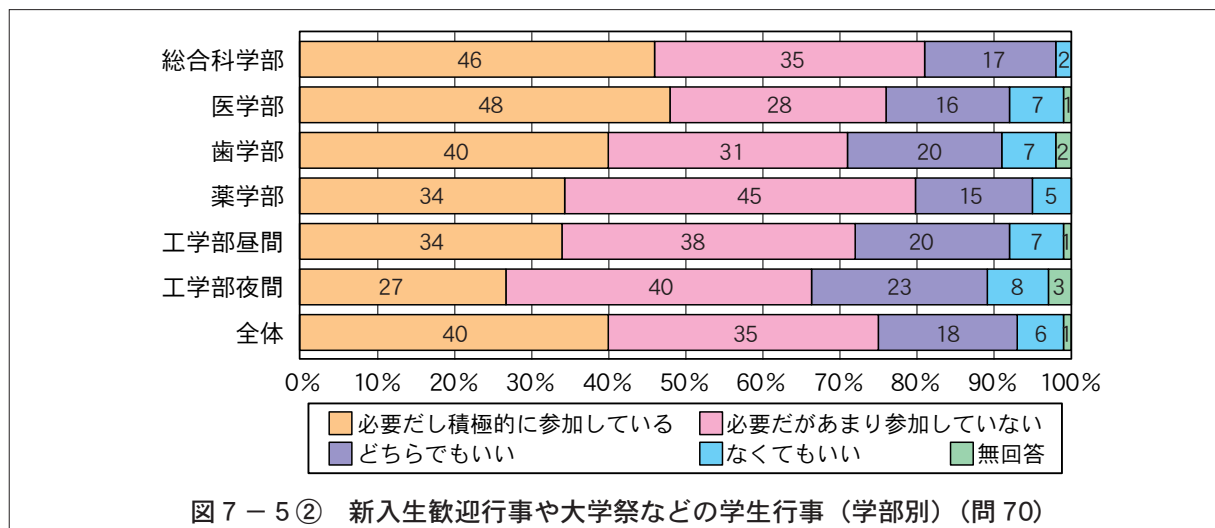


図7-5② 新入生歓迎行事や大学祭などの学生行事（学部別）（問70）

<男女別>

男女別（図7-5③）では、「必要だと考えており積極的に参加している」と回答した男子学生は37%であるのに対し、女子学生は44%であった。一方、「どちらでもいい」との回答は男子学生が19%、女子学生が17%、「なくてもいい」は男子学生が7%、女子学生が4%であった。これらの結果は、女子学生のほうがより強く必要性を認め、また、参加意欲が高いことを示している。この傾向は、前回調査時とほぼ同じであった。

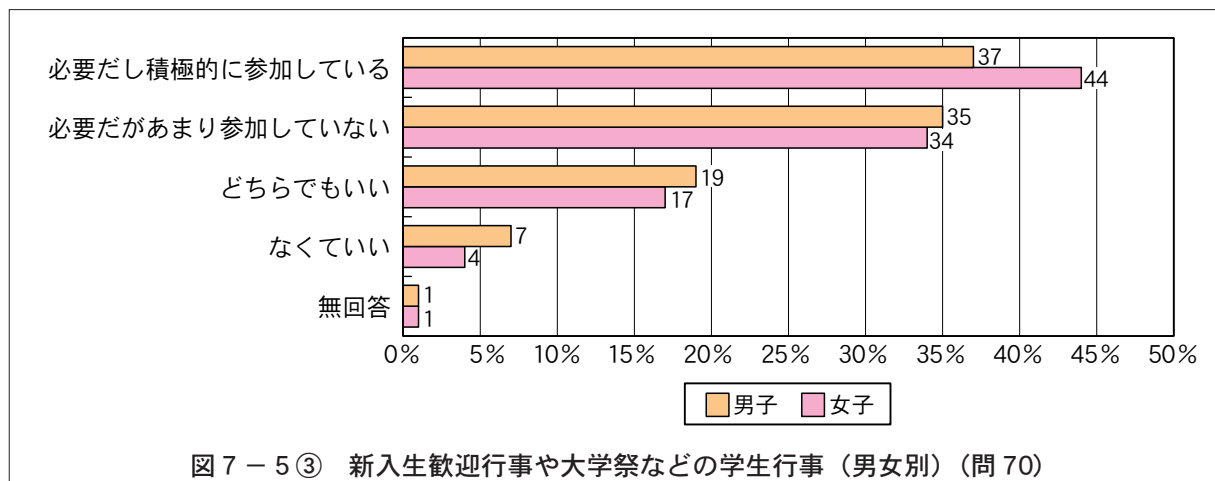
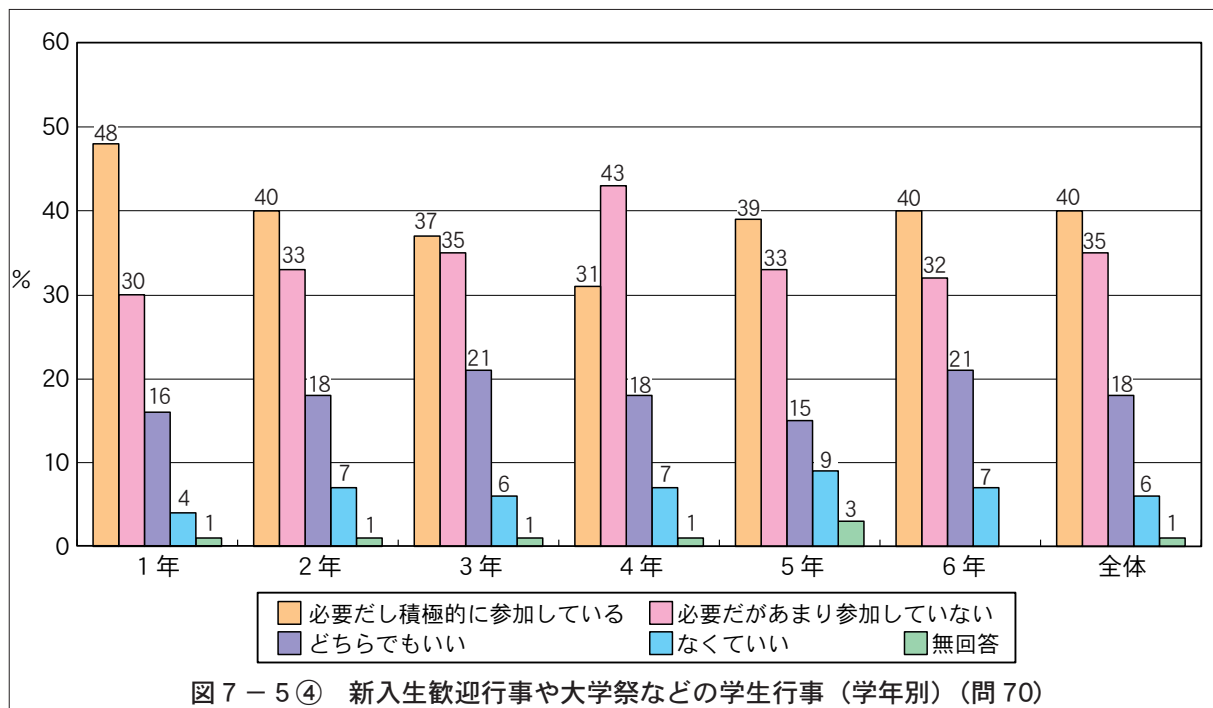


図7-5③ 新入生歓迎行事や大学祭などの学生行事（男女別）（問70）

<学年別>

学年別の参加と意識の状況を図7-5④に示す。医学部医学科と歯学部歯学科の学生からの回答である5年生、6年生を除くと、1年生から4年生へと学年が進行するにともなって、「必要だし積極的に参加している」と回答した学生の割合が順次減少し、逆に、「必要だと思うがあまり参加していない」と回

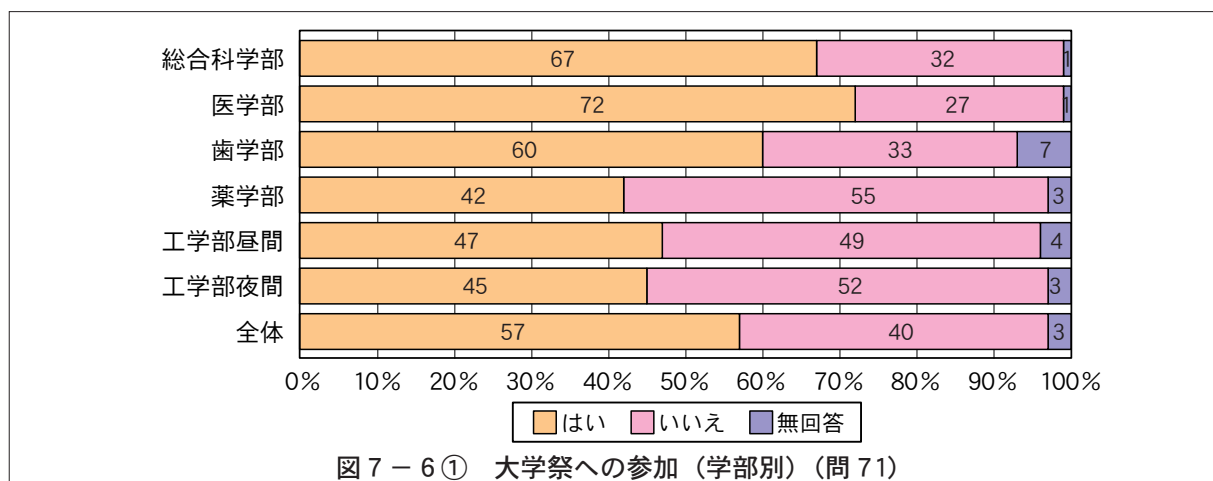
答した学生が増加した。この傾向は、前回の調査時より顕著になっているように見える。



7-6 大学祭への参加状況 (図7-6①, 図7-6②)

大学祭への参加意志 (図7-6①) は、全体の57%が「参加する」と回答している。前回調査時と同様、医学部学生の参加率が最も高く、72%であった。総合科学部および歯学部も、それぞれ67%、60%の学生が参加しており、前回調査時のそれぞれの参加率、56%、55%より増加していた。特に総合科学部学生の参加率の増加が大きい。

一方、薬学部、工学部昼間、工学部夜間の参加率は42%～47%と少ない。ただし、工学部夜間のそれは、前回調査時の37%から8%増加していた。

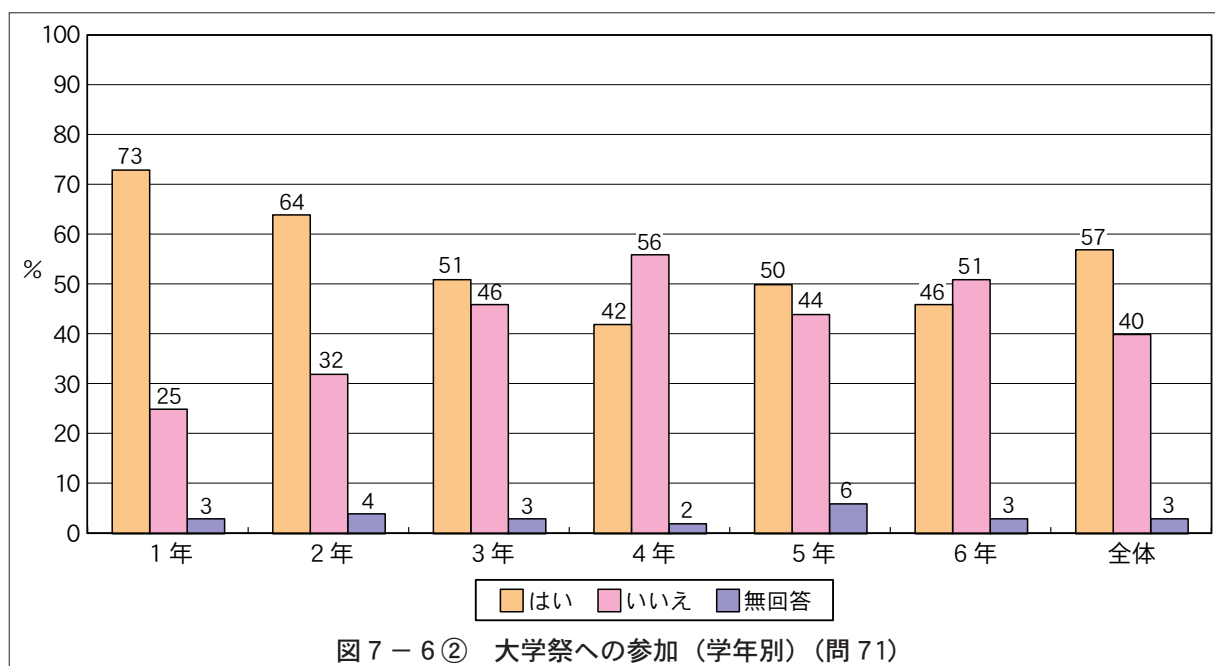


<学年別>

学年別 (図7-6②) では、1年生73%、2年生64%、3年生51%、4年生42%と学年進行に従って参加率は減少し、不参加者の割合が増加していた。この傾向は、前回の調査時よりも顕著であった。

医学部医学科と歯学部歯学科の学生からの回答である5年生、6年生の参加率に関しても、5年生では

50%であったのが、6年生では46%と減少し、不参加率が6年生で増加した。この傾向は、6年生の参加率のほうが高かった前回調査時と逆であった。

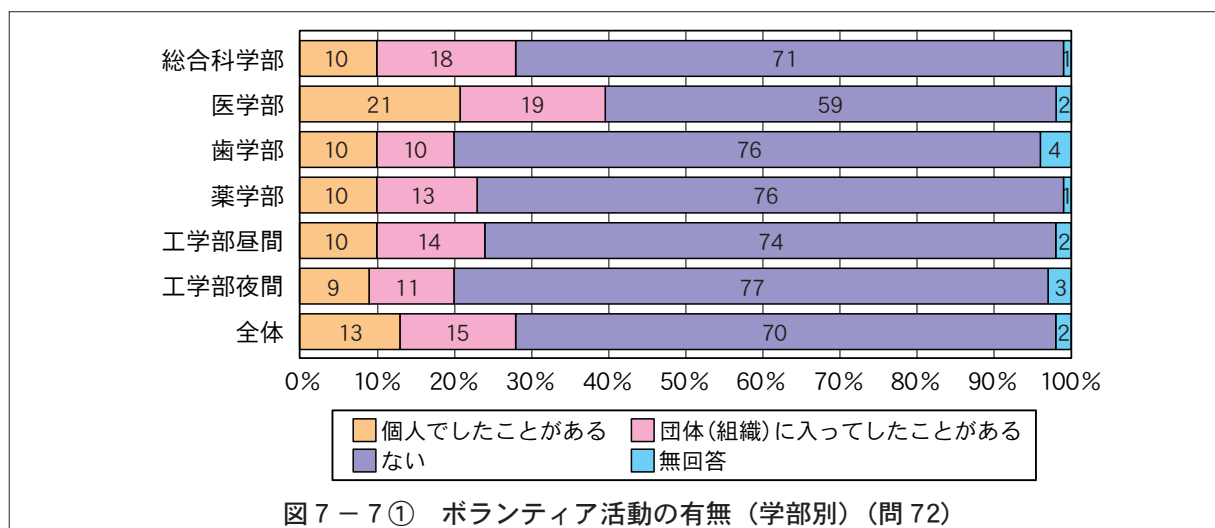


7-7 ボランティア活動 (図7-7①, 図7-7②)

<大学入学後のボランティア活動>

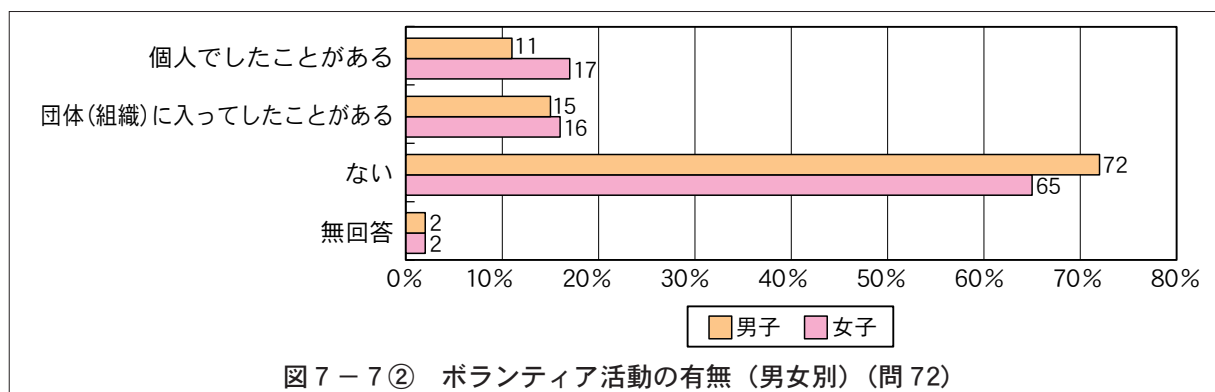
ボランティア活動 (図7-7①) では、全体では「個人でしたことがある」学生は13%、「団体(組織)に入っていたことがある」学生は15%であった。前回調査時から大きな変化はなく、ボランティア活動経験者はまだ少ない。その中で医学部では40%の学生が、総合科学部では28%の学生がボランティア活動を経験しており、他の学部よりも割合が高い。医学部では前回調査時から6%の増加、総合科学部では11%の減少であった。

歯学部、薬学部、工学部昼間、工学部夜間でのボランティア参加率は20%～24%であった。前回調査時と比べると、歯学部は5%減少し、一方、工学部昼間および工学部夜間は、それぞれ5%、6%の増加であった。薬学部は大きな変化はなかった。



<男女別>

男女別（図7-7②）では、「個人でしたことがある」と「団体（組織）に入っていたことがある」を合わせると、男子学生では26％、女子学生では33％が活動を経験している。ボランティア経験者は女子学生の方が高い。前回調査時と比べると、男女学生とも、若干の増加があった。



7-8 まとめと今後の課題

サークルの加入状況については、工学部夜間が低くなっている。これは、アルバイト等を行なっているためにサークル活動に参加しにくいことが最も大きな要因となっている。また、学年進行と共に、サークルを離脱する学生割合が増加している。これは、就職活動や卒業研究に向けての活動に、学生のエネルギーが向けられるようになることを反映しているのだろう。サークル活動に参加しない理由として、「魅力的なサークルがない」との回答が、男女、学部、学年の違いに関わらず多いのが特徴である。学生の価値観が多様化していることの現れであるのかもしれない。サークルへの加入をとおして、学生の人生経験を豊かにし、また、コミュニケーション能力や自己管理能力を高めることを支援するためには、学生の中で新たなサークル活動を産み出そうとする動きがある時には、その芽をいかに育て、学生の需要にあったサークルとして独立させるかということも検討する必要があるだろう。

学生行事は、多くの学生が必要性を認めてはいるものの、薬学部や工学部では積極的に参加する学生の割合は低い。学内での学生行事として特に規模が大きいのは大学祭である。大学祭への参加形態は二つに区分される。企画・運営を通しての参加と、大学祭期間内の一般参加である。企画・運営は、蔵本地区と常三島地区それぞれの実行委員会によって行われている。大学祭に積極的に参加する学生の学部間の偏りは、実行委員会の企画能力の差、実行委員会の構成メンバーの偏り、実行委員会構成メンバーと非構成メンバー（すなわち、大学祭への一般参加者としての学生）とのつながりの程度、などいくつかの要因を反映しているだろう。大学としては、実行委員会の企画・運営能力の向上をサポートすることで、大学祭を学生全体にとって魅力あるものとし、参加意欲の向上を図っていけると思われる。

ボランティア活動経験のある学生はまだまだ少ない。ボランティアは地域社会の活動を支える大きな力となってきており、学生の参画を期待する市民団体も増えている。ボランティア活動は、学生がホスピタリティマインドを身につける機会としてだけでなく、地域社会の課題解決のあり方を学びつつ実践する機会としても重要である。学生にボランティア活動を行える場を提供していくことは、学生の活動をとおした地域社会に貢献する大学としての活動ともなる。大学関係者が関与するNPO等が増加する中、そうした組織と大学との連携体制を構築し、学生がボランティア活動を行える場をつくっていくことも必要であろう。

第8章 進路・就職について

8-1 進路情報入手手段 (図8-1)

図8-1は、学部生全員に対して複数回答可として尋ねたものである。各学部ともよく似た傾向にあり、インターネット利用、先輩・知人が20%台と多く、次いで指導教員、就職情報誌・新聞・マスコミ、大学内資料の順である。歯学部・医学部・薬学部では、先輩・知人から情報を入手する比重が高い。前回同様に就職支援センター情報が5%弱と低く、低学年時から就職支援センター利用の活性化を図る必要もある。また、「直接会社に照会」は2%に過ぎない。会社訪問を推奨する企業もあることから、学生の積極性も求められる。

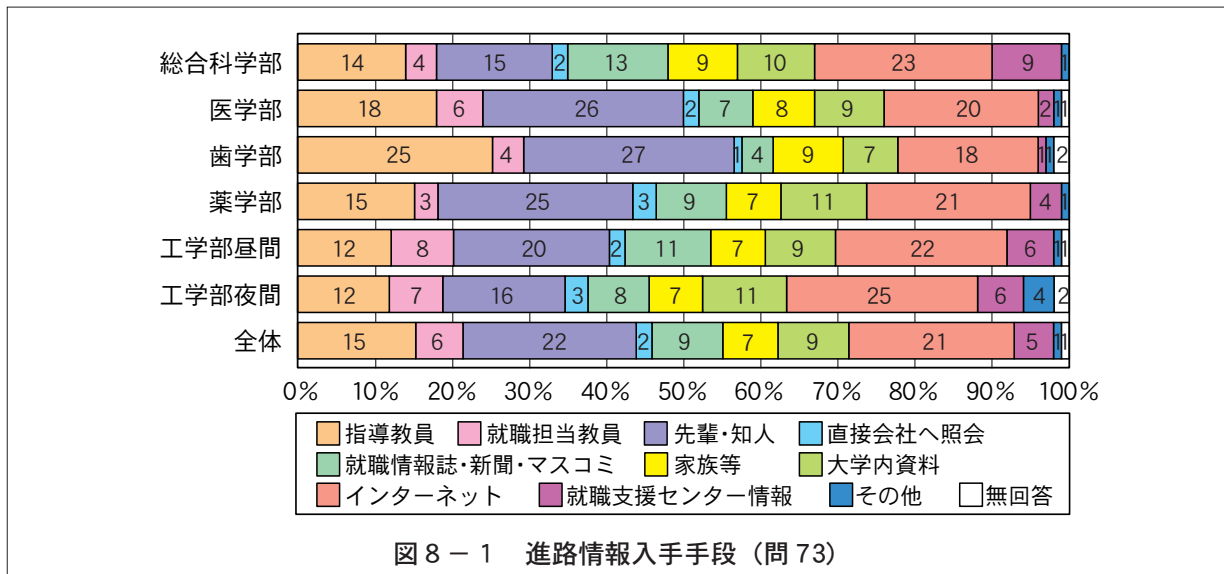


図8-1 進路情報入手手段 (問73)

8-2 就職・進学希望について (図8-2)

就職希望と進学希望の比率は、薬学部で65%、28%（前回53%、43%）と就職希望者が急増した半面、進学希望者が急減し、歯学部でも72%、16%（前回73%、21%）と進学希望者が5%ほど低下している。薬学部については6年制の導入が影響しているとみられる。その他の学部では、前回調査とほぼ同じ傾向にあり、総合科学部・医学部・歯学部では70%超が就職、工学部昼間では半数の学生が進学

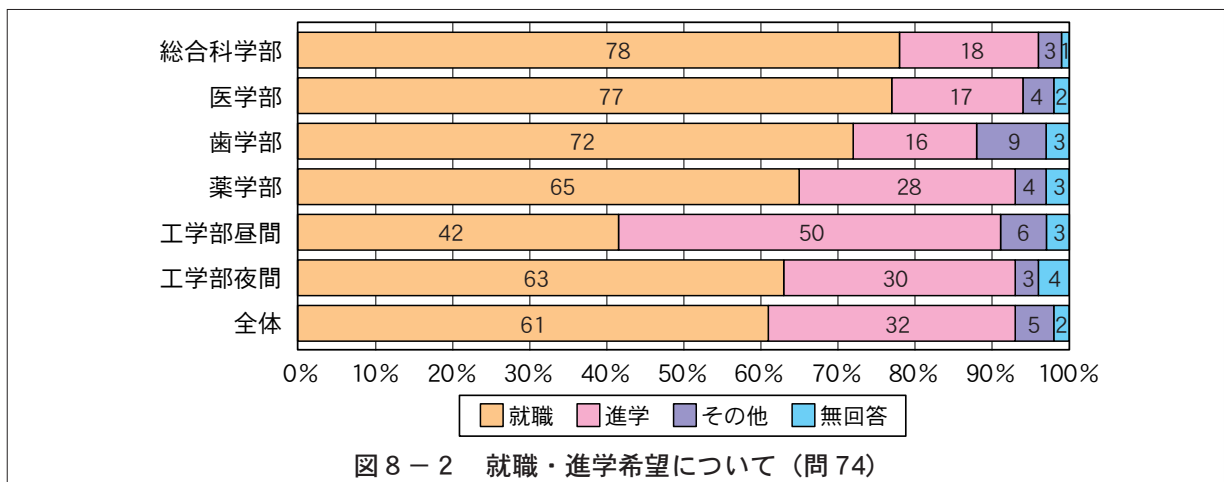
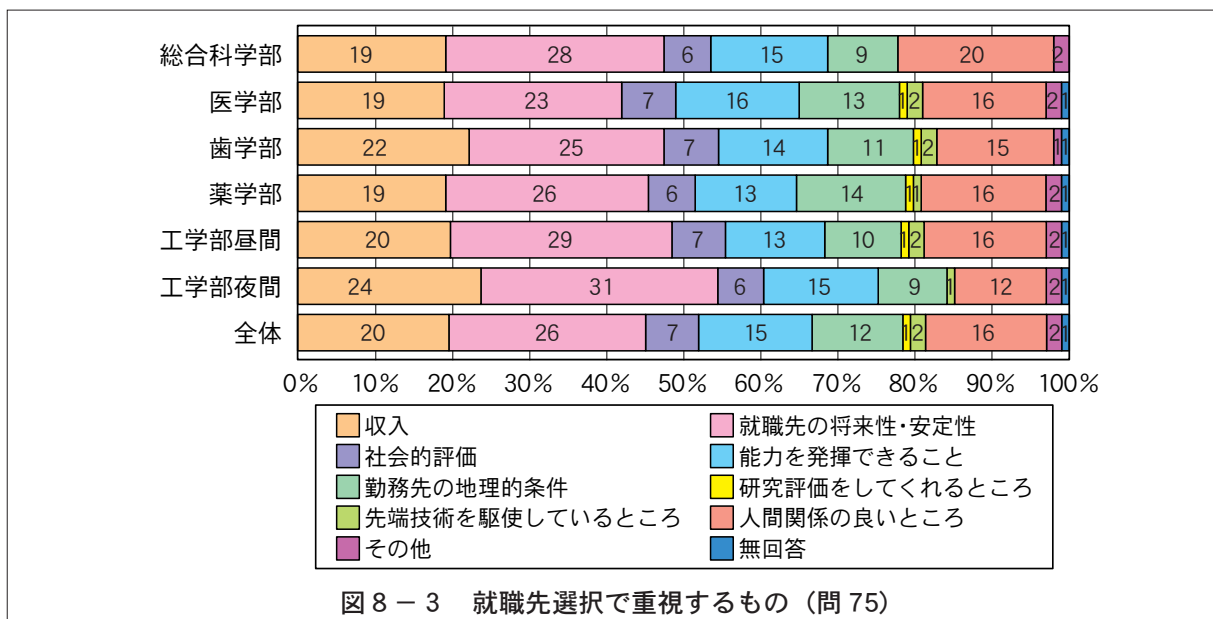


図8-2 就職・進学希望について (問74)

を希望している。医・歯・薬学部では相対的に進学希望者が減少傾向にあることから、大学院進学対策の検討が求められる。

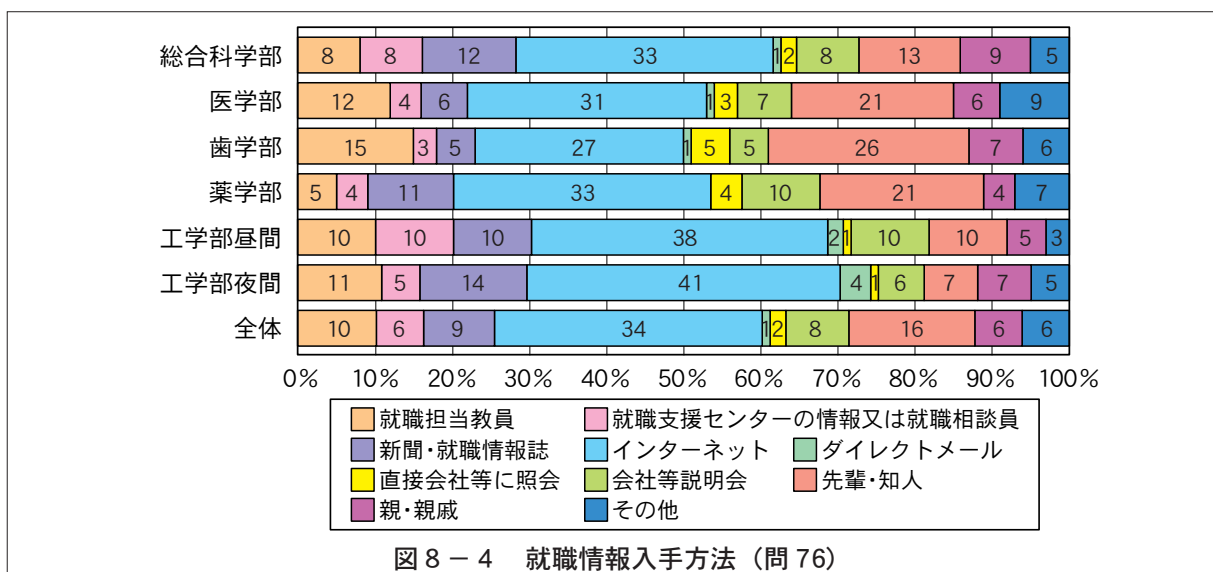
8-3 就職先選択で重視するもの (図8-3)

図8-3は、問74で「就職」と回答した学生に対して複数回答可として尋ねたものである。各学部ともによく似た傾向を示しており、全体的な傾向も前回・前々回と大きくは変わっていない。全体をみると、就職先の将来性・安定性が26%（前回25%、前々回22%）と最も多く、次いで収入20%、人間関係の良いところ16%、能力を発揮できること15%、勤務先の地理的条件12%となっている。就職先の社会的評価は7%と少なく、先端技術を駆使しているところ2%、研究評価をしてもらえるところ1%はさらに少ない。雇用不安が広がる状況を反映してか、全体的に安定志向にあるといえる。



8-4 就職情報の入手方法 (図8-4)

図8-4は、学部卒業予定の就職希望学生に対して、複数回答可として就職情報入手方法を尋ねたもの



のである。全体の傾向としてはインターネット利用が34%（前回，前々回とも34%）とやはり多く，次いで先輩・知人16%，就職担当教員10%，新聞・就職情報誌9%，会社等説明会8%，就職支援センター6%，親・親戚6%と続く。歯学部・医学部では先輩・知人および就職担当教員の比重が相対的に高いが，これは8-1の進路情報入手手段と似た傾向にある。薬学部も先輩・知人の比重は高い。新聞・就職情報誌については総合科学部，薬学部および工学部昼間・夜間で比重が高いが，「直接会社に照会」は全体の2%に過ぎない。学生のより積極的な行動も望まれる。

8-5 希望する職種 (図8-5)

図8-5は，問74で「就職」と回答した学生に対して複数回答可として尋ねたものである。医学部・歯学部・薬学部では専門職（医師・看護師等）がそれぞれ55%・57%・58%と，前回の63%・58%・61%と大きくは変わらないが，前々回の80%・87%・79%と比してかなり低い数値になっている。ただし，これは無回答が27%・22%・14%を数えることも関係していると考えられる。薬学部では，前々回2%・前回3%に比して企業等の研究職を希望する学生は6%と微増したが，公務員志望者も12%（前回20%）を数える。

工学部では，昼夜間とも技術職と公務員とで50%前後を占める。これは前々回と同様な傾向にあるが，技術職を希望する学生の比率は昼間32%（前回34%，前々回45%），夜間36%（前回38%，前々回51%）と，前々回の調査に比して大幅に減少している。一方で，企業等の研究職や総合職・営業職，事務職などの比率は前回と同じような推移を示し，希望職種が多様化する傾向がみられる。総合科学部は従来より希望職種が多岐にわたり，今回の調査でも公務員25%，教育職17%，民間企業の総合職・営業職16%，事務職13%の割合が高かった。この中では，前回に比して教育職が5%増加した。

なお，前々回では全体で8%，前回14%であった「無回答」が，今回は20%（全学部とも13%以上）を数えた。これは，自分の明確なキャリア・デザインを持っていない学生が増えているとも受け取れる数字であり，今後，各学部等においてキャリア・デザイン教育のさらなる充実も求められよう。

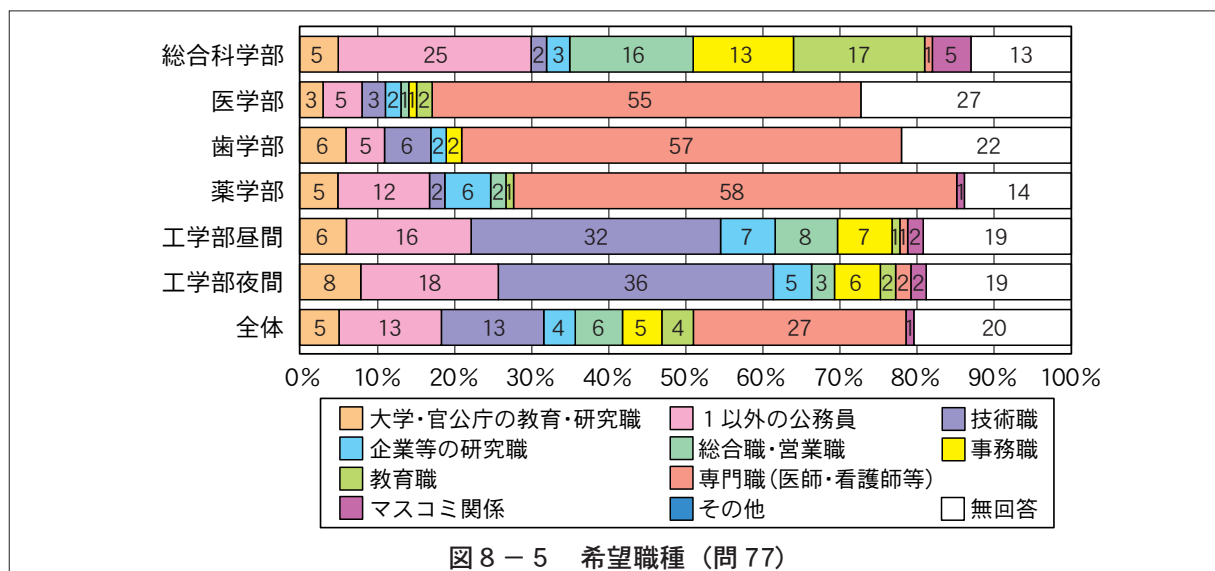
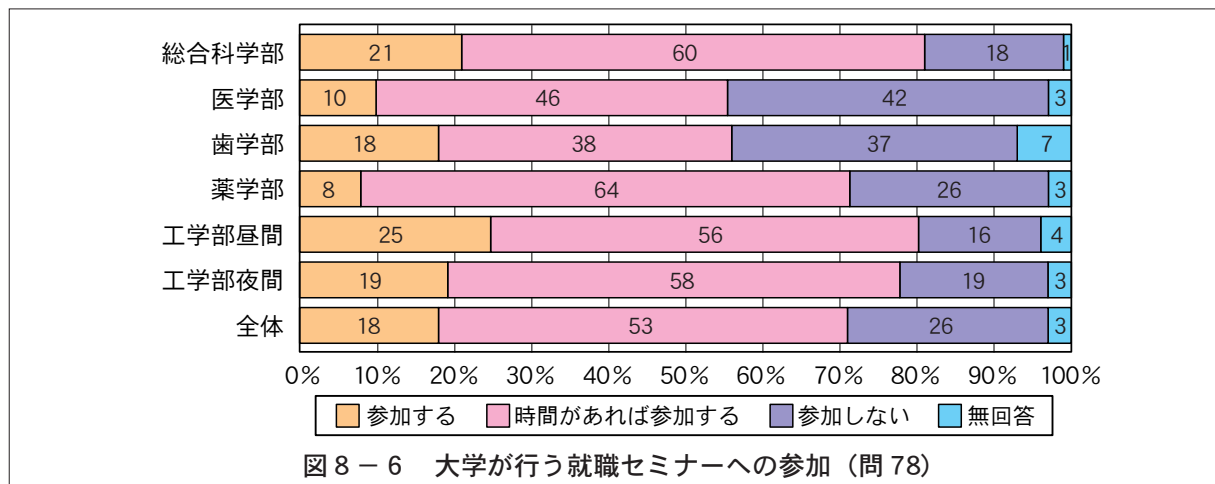


図8-5 希望職種 (問77)

8-6 就職セミナーへの参加 (図8-6)

図8-6は，大学が行う就職セミナー参加について学部生全員に尋ねたものである。「参加する」18%（前回18%，前々回18%），「時間があれば参加する」53%（前回52%，前々回54%），「参加しない」

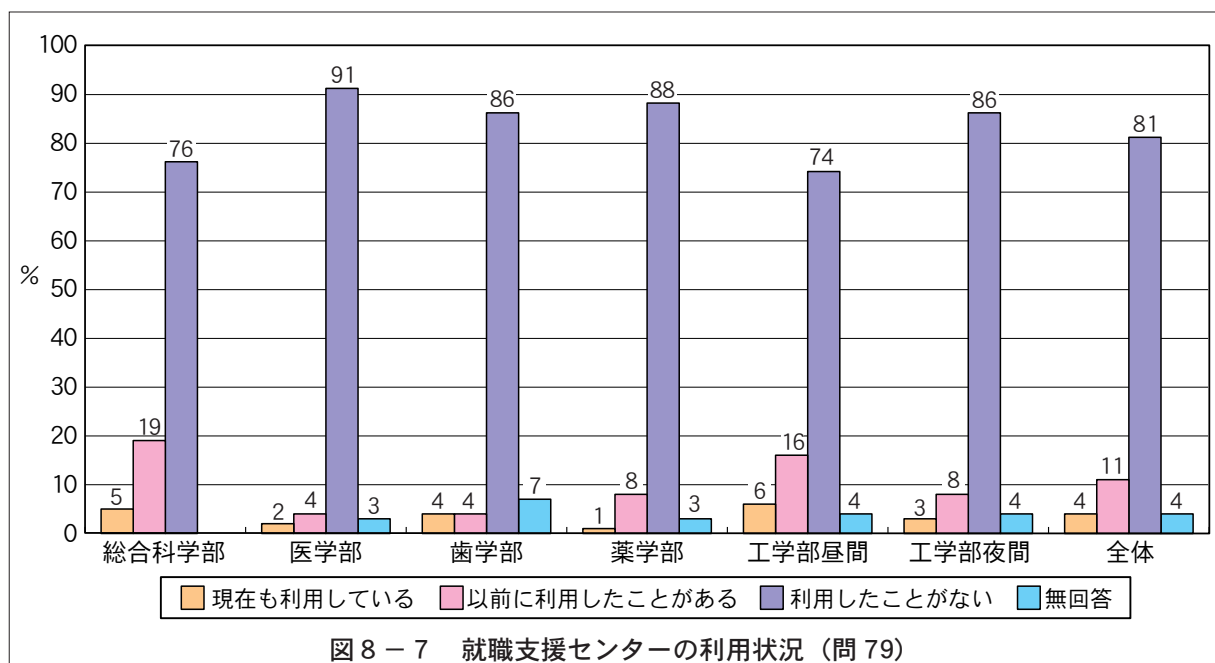
26%、(前回 27%、前々回 25%)、「無回答」3% (前回、前々回とも 3%) である。前回、前々回調査と比べてほぼ同様の傾向ではあるが、総合科学部、工学部、薬学部が「参加する」、「時間があれば参加する」と回答したものが70%を超えるのに対して、医学部、歯学部の割合は相対的に低い。これは、就職セミナーが主に一般企業希望者を対象に開催されていることとも関係するとみられるが、昨今は就職環境が厳しさを増しており、学生のより積極的な参加が望まれる。



8-7 就職支援センターの利用状況 (図 8-7)

図 8-6 は、全員に対して就職支援センターの利用状況を尋ねたものである。全体の就職支援センターの利用状況を見ると、「就職支援センターを利用したことがない」81% (前回 80%、前々回 83%) に対して「現在も利用している」「以前に利用したことがある」の合計は15% (前回 17%、前々回 14%) となっている。全学年を対象としているため、利用した事がない割合が際立っているが、利用状況は横ばいである。

各学部別に「現在も利用している」、「以前に利用したことがある」の合計を前回調査と比較すると、総合科学部 24% (前回 42%、前々回 31%)、工学部昼間 22% (前回 22%、前々回 16%)、工学部夜間 11% (前回 13%、前々回 21%) で、医学部、歯学部、薬学部は 10% 未満であった。ただし、就職活動



期にあたる総合科学部3年生で42%、同4年生では63%、工学部昼間3年生で27%、同4年生でも39%が「現在も利用している」「以前に利用したことがある」と回答している。平成23年度は就職活動が12月1日解禁となったため、本アンケート実施時期での3年生の利用率は低かったものとみられる。

なお、就職支援センターではすべての卒業・修了予定者に対して冊子『就職の手引』やパンフレット「就職活動スタート」を配付し、希望学生には携帯電話登録で就職セミナーや求人情報を提供している。平成20年10月からは、常三島地区に加えて蔵本地区でも就職相談を週1回開催している。就職支援センターを直接利用しなくても、間接的にこうしたサービスを受けている学生は数多いとみられる。

第9章 学部の現状と課題

9-1 総合科学部

総合科学部は、人間文化学科（一学年100人）、社会創生学科（一学年100人）と総合理数学科（一学年65人）の3学科体制をとり、教員129名がその指導に当たっている。

今回の調査において、総合科学部の調査票回収率は38.2%で、全学部中最も低かった。この大きな原因として、調査実施時点（年度後期）で3・4年学生を対象とする必修科目授業がすべて終了しており、これらの学生に調査票を十分配布する機会がなかったことが挙げられる。しかし、現状では調査実施時期を年度前期に変更することは困難であり、同様の事態が今後とも続くと考えられるため、データの信頼性を高めるために別途何らかの手立てを講じる必要があるであろう。

とはいえ、今回得られたデータに日頃見聞きする学生の状況を加えて解釈することで、学生生活における傾向を大きく誤ることなく把握できるものと考えられる。

「住居・通学について」では、県内出身者の比率の高さを反映してか、自宅通学者が学内最高の40%を占める。家賃は、工学部学生の場合と似た傾向を示し、5万円未満が91%を占める。通学方法も、自宅通学者の高さを反映してか「バス・JR」が学内最高の17%を占める。

「収入・支出について」では、家庭の年間所得において500万円未満が35%であり、ほぼ大学全体の平均に等しい。授業料免除状況では、そもそも「授業料免除制度を知らなかった」とする者が学内最高の18%を占め、学生に対して制度を周知徹底させることが課題となっている。

保護者等からの援助額は「3万円未満」が31%と前回調査と同じであるが、この比率は工学部夜間に次いで高い値である。1か月の平均支出額（自宅外通学者）も「5万円未満」が55%を占め、1か月の食費（自宅外通学者）も3万円未満が学内最高の85%を占めている。また、勉学に負担となり始めると考えられる「5～15時間未満」のアルバイトを45%の学生が行っており、これは薬学部、工学部昼間に次ぐ値である。このため、アルバイトによる勉学への支障が危惧されるが、大部分の学生は「支障は生じていない」と考えているようである。これらの数値からは、食費や住居費を切り詰めながら、「生活費・学費」と学生生活を豊かにするための「レジャー・旅行費」をアルバイトで補おうとする学生の姿が覗える。

「健康状態について」では、睡眠時間、喫煙傾向に他学部との大きな違いは認められない。1回あたりの飲酒量で「3合以上4合未満」の高い比率が目立つが、他方、喫煙、飲酒をしない学生の比率も他学部と比べて相対的に高い。

「学生生活上の問題点」では、大学生生活の意義を「勉強や研究」に見いだす比率が学内最下位の30%であり、これにサークル活動の12%（学内最高）を加えて、両者の合計（42%）がようやく大学全体に於ける両者の合計（43%）にほぼ等しくなる。これは、専門での研究が本格化する3・4年学生の回答数が少なかつたためであると考えられるが、学部専門教育の水準を維持することが学部にとって必須であることは言うまでもない。

「就職や進路」について悩む比率が、男子、女子それぞれ23%、29%と学内最高であり、学部全体で見ても学内最高の27%に達している。これらは、将来の選択肢が多様な本学部の性格自体から来るものとも考えられるが、学生への様々な情報提供、相談窓口を通じたきめ細かい対応が、今後とも必要であるといえる。

セクハラ、アカハラ、サークル内でのいじめ（嫌がらせを含む）を感じた学生は1%前後存在し、残念ながら皆無ではない。また、悪徳商法、いたずら電話（女子学生の7%）、ストーカー（女子学生の

3%)の被害があった。また今回の調査では「カルトの勧誘」を受けた者が学内最高の8%に達したことが判明した。67%の学生は、迷惑行為を受けた際の相談先として友人を選んでいるが、専門的な対処を必要とする場合もあり、大学・学部側の様々な啓発・相談活動が今後とも求められている。

犯罪被害の内容は、盗難が1位であり、被害の場所は他学部と同様大学構内が最も多い。

「修学状況について」では、総合科学部を選んだ理由として、最も多い「国立大学だから」(29%)を除けば、「地元の大学だから」(19%)、「ただ何となく」(4%)、「その他」(5%)の合計が28%に達する。他方、「希望する学部・学科があったから」と積極的な姿勢を示した学生は17%にとどまる。意欲の高い学生の比率を高めるために、学部としての教育方針とその効果をより鮮明に受験生に示す努力が引き続き求められているといえよう。

所属学部への満足度では、「満足している」および「ほぼ満足している」の合計が62%で、大学全体の両者の合計(65%)にほぼ等しいが、授業への満足度では、積極的に「満足している」と答えた者が学内最下位から2番目の10%となっている。授業に「やや不満足」および「不満足」の合計が大学全体のそれらの合計にほぼ等しいことを併せて考えれば、如何に授業の満足度を引き上げるかが今後の課題といえよう。

「オフィスアワー」の存在は80%の学生に知られている。図書館は、月2,3回程度利用する学生まで含めると、本学部の学生により各学部の中で最もよく利用されている。

「課外活動について」では、「サークル加入状況」が他学部と比べて高い比率を示している点や、学生行事への参加意欲が高い点については、冒頭に述べた3,4年学生からの調査票回収率の低さが影響した可能性がある。また、アルバイトを続けながらサークルに参加しようとする傾向が見られる点については、近年の厳しい就職状況の中で、人的・情報ネットワークを少しでも広げたいという学生の希望の表れ、とも考えることができる。なお、学生行事を大学・学部側とともに充実させていこうとする学生側の自主組織も生まれつつあり、今後これらの組織との連携を強化しながら、学生側の自主性を育ててゆくことが重要な課題となっている。

大学入学後のボランティア活動では大学全体とほぼ同じ傾向が見られる。総合科学部では、学外団体との協定に基づくアドプト吉野川(吉野川清掃活動)を年3回程度、学内の自主的清掃活動(クリーン・キャンパス)を年2回、学部学生委員会の呼びかけで行ってきた経緯があり、学部としてボランティア活動の意義を重視してきた。しかし調査結果から見る限り、これらが学生の意識に顕著な変化をもたらしているとは言えず、また従来の実施体制に対して疑問が呈されることも多い。先に触れた教育方針の明確化の必要性が高まる中で、今後これらをどのように学部教育の中に位置づけ実施してゆくのが問われる段階に来ているのではないかと考えられる。

「進路・就職について」では、進学希望者が18%いるが、学部全体の毎年の実績(10%~20%強)に見合った水準となっている。このことは、入学後から進学を目標とする学生たちが学部で一定数存在し続けていることを示しているのかもしれない。就職をめざす学生の希望職種は、公務員、総合職・営業職、事務職、教育職で71%を占め、このうち25%を占める公務員を除けば、これらの職種を希望する比率はほぼ等しい。就職先の選択で重視するものとしては、「就職先の将来性・安定性」(28%)、「人間関係のよいこと」(20%)、「収入」(19%)、「能力を発揮できること」(15%)である。地元出身者の比率の高さを考えれば、「勤務先の地理的条件」(9%)が重視されていないのは意外であるが、組織内の一員として安定した生活を求める学生が多いと言えよう。他学部と比べて就職活動が進路決定に大きな影響を及ぼすと考えられるにも拘わらず、就職支援センターの利用は他学部並みに低調であり、学生自身の意識改革も必要と考えられる。

9-2 医学部

医学部は、医学科、栄養学科、保健学科の3学科から構成されており、各々の学科の回収者数と回収率は、医学科540人(87.9%)、栄養学科173人(86.5%)、保健学科345人(65.7%)であり、医学部全体では1,058人(79.0%)であった。大学全体の回収率(61.9%)と比較すると回収率はよくなっている。特に、医学科は前回調査に比べ3.3ポイントよくなった。

また、医学部は、蔵本地区の他の学部と同様に、卒業時に国家試験(医師、管理栄養士、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、保健師等の国家試験)を受験して免許を得て、卒業後はそれぞれの専門職に就く学生がほとんどであり、在学中も目的意識を持って学習している学生が多い。これらの点を考慮して以下に現状と課題を考える。

「住居・通学について」では、自宅通学の割合は、前回調査30%とほとんど変化なく、地元からの受け入れができていない状況である。「通学方法」では、「自転車」が74%と全学でも一番多い。自転車に限ったことではないが通学中の事故13%と近年の自転車事故の重大性や、特に蔵本地区では病院に隣接していることからルールやマナーの徹底が必要である。

「経済的な状況」に関して、「家庭の年間収入」では、「750万円以上の収入」がある家庭が約42%で、他の学部と比較して、歯学部とともに割合が多くなっている。しかしながら、「500万円未満の収入」の家庭も25%、「250万未満」が10%と、前回調査より増えた。また、無回答が10%と一番多いことからデリケートな問題には答えたくないのか、親の収入を知らないのかも知れない。「授業料免除を知っているが申請していない」が52%もいることの原因を探るとともに、「制度を知らなかった」が11%もいることからもっと周知の方法を考える必要がある。

自宅外通学者の1か月の平均収入では、1か月に「10万円以上収入」がある学生の割合が40%を割り前回調査より減少、逆に「5万円未満」しか収入がない学生の割合が24%と、前回調査より増加して生活が苦しい学生も多いことが分かる。また、「経済的状況」では、「やや苦しい」と「大変苦しい」を合わせた割合が31%で、前回調査(37%)よりは改善しているようだ。それでも、経済的にゆとりがない学生が、他の学部と同様に多くいて、今後は、経済的に困窮している学生に対して、奨学金の受給率の向上、授業料免除の拡大などを通して、学生への経済的な支援を強化する必要がある。

次に「健康状態」であるが、「気になる症状」では、他の学部とほぼ同じ内容で、「頭痛・めまい」、「アトピー・アレルギー」、「下痢・便秘」等で、女子では「生理痛・生理不順」が一番多くあがっている。「おもな悩みと不安」では、「勉強」に関する悩みが最も多く、次いで「就職や進路」、「交友・異性関係」、「経済状態」、「自分の性格」などがあがっている。「悩みの相談相手」では、「友人」が最も多く約50%になっている。「誰にも相談しない」は男子で17%、女子で8%いて、これらの学生への対応が必要である。迷惑行為をうけたことがあるのは医学科の女子が25%と全学で一番多く、いたずら電話の被害も11%と全学で一番多い。大学内のセクハラは医学科・保健学科はゼロであるが、アカハラは栄養学科男子を除いて経験者がおり改善が必要である。また、「学生相談室があるのを知らない」は医学科、保健学科でそれぞれ19%18%もあり、機会を捉えては周知する必要がある。

「食事」では、「昼食の利用場所」で最も多いのが「弁当を購入」で32%、次いで「常三島食堂を利用」15%(1,2年生)、「自宅」13%、「蔵本会館食堂を利用」9%、「その他」29%であった。「弁当を食べる場所」は「教室」が約70%である。学生食堂を利用している学生が少なく、昼食は弁当を購入して教室で食べている学生が多いことが分かる。「学生食堂について感じていること」では、「メニューが少ない」25%、「昼食時の混雑がひどい」25%などがあり、蔵本地区の学生食堂の充実が必要と思われる。

「就学状況」では、「本学を選んだ理由」で「希望する学部・学科があったから」が30%で最も割合が

多く、これは歯学部、薬学部と同じ傾向で、その他の学部と比較して割合が多くなっている。また、「所属学部満足度」では、「満足している」、「ほぼ満足している」を合わせると79%になり他の学部と比較して満足している学生が多い。「これまでの単位取得状況」では、「全部取得できた」が81%で、他学部と比較して割合が多い。医学部では、卒業時に国家試験を受けて取得できる免許の種類や卒業後の進路（職種など）が明確であるので、本学を選ぶときから将来の職種を考慮している学生が多く、学部に対する満足度も高いことが分かる。しかしながら、「授業に対する満足度」では、「満足している」、「ほぼ満足している」を合わせた割合は59%で、全学平均の54%とほぼ同じ割合になっている。「満足できない」理由は「授業がつまらない」と「教員の工夫がたりない」が多くあがっているため、公開授業等で意見交換し、更なる努力が必要である。

「オフィスアワーの利用状況」では、医学部では「オフィスアワーについて知らない」が54%になっており、前回調査より11ポイントも増え、オフィスアワーの周知と活用法を検討する必要がある。

「課外活動について」では、「学内の文化系サークルに加入している」と「学内の体育系サークルに加入している」を合わせると割合が約70%になっており、歯学部、薬学部と同様にサークルへの加入者が多いことが分かる。「大学祭への参加」では、医学部では72%になっており、他学部と比較して積極的に参加している学生が多い。

「進路・就職について」では、「希望職種」で「専門職（医師、看護師等）」が55%になっており、歯学部、薬学部とともに卒業後の進路が明確な学生の割合が多い。「大学が行う就職セミナーへの参加」では、「参加する」や「時間があれば参加する」と答えた学生の割合が56%で全学の平均71%と比較すると少ない。これは医学部の特殊性によるものであるが、診療放射線技師、臨床検査技師などの医療系の職種に就職する学生数も多いので、これらの学生に対して病院等の医療機関についての就職情報の提供や、医療機関への就職に関するセミナーの開催などの就職支援を充実させる必要がある。

9-3 歯学部

歯学部は、歯学科と口腔保健学科の2学科から構成されており、各学科の回収者数と回収率は、歯学科199人（74.5%）、口腔保健学科58人（98.3%）であり、歯学部全体では257人（78.8%）であり、前回調査より2学科ともに回収率は良く、歯学部全体としても前回調査（67.1%）から10%以上も良く、前々回調査（76.6%）よりも高かった。大学全体の回収率（61.9%）と比較しても、歯学部の回収率は良く、学生数が徳島大学の中で最小であることも関連して、比較的まとまりが良いことを示している。

まず、「住居・通学」については、約3分の2が家族と別居して、アパートあるいはマンションを借りており、19%は自宅からの通学であり、学生の半数以上が県外からの入学生である。1か月の家賃は3万円～6万円が82%を占める。また、その住居の満足度については、「満足している」と、「ほぼ満足している」がそれぞれ45%、31%であり、概ね不満は少ない。住居の紹介・斡旋者として、不動産業者が54%と最も高く、他学部と比較して不動産業者からの紹介が徳大生協からの紹介を上回っている。通学方法は自転車が男女ともに最も多く、71%を占める。その他、11%は徒歩通学、バイクと自動車とともに7%である。バス・JRを使用している学生は4%にすぎない。通学時間は15分未満が68%、15分～30分未満が18%、30分～1時間未満が11%で、全体とほぼ同様な割合である。歯学部の学生の15%が通学中の交通事故を経験している。

「経済的な面」について、家庭の年収は750万円以上が43%であり、前回の調査結果（52%）を大きく下回っている。それでも、全学部の中では医学部とともに最も多い。一方で、500万円未満の収入の家庭は21%で前回調査（16%）と比較して増えており、現在の日本全体の厳しい経済状況を反映しているものと思われる。年収500万円未満の家庭の授業料免除状況では、「授業料免除を知っているが申請

していない」が52%と最も多く、「制度を知らなかった」の13%と合わせて、65%が免除申請をしていない。全額免除あるいは半額免除を受けている学生は合計24%で、全体とほぼ同じ割合である。自宅外通学者の1か月の平均収入額は10万円未満が61%を占めている。自宅外通学者の保護者等からの援助額については、10%が全く受けておらず、3～5万円未満の援助を受けている割合が25%と最も高いが、次いで10～15万円未満の援助を受けている学生が21%もいる。自宅外通学者の1か月の平均支出額は5～10万円程度がほとんどだが、9%の学生は支出額が3万円未満で、きわめて切り詰めた生活を送っている。1か月の食費にける支出は、2～4万円未満が60%以上を占めている。学生自身の経済状況は「ゆとりがある」が18%で、工学部夜間などと比較して高い。一方、「大変苦しい」と回答した学生は5%で、最も低かった。奨学金は56%が受給しておらず、全学部を通して約50%の学生は奨学金を必要としていないようだ。アルバイトについては、52%がしておらず、アルバイトをしている学生でも週に1日か2日程度が最も多い。1週間のアルバイト従事時間数は、47%が5時間未満である。このことは、学内臨床実習、研究室配属、学外臨床研修など、長時間の実習・研修があり、アルバイトができない状況を反映しているのかもしれない。アルバイトにける時間が比較的少ないことから、アルバイトによって勉学に支障が生じていると回答した学生の割合は15%であり、76%には支障はない。アルバイト収入としては、5万円未満が75%を占め、あまり高額のアルバイト収入を得ていない。アルバイトにおいて起きたトラブルとしては、78%に経験がなく、何らかのトラブルを経験したと回答した学生は14%である。

「健康状態」については、睡眠時間では4時間未満がどの学部にも少数いて、歯学部では2%程度である。93～95%の学生は4～8時間未満の睡眠を取っている。何らかの気になる症状を持っていると回答した学生は女子で50%以上、男子では20%程度であり、明らかな男女差が存在する。女子の気になる症状としては、生理痛・生理不順が最も多く、次いでアトピー・アレルギーと頭痛・めまい、下痢・便秘が続いている。喫煙に関しては、「喫煙歴がない」が男女とも最も高く、男子が66%、女子が93%であるが、特に男子は全学部の中で最も低い。さらに、喫煙している男子のうち、毎日喫煙している学生14%、ときどき喫煙している学生10%は全学部の中で最も多い。飲酒では、男女ともに飲酒しない学生は22%であり、他の医学系の学部と比較して高い。たまに飲酒する割合は女子で64%、男子で42%であり、他学部と比較して低い。男子で「1週間に3～4日飲酒している」が14%と群を抜いて多い。週3回以上の飲酒習慣があると回答した学生の、1回あたりの飲酒量はとくに男子で1合以上3合未満が63%を占めており、5合以上の9%も合わせて、学生の飲酒量を検討する必要がある。

「食事」について、歯学部を含む蔵本キャンパスでは昼食に弁当を購入する割合(40%)が高く、蔵本会館食堂を使用する割合(15%)は低く、同食堂の不人気は未だ改善されていない。今回、調査の選択項目に生協カフェテリア「クララ」が入っていなかったため、確かなことは言えないが、その他の23%の中には少なからず、クララの常連が含まれているように思われる。

「学生生活上の問題点」では、大学生生活の意義として「勉強や研究」が35%と最も高く、次いで「豊かな人間関係を結ぶこと」や「将来を考えた資格等の取得」が13～14%を占めている。悩みと相談については、歯学部の男子の39%は「ない」と回答しており、他学部男子と比較して飛びぬけて高い。悩みの内容としては勉学がやや高い割合を示している。一方女子では「ない」と回答した学生は12%と他の学部とほぼ同じである。悩みの内容としては、「勉学」が21%と最も高く、次いで「就職や進路」の18%が続く。相談相手としては、男女ともに「友人」が約50%を占めている。「誰にもしない」と回答した男子が22%と高く、今後はメンター制度の充実を図り、教員が相談相手となれるようにしていく必要がある。迷惑行為として、悪徳商法やストーカーなどの被害を受けたことのあるのは2～3%程度である。大学内でセクハラやアカハラの被害についても1～3%である。カルトの勧誘は3%程度見られることから、今後も学生委員会等がカルト勧誘の危険性について学生に周知徹底していかなくてはならない。

一方、迷惑行為を受けた際の相談先は、前述の悩みの相談先と同様、「友人」と回答した学生が50%を占めている。学生相談室は88%の学生が利用していない。

教職員・友人との交流について、教員との会話あるいは質問を7回以上したことがある学生が42%と最も多く、薬学部に次いで高い割合を示している一方で、教員との交流を全くしたことのない学生も10%いる。歯学部では4月入学直後の新入生合宿研修において教員との交流を持っているはずだが、6年制学部・学科の1年生のうち21%は教員との交流なしと回答している。学生の65%は親しい友人を、29%は親しい教職員を持っているが、わずかながら親しい教職員や友人を持っていない学生がいることから、このような学生に必要な支援を提供する体制の構築が必要である。大学事務室の対応について、ほぼ満足していると感じているのは33%だけで、ほぼ3人に1人は何らかの不満を感じていることになる。

盗難等犯罪被害としては、約20%が被害に遭っている。被害の種類としては、男女とも盗難（男子21%：女子7%）が最も多く、女子では次いで痴漢（3%）が多い。盗難等犯罪被害を受けた場所は男子では大学構内が37%で最も高いのに対し、女子は痴漢被害に関連して路上が33%で最も高い。

「修学状況」では、本学を選んだ理由として「希望する学部・学科があったから」が30%と最も高く、次いで「国立大学だから」が25%、「地元の大学だから」が14%である。これは医学部、薬学部と同じ傾向である。また、所属学部満足度としては、「満足している」、「ほぼ満足している」を合わせると65%であり、前回調査（71%）よりもやや低いものの、ほぼ3人に2人は満足していることになる。一方、何らかの不満を抱いているのは12%である。単位取得状況については、「全部取得できた」が68%で最も高く、「ほとんど取得できた」の26%を合わせると、94%の学生がほぼすべての単位を取得している。また、授業出席状況では、90%がほとんど出席しており、ほとんど出席していない学生はいない。授業欠席理由としては、50%が「勉強意欲がわからない」、7%が「授業に魅力がない」としている。一方、「授業が理解できない」14%については、学生の質の低下問題もあり、不安を覚える。授業満足度については、ほぼ満足しているが60%であるのに対し、不満足と感じているのは9%で、前回調査とほぼ同じ結果である。不満な理由として、「教員の教え方に工夫が足りない」、「授業内容がつまらない」がそれぞれ33%、31%で最も高い。一方で、授業の予習復習を真面目にやっている学生は皆無であり、予習復習にかかる時間は2時間未満が70%以上で、実際にはほとんど予習復習をしていない。最近の授業では、教員が授業のレジメを用意し、少しでも記録する時間を減らして、聞く時間を増やし、理解を深める努力をしている。その一方で、学生はレジメさえもらえば、試験は乗り切れると思うのか、授業を真面目に聞かない傾向があるようにも思える。カンニングについて、経験があるのは10%であり、他学部でもほぼ同様の割合である。

「オフィスアワーの利用状況」として、「利用したことがある」のは41%で最も高く、他学部と比較して群を抜いて高い。また、「オフィスアワーがあるのは知っているが、利用したことはない」の30%と合わせて、約70%はオフィスアワーの存在を知っている。オフィスアワーを利用しない理由としては、「教員に相談するのが面倒である（25%）」を除くと、「講義内容を十分理解できるのでその必要がない」など肯定的な理由が多い。図書館の利用回数は月1回程度が30%で最も高く、利用している学生は62%を占めるのに対し、「利用しない」学生が18%いる。図書館を利用しない理由としては、「図書の貸し出しや返却が面倒」が31%と高い。

「課外活動」として、学内の文化系あるいは体育系サークルに加入しているのは73%であり、加入していない20%を大きく上回っている。サークルに加入しない理由は、「魅力的なサークルがない」の26%が最も高く、次いで金銭的な問題や学業の妨げを挙げている。新入生歓迎行事に参加しているのは40%、不参加は31%で、ほぼ同数である。大学祭への参加は60%、不参加は33%であり、医学部、総合科学部とともに参加が不参加を上回っている。ボランティア活動は76%に参加経験がない。

「進路・就職」については、歯学部の場合、その進路情報の入手手段は限られており、とくに指導教員や先輩・知人で50%以上を占めている。72%の学生が就職を希望しており、進学希望は16%しかいない。これは歯学科において、卒後1年以上の研修が義務づけられているため、進学がゼロであることを反映している。希望職種は専門職が57%で、医学部、薬学部とともに卒業後の進路が明確な学生の割合が高い。歯学部では以前より、就職支援室の利用は殆ど無く、歯学部独自の研修医マッチング説明会や卒業生・開業OBによる就職説明会を開催している。また、同窓会主催の懇親会に6年生が参加し、全国各地の支部会員に直接各地の歯科医需給状態などを聞くことが出来る機会を設けている。今後も、このような歯学部独自の就職支援活動は同窓会、後援会の協力を得ながら継続していく予定であるが、とくに口腔保健学科の学生の就職支援については今後、就職支援センターの助けが必要となってくるかもしれない。

9-4 薬学部

薬学部は、薬剤師養成のための専門教育を行うことを目的とする6年制の「薬学科」と、創薬・製薬科学の研究者養成のための専門基礎教育を行うことを目的とする4年制の「創製薬科学科」で構成されており、平成18年4月の両学科設置以来、すべての学年が揃ってのはじめての学生生活実態調査となった。薬学部では入学試験において両学科を一括募集し、3年次後期(10月)から各学科に配属することとしている。したがって、今回の調査対象者は薬学部共通学科171名(1~2年次)、薬学科162名(3~6年次)、創製薬科学科71名(3~4年次)の合計404名であり、調査票の回答数は薬学部共通学科42名、薬学科140名、創製薬科学科58名であった。薬学部全体での調査票回収率(59.4%)は、前回調査の50.5%ならびに前々回調査の36.3%を上回る結果となった。しかしながら、薬学科(今回86.4%、前回48.3%)と創製薬科学科(今回81.7%、前回50.0%)の回収率が大きく向上したのに対し、薬学部共通学科の回収率は前回調査の51.9%から今回の24.6%へと大きく低下した。したがって、調査結果には薬学部高学年の学生の考えがより多く反映されていることを考慮して、現状と課題を分析する必要がある。今回の調査にあたっては、各研究室単位で回答用紙(マークシート)の回収を実施したことが研究室配属学生(3年次以上)の調査票回収率の向上に結びついたと考えられる。しかしながら、薬学部共通学科(1~2年次)の学生の調査票回収率は思わしくなかったことから、今後の学生生活実態調査実施時にはクラス担任制度を活用するなどして、研究室に配属されていない共通学科学生にも周知徹底をはかる必要がある。

「住居・通学」について、自宅からの通学学生は19%であり、前回調査を2ポイント上回った。しかしながら、他学部と比較すると自宅から通学する学生の割合は最も低く(全学部平均28%)、県外からの入学者が多いという傾向は前回調査と同様である。通学方法としては「自転車」という回答が最も多く(74%)、通学時間は「15分未満」が73%であった。昨年度は学部、大学院を含めて通学途中での交通事故が多発(11件)したため、交通安全講習会の実施や交通安全キャンペーンへの参加などの意識喚起策を積極的に進めた。その結果、幸いにも本年度の交通事故発生件数(2件)は大きく減少した。

「収入・支出」について、1か月の平均支出額を7万円以上と回答した自宅外通学者は39%であり、全学部平均の33%を上回った。一方で、アルバイトをしていない学生(57%)は他学部と比較して最も多く、全学部平均の45%を12ポイント上回った。高学年学生の調査票回収率が高かったことを考慮すると、教育カリキュラムと関連した時間的制約が一因ではないかと考えられる。奨学金については、41%の学生が「現在受給中であり、受給の継続を希望する」と答えた。経済状況について「やや苦しい」あるいは「大変苦しい」と答えた学生は39%であり、前回調査を3ポイント上回った。したがって、奨学金や授業料免除等の経済的支援は、今後も継続して取り組むべき重要課題の一つである。なお、

「授業料免除制度を知らなかった」と回答した学生は1%（全学部平均11%）であり、薬学部において本制度の周知は概ね徹底されている。

「健康状態」について、1日の平均睡眠時間は健康的とされる「6～8時間未満」と答えた学生が男子50%、女子39%であり、睡眠不足とされる「4～6時間未満」と答えた学生が男子46%、女子53%であった。気になる症状が「特にない」と答えた学生は男子54%、女子43%で、いずれも前回調査（男子47%、女子38%）より増加した。しかしながら、多くの学生が現在気になる症状を抱えていることから、それぞれの症状に対する早期の対処法について、保健管理センターとも連携したきめ細かい生活指導の必要性が感じられる。

「食事」について、昼食の利用場所を尋ねたところ「弁当を購入」との回答（43%）が最も多く、前回調査を10ポイント上回った。一方、「蔵本会館食堂」と答えた学生は19%であり、前回調査を5ポイント下回った。今回の調査票回収率が、蔵本キャンパスに常駐する高学年学生で高かったことを考慮すると、学生の蔵本会館食堂離れは顕著であり、蔵本会館の改修を含めた全学的な施設整備計画の早期の提示と実施が望まれる。

「学生生活上の問題点」について、男子で78%、女子で82%の学生が「迷惑行為を受けたことはない」と答えており、女子の回答結果は前回調査（81%）とほぼ同様であったのに対し、男子は前回調査（93%）を15ポイント下回った。また、迷惑行為の内訳として、カルトの勧誘、悪徳商法、いたずら電話、ストーカー、大学内でのセクハラ、大学内でのアカハラ、サークル内でのいじめなどの回答があった。前回の調査結果と同様に12%の学生が「学生相談室を知らない」と答えていることから、学生相談室とも連携しながら、薬学部としてのカルト問題、悪質商法問題、薬物乱用問題などの啓蒙・啓発活動を今後も継続的に実施する必要がある。

「修学状況」について、本学を選んだ理由としては「希望する学部学科があったから」、「国立大学だから」の順に回答数が多く、前回調査と同様の傾向であり、入学時における目的意識の高さがうかがわれる。「薬学部に満足していますか」との設問に対し、「満足している」あるいは「ほぼ満足している」と答えた学生は46%（全学部平均65%）であり、他学部と比較して学部への満足度は低い。また、「授業に満足していますか」との設問に対しても、「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた回答は42%（全学部平均54%）であり、授業への満足度も他学部よりも低い結果であった。授業に満足できない理由としては、「授業内容がつまらない」が最も多く、「教員の教え方に工夫が足りない」、「授業内容が難しすぎて理解できない」の順となっている。教員はこれらの調査結果を真摯に受け止め、薬学科と創製薬科学科という修業年限の異なる学科が同一学部内に存在するという今までにない教育システムの確立へ向け、学部や授業に対する満足度が100%となることを目標とした不断の努力が求められる。なお、カンニング経験が「ある」と答えた学生は9%で、前回調査（3%）より6ポイント上回ったことから、学部全体としての厳格な取組が求められる。

「課外活動」について、サークルへの未加入率は34%であり、前回調査（27%）よりも増加しているが、これは高学年学生の調査票回収率が高かったことによる結果と考えられる。サークルへの加入や学生行事への参加は、学生教育の一翼を担う重要事項であることから、薬学部としての学部内サークルの支援策等を一層充実させるため、学生を交えた議論の場において十分に検討する必要がある。

「進路・就職」について、就職を希望する学生は65%であり、前回調査より増加した。一方、希望職種としては「専門職（医師・看護師等）」が58%で最も多くなっているが、前回調査よりは若干減少した。前回あるいは前々回調査からの就職希望者数（前回53%、前々回34%）と希望職種（専門職希望：前回61%、前々回79%）の推移を見ると、薬学6年制の導入に伴い、原則として薬剤師国家試験の受験資格が得られない4年制学科（創製薬科学科）の併設が、調査結果に大きく影響したと考えられる。

はじめにも述べたとおり、平成16年に公布された学校教育法の改正により薬剤師教育のための薬学

教育は修業年限が4年から6年に延長され、同時に、多様な分野へ進む人材育成のため4年制学科が併設されることとなった。徳島大学では、両学科を入学試験時に一括募集し、3年次後期より両学科に配属するというカリキュラムを採用している。このような大きな変革期にあつて、学部学生を対象とした学生生活実態調査の貴重なデータを有効に活用し、より良い修学・生活環境を構築するための実効性のある学生支援体制の充実に務めなければならない。

9-5 工学部

「住居・通学」について、工学部学生の1ヶ月家賃は、他学部比べて4万円未満とする学生の割合が多く（昼間58%、夜間63%）、安い住居を利用している。中でも、夜間の学生は、3万円未満の学生が20%と、特に安い住居を利用している。ただし、満足度自体は、他学部とも大きな差はない。これは、家庭の年収を反映している。

「収入・支出」について、工学部夜間では、年収が250-500万円未満と回答した学生が38%と、他と比べて非常に多い。また、750万円未満とする学生は、夜間で78%、昼間で66%と、医学部の48%、歯学部の51%と比べると大きく上回っている。また、工学部夜間では、保護者からの援助が全くないと回答した学生が32%であり、他学部の3倍程度の多さとなっている。このため、工学部夜間での授業料半額免除を受けている学生が、22%と他学部を上回る結果となっている。1週間当たりのアルバイト時間も、工学部夜間では10時間を超える学生が72%であり、また、工学部昼間の学生も56%が10時間を超えて就業している。これらの割合は、医学部、歯学部、薬学部よりもはるかに多い。こうしたことを反映してか、アルバイトによって勉学に支障が生じていると回答した学生は、工学部夜間・昼間で、他学部よりも若干高くなっている。

工学部学生に対しては、勉学とアルバイトとの時間の使い方等について、適切な助言を行なっていくことが必要である。また、工学部夜間では、授業料免除制度を知らなかったとした学生が他学部よりも多く、オリエンテーション等の時間を使って、周知徹底していく必要がある。また、大学としては、こうした経済的不均衡を考慮しながら、学内での奨学金の配分方法等について検討していく必要があるだろう。

「健康状態」について、工学部夜間女子で、睡眠時間が4時間未満と短い学生が多いこと、また、頭痛・めまいが気になると回答した学生が多いこと等、若干の気かりはあるものの、工学部学生の健康状態を損なうような要因が、他学部と比べて特に多いと思われるものはない。喫煙する学生は多くはなく、また、数%の学生は喫煙をやめている。分煙のしくみなど、引き続き徹底していくことが肝要だろう。

「食事」について、常三島地区では、SanjoやEmireなど軽食店が設けられ、若干の分散が図られているものの、工学部では依然として第1食堂の昼間の混雑に不満を持つ学生が多い。14%の学生は第2食堂を利用しているが、別途のヒアリングでは、第2食堂のメニューに対する不満も聞かれた。特に低学年は、限られた時間の中で昼食をとる必要があり、昼食時の混雑の軽減方策は、学生生活を快適にするためにも検討し続ける必要がある。

「学生生活上の問題点」について、「勉学」、「就職や進路」、「交友・異性関係」など、多くの学生が何らかの悩みを持っている。工学部では“学びの相談室”を設置し、学生相談室等との橋渡しを行なっているが、学生相談室等の利用は少なく、友人が主な相談相手となっている。また、1/4程度の男子、1/8程度の女子は、悩みを「誰にも相談しない」としている。教員との会話・質問を4回以上したことがあると回答した学生は、夜間で21%、昼間で34%と、他学部と比べて少なくなっている。そして、夜間の10%、昼間の8%は親しい教職員も友人もいないと回答している。教員側からも、学生に積極的に働

きかけ、学生にとって相談しやすい存在となるよう努力していく必要があるだろう。

「修学状況」では、大学生生活の意義について、工学部昼間では18%、夜間では11%が「趣味・娯楽」と回答している。また、「ただ何となく」、「特に重点もなく程々に」と回答した学生は、昼間で21%、夜間で22%となっている。すなわち、30～40%の学生が、「勉学や研究」に重きをおけていない状態である。

工学部学生の入学動機は、「国立大学だから」と「地元の大学だから」という回答が多い。これは、家庭の経済的状況を背景としたものであると思われる。満足度は他学部と比べてもそれほど低くはないが、単位修得数や授業への出席状況は、他学部よりも劣っている。授業に満足していない学生は12～13%程度であるが、その理由として「難しすぎる」との回答が他学部よりも多い。

工学部では、「志望する学部・学科があったから入学してきた」とする学生が少ないことを前提とし、「勉学や研究」への動機・意欲を向上させるための取り組みが必要であろう。

「課外活動」について、工学部夜間の学生のサークル加入率は、アルバイトのために時間的余裕がなく、他学部に比べてかなり低い。昼間学生の加入率も若干低いが、それを説明する際立った理由はみつからない。また、工学部学生は学生行事への参加率も、他学部に比べて低い傾向がある。「悩みを相談する人がいない」とする学生が多いということも鑑み、サークルや学生行事への積極的な参加を通じたコミュニケーションの場づくりを支援することも考える必要があるだろう。学生行事に関しては、実行委員会の企画・運営能力の向上をサポートすることで、行事を学生全体にとって魅力あるものとし、学生全体の参加意欲の向上を図っていくという道筋が考えられる。

「進路・就職」について、就職先を考える上での情報は、インターネットを通じて得ると回答した学生が最も多く、次いで、新聞・就職情報誌、就職担当教員であった。多くは技術職を希望する学生が多いのが特徴である。大学が行う就職セミナーや就職支援センターの積極的な利用は少ない。技術職を希望する学生の要望に合ったセミナーの企画や情報の充実を検討する必要があるかもしれない。ただ、工学部では各学科で就職担当教員が配置されているため、きめ細やかな対応が行えているものと思われる。

第10章 総括と提言

第25回学生生活実態調査は、本学に在学する学部学生全員（5,854人）を対象として実施し、3,625人から回答を得た。回収率は61.9%で、前回の54.4%よりは上がったが、第22回（71.4%）、第23回（67%）には及ばなかった。実態の正確な把握には高い回収率が必要なので、この回収率をあげる工夫が求められる。調査項目は、「基本的事項」、「住居・通学」、「収入・支出」、「健康状態」、「食事」、「学生生活上の問題点」、「修学状況」、「課外活動」、「進路・就職」の9項目で、過去の調査との継続性を考慮しつつ若干の変更をおこなった結果、今回の総設問数は79問となった。

今回の調査結果から把握した学生生活の現状と問題点を整理し、全学的な立場から学生生活支援をおこなうために、以下の総括と提言をまとめた。

1. 住居・通学について

住居及びその斡旋業者の選択について、大学としてあまり関与できるところはない。問題は11%の学生が通学中に何らかの交通事故に遭っていることである。被害者になる場合も重大だが、加害者になる場合もあり、特に、約70%の自転車通学者については保険加入のことも含め交通安全に関する指導を強化する必要があるだろう。

2. 経済状況について

学部間の違いはあるが、家庭の収入が250万円未満というのが約10%で、これに対応するように「生活が大変苦しい」という学生も約10%存在する。

この割合は、前々回、前回の調査とほとんど同じである。例年と同じ提言になるが、授業料免除の対象を広げたり、希望者には各種奨学金の情報がきちんと伝わるようにする必要がある。

3. 健康状態について

約40%の学生が何らかの健康上の悩みを抱えている。これも例年と同様である。悩みがあるのは仕方がないことなので、その対処法が大学にあること、あるいは解決の手伝いをする仕組みが大学にあることをしっかり知らせることが大事であると思われる。要するに保健管理センターや学生相談室の存在をきちんと知らせることにつける。それと同時に、大学では自分から解決に向けて行動しないといけないということを学生にも認識させる必要がある。喫煙する学生は着実に減少している。キャンパス内の禁煙区域は広がっているが、最終的には構内全域禁煙を目指すべきであろう。

4. 食事について

朝食をほとんど取らない学生が約20%いるという状況は、前回、前々回とほとんど同じである。これについては生協食堂からの協力もあるのだが、なかなか改善しない。当人も自覚するような顕著な障害が現れないためであろう。家庭での習慣もあり、大学としてどこまで関与できるか、またすべきかから考えるほうがよいと思われる。

昼食時の混雑の緩和については、時間割の組み方等工夫できる部分もあると思われる。ただ、それだけのために本来の授業に影響が出て問題で、解決は難しい。蔵本キャンパスの食堂の改善は長い間言われ続けている。現在働いている人達の雇用の問題等もあり、なかなか改善されないのにはそれなりの理由があるが、もう大学の役員会できちんとした方針を出していただいてもよい時期だと思う。

5. 学生生活上の問題点について

学生生活の意義を「勉強や研究」におく学生が若干増え、望ましいと言える。もっとも、「ただ何となく」というネガティブな回答も相変わらず6%ほどいて気になるところである。

何らかの迷惑行為を受けたことがある学生も相変わらず20%ほど存在するが、これは学生側の問題ではないので、対処法をしっかりと伝えておくしかない。「クーリング・オフ制度」を知らない学生がいなくなるように、オリエンテーションでの周知が必要である。同様にセクハラ・アカハラも、根絶すべく、大学として取り組んでいかなくてはならない。悩みや問題があっても誰にも相談しない学生が相変わらず30%ほどいて、この中には相談しさえすれば何らかの解決法が見つかるものもあるはずで、これもどういう相談先があるか、繰り返し知らせるようにしなくてはならないだろう。学生相談室があることを知らない学生が約15%いるというのも、毎回ほとんど変わらないが、根気よく宣伝を繰り返すしかないだろう。

6. 修学状況について

出席状況のあまり芳しくない学生が10%程度いるのが問題である。出席を厳しくとって、出席を促すことは、学生の生活リズムを維持させる上でも役に立つのではないと思われる。これと符合するように、授業に満足していない学生も約10%。授業に不満をもっている割合が高いが、これは教師のせいばかりとは言えない。大学で学ぶとはどういうことかを、教師側からきちんと認識させる必要がある。カンニングをしたことがあるという学生が約10%いるというのも問題である。不正行為をしてはならないという意識を持たせると同時に、試験を実施する側もカンニングさせない態勢をきちんと整えておく必要がある。

7. 課外活動について

約30%の学生が課外活動を行っていないが、これが特に問題とは思われない。ここ数年で常三島地区の環境整備が進んだのに対して、蔵本地区の整備が遅れているように思われる。体育館等の整備も進めて欲しい。調査には出てこないが、本学の体育会系サークルの成績は、四国地区内でさえ必ずしもよくない。各サークルの強化をして、成績が上がればまた良い効果も現れるのではないだろうか。各サークルの指導教員の努力を期待したい。

8. 進路・就職について

就職支援室が就職支援センターとなって、態勢が強化されたが、その利用率は必ずしも上がっていない。学生相談室などの場合とも共通して、近年の学生にはこういうシステムを活用する力が乏しいのではないかとも思われる。本学の学生の質をどのように整えていくか、これは教育の内容とも関係している。講義室で、実習で、あるいはセミナーで、どこまで彼らのやる気、積極性をもたせるようにできるか、教員が考えるのはもちろんだが、学生自身にもどうすべきか考えさせなくてはならないだろう。

学生支援室としては、今回の調査結果が徳島大学における学生支援に適切に反映されるよう願っている。

あ と が き

この学生生活実態調査は昭和28年に初めて実施されて以来、およそ60年の歴史をもっています。第1回から21回までは抽出した3割の学生を対象としていました。これが学部生全員を対象とする形になったのは平成16年の第22回調査からです。今回の回収率は約60%でしたが、これは本学学生の現状を解析するのに十分と考えられます。

序章にあるように、この調査の目的は「今後の福利厚生等の改善及び修学支援に資する基礎資料を得ること」です。約80の設問に対する回答もほぼ一定の傾向を示し、本学の状況はある程度定まっている感じがします。つまり、調査しても何も変化していないのではないかという見方もできます。調査によって何が改善されたか、を検討する必要があります。また、今回は設問に大きな変更を加えませんでした。大学として何ができるか、何をすべきかという観点に立つと、設問の項目はもっと吟味される必要があるのではないのでしょうか。

個人的なことになりますが、私は全学部生を対象とした第22回の調査にも関わりました。その時は生のデータを冬休み前に渡され、それを休日返上で、エクセルで解析するという大変な目に合いました。その後、データのまとめ、グラフの作成は外注となり、その点は楽になりましたが、それでもそれを読み解くには時間と労力を要します。その意味で、この報告書の作成にあたってくださった委員の先生方に、まずお礼を申し上げたいと思います。さらに、この作成を支えてくださった学生生活支援課の事務職員の方々にお礼を申し上げます。そして調査に役立ててくれた学生諸君にも、勿論 お礼を言いたいと思います。この実態調査報告書が、徳島大学の学生のために真に役立つことを願ってやみません。

平成24年3月

学生支援センター 学生生活支援室長
石 村 和 敬



徳島大学は、学校教育法第69条の3
第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、
「大学評価基準を満たしている」と認定されました。
(平成19年3月28日)
・認定評価機関：独立行政法人大学評価・学位授与機構
・認証期間：7年間（平成19年4月1日～平成26年3月31日）

第25回学生生活実態調査報告書

キャンパスライフ

25thTokushima Univ. Campus Life

平成24年3月

徳島大学